

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	カクコホクジン ダイダクガクエン 学校法人 大同学園									
フリガナ大学の名称	ダイダクガク 大同大学									
大学本部の位置	愛知県名古屋市中区滝春町10番地3									
大学の目的	教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	建築学部は、豊かな教養及び建築学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、建築学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	建築学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次			
	建築学科	4	190	—	760	学士（建築学）	令和6年4月 第1年次	名古屋市南区滝春町 10番地3		
	計		190		760					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	工学部 建築学科(廃止) (△190) ※令和6年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	建築学部 建築学科	講義	演習	実験・実習	計					
		161 科目	77 科目	28 科目	266 科目	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		
	新設	建築学部 建築学科		人	人	人	人	人	0人	人
				(10)	(8)	(1)	(0)	(19)	(0)	(91)
	分	計		10	8	1	0	19	0	91
				(10)	(8)	(1)	(0)	(19)	(0)	(91)
	既設	工学部 機械工学科		8	4	0	0	12	0	15
				(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(15)
		機械システム工学科		7	3	1	0	11	0	22
				(7)	(3)	(1)	(0)	(11)	(0)	(22)
電気電子工学科		8	1	0	0	9	0	20		
		(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(20)		
情報学部 情報システム学科		8	2	1	0	11	0	21		
		(8)	(2)	(1)	(0)	(11)	(0)	(21)		
情報デザイン学科		8	1	2	0	11	0	40		
		(8)	(1)	(2)	(0)	(11)	(0)	(40)		
総合情報学科		5	3	0	0	8	0	27		
		(5)	(3)	(0)	(0)	(8)	(0)	(27)		
教養部等		14	4	1	0	19	0	82		
		(14)	(4)	(1)	(0)	(19)	(0)	(82)		
分	計		58	18	5	0	81	0	227	
			(58)	(18)	(5)	(0)	(81)	(0)	(227)	
合計		68	26	6	0	100	0	318		
		(68)	(26)	(6)	(0)	(100)	(0)	(318)		

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		49 ( 49 )	14 ( 14 )	63 ( 63 )				
	技 術 職 員		25 ( 25 )	10 ( 10 )	35 ( 35 )				
	図 書 館 専 門 職 員		3 ( 3 )	0 ( 0 )	3 ( 3 )				
	そ の 他 の 職 員		0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )				
	計		77 ( 77 )	24 ( 24 )	101 ( 101 )				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	66,133.46㎡	— ㎡	— ㎡	66,133㎡	【借用地・専用】 5,211.83㎡ 貸与者： 名古屋港管理組合 借用期間： 平成10年9月1日 から40年間 【共用する他の学校】 大同大学大同高等学校 (収容定員1,440人) 運動場基準面積：8,400㎡			
	運 動 場 用 地	29,890.00㎡	16,061.85㎡	6,628.53㎡	52,580.38㎡				
	小 計	96,023.46㎡	16,061.85㎡	6,628.53㎡	118,713.84㎡				
	そ の 他	21,546.72㎡	— ㎡	— ㎡	21,546.72㎡				
	合 計	117,570.18㎡	16,061.85㎡	6,628.53㎡	140,260.56㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	30,662.99㎡ (30,662.99㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	30,662.99㎡ (30662.99㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	65室	11室	200室	18室 (補助職員一人)	0室 (補助職員一人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 建築学部建築学科		室 数 19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	建築学部建築学科	32,976 [4,808] (32,976 [4,808])	426 [166] (426 [166])	4 [0] ( 4 [0] )	99 ( 99 )	476 ( 476 )	0 ( 0 )		
	計	32,976 [4,808] (32,976 [4,808])	426 [166] (426 [166])	4 [0] ( 4 [0] )	99 ( 99 )	476 ( 476 )	0 ( 0 )		
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	3,589.94㎡		382席		255,000冊				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,387.77㎡		テニスコート 2面		ハンドボールコート 1面				
経 費 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		456千円	4,56千円	4,56千円	456千円		
		共同研究費等		5,915千円	5,915千円	5,915千円	5,915千円		
		図書購入費	4,821千円	4,821千円	4,821千円	4,821千円	4,821千円		
	設備購入費	8,569千円	8,569千円	8,569千円	8,569千円	8,569千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,585千円	1,315千円	1,345千円	1,375千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、および外部企業等からの研究費、寄付金など						

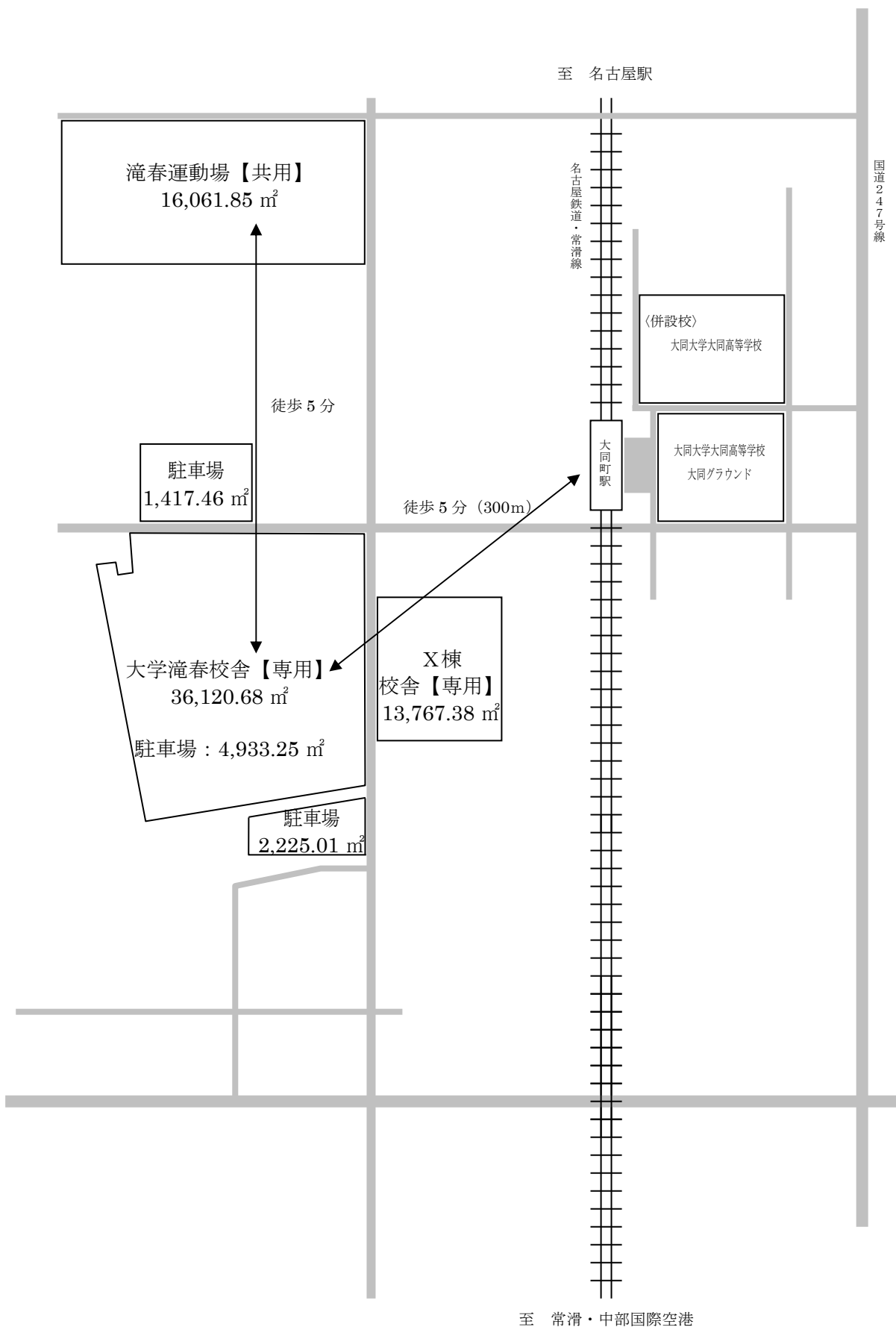
既設大学等の状況	大学の名称	大同大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	工学部	年	人	年次人	人		倍		
	機械工学科	4	120	—	480	学士（工学）	1.10	昭和39年度	名古屋市南区滝春町10番地3
	機械システム工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.10	平成22年度	
	電気電子工学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.05	昭和39年度	
	建築学科	4	190	—	735	学士（工学）	1.17	昭和50年度	
	情報学部						1.09		名古屋市南区滝春町10番地3
	情報システム学科	4	120	—	480	学士（情報）	1.11	平成20年度	
	情報デザイン学科	4	110	—	440	学士（情報）	1.14	平成20年度	
総合情報学科	4	75	—	300	学士（情報）	0.99	平成24年度		
大学の名称	大同大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
工学研究科	年	人	年次人	人		倍			
機械工学専攻（修士課程）	2	8	—	16	修士（工学）	3.00	平成2年度	名古屋市南区滝春町10番地3	
電気・電子工学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（工学）	0.91	平成2年度		
建築学専攻（修士課程）	2	5	—	10	修士（工学）	2.70	平成18年度		
都市環境デザイン学専攻（修士課程）	2	5	—	10	修士（工学）	0.50	平成18年度		
材料・環境工学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（工学）	0.22	平成7年度		
情報学研究科								名古屋市南区滝春町10番地3	
情報学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（情報）	0.58	平成17年度		
附属施設の概要	<p>名称：大同大学教育開発・学習支援センター 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3 開設年月：平成30年4月（旧大同大学授業開発センター（平成13年4月開設）と旧大同大学学習支援センター（平成15年4月開設）を統合・発展したセンターとして開設） 目的：(1) 本学、学部及び各学科が掲げる教育の目的や学位授与の方針を踏まえた人材の養成等を達成するため、本学教員が行う授業のより一層の改善、開発に資するとともに、本学教員の教育責任の遂行を支援する。 (2) 基礎学力が不足している学生に対して、大学での授業内容の前提となる高校までの学習範囲を学習指導し、正規授業の学習が達成できるよう支援する。 (3) (1) 及び (2) の取組の成果等を踏まえ、教育の改善・改革に係る企画・立案を行う。</p> <p>名称：大同大学創造製作センター 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3 開設年月：平成13年4月（平成21年4月、校名変更に伴い現名称に変更） 目的：創造製作に関する実験実習教育及び工作設備等の利用とその取扱いの指導並びに教育研究機器の試作及び加工等を行い、学生の創造性豊かなものづくりの能力の向上と教育研究の支援に寄与する。</p> <p>名称：大同大学研究・社会連携推進センター 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3 開設年月：令和4年3月 目的：本学の研究を推進するとともに、研究及び教育を通じた社会との連携を推進することを通して、研究の多様化と高度化及びより質の高い職業人を養成し、以って、大同大学学則第1条に規定する社会と産業の発展に寄与する。</p>								

## 学校法人大同学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大同大学				大同大学				
工学部				工学部				
機械工学科	120	—	480	機械工学科	120	—	480	
機械システム工学科	110	—	440	機械システム工学科	110	—	440	
電気電子工学科	90	—	360	電気電子工学科	90	—	360	
建築学科	190	—	760		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
				<u>建築学部</u>				学部の設置（届出）
				<u>建築学科</u>	<u>190</u>	—	<u>760</u>	
情報学部				情報学部				
情報システム学科	120	—	480	情報システム学科	120	—	480	
情報デザイン学科	110	—	440	情報デザイン学科	110	—	440	
総合情報学科	75	—	300	総合情報学科	75	—	300	
計	815	—	3,260	計	815	—	3,260	
大同大学大学院				大同大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
（修士課程）				（修士課程）				
機械工学専攻	8	—	16	機械工学専攻	8	—	16	
電気・電子工学専攻	6	—	12	電気・電子工学専攻	6	—	12	
建築学専攻	5	—	10	建築学専攻	5	—	10	
都市環境デザイン学 専攻	5	—	10	都市環境デザイン学 専攻	5	—	10	
（博士後期課程）				（博士後期課程）				
材料・環境工学専攻	3	—	9	材料・環境工学専攻	3	—	9	
情報学研究科				情報学研究科				
（修士課程）				（修士課程）				
情報学専攻	6	—	12	情報学専攻	6	—	12	
計	33	—	69	計	33	—	69	

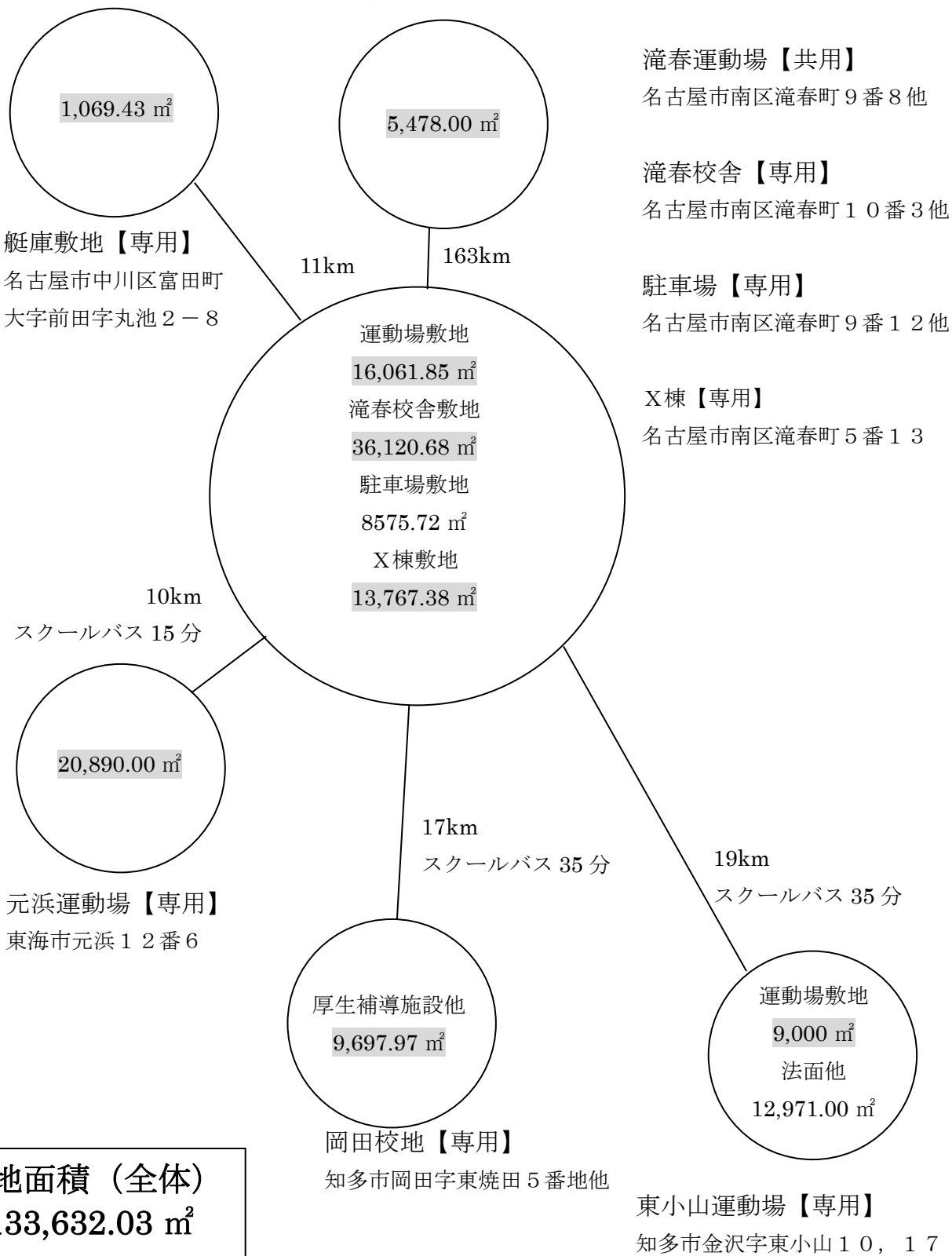


校地②（最寄り駅からの位置関係）



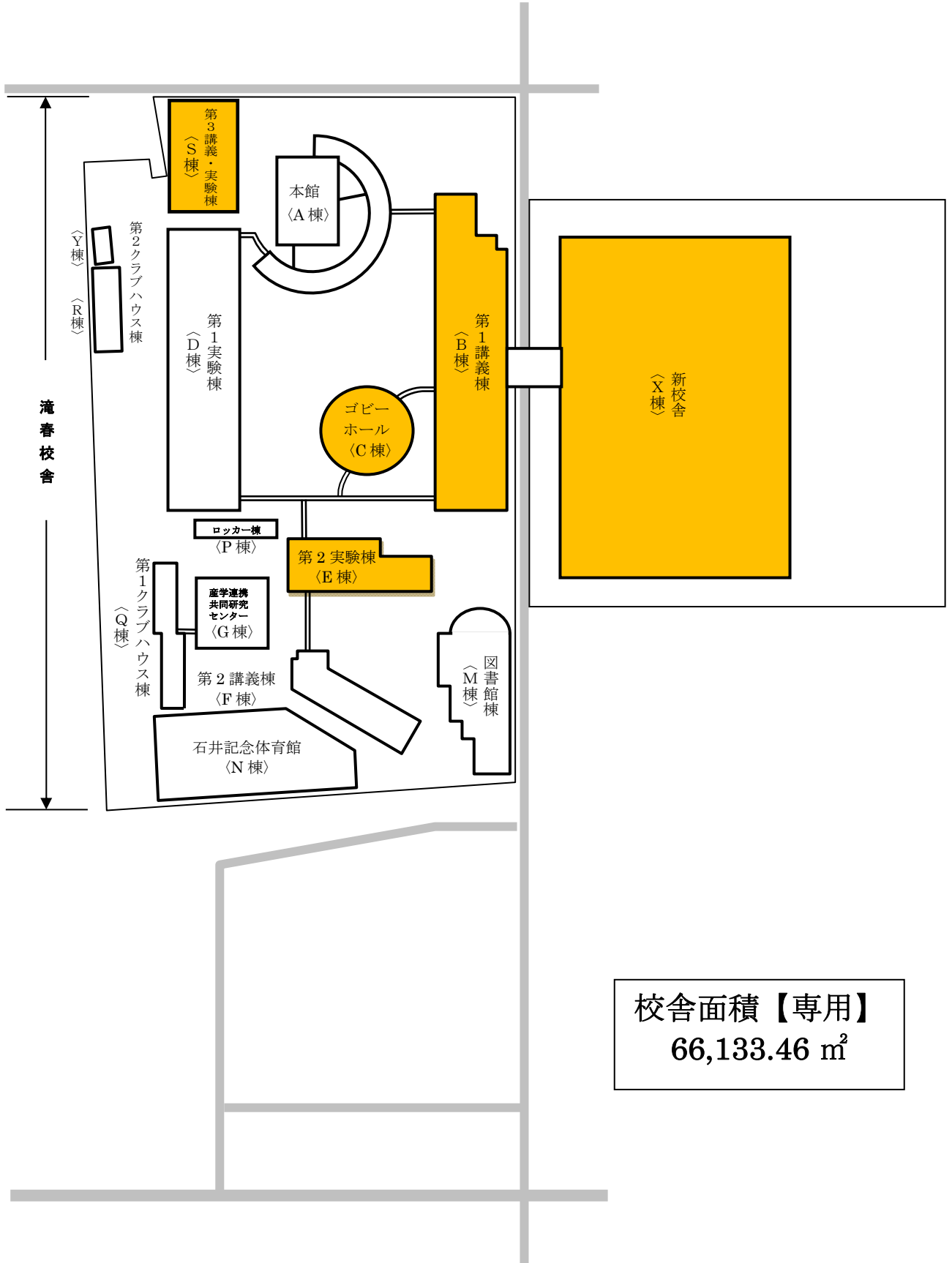
校地③（校地関係略図）

ゼミナーハウス敷地【専用】  
 岐阜県木曾郡木曾福島町  
 新開大原字東 498



校地面積（全体）  
 133,632.03 m<sup>2</sup>

④校舎配置図



校舎面積【専用】  
66,133.46 m<sup>2</sup>

# 第1章 学則

## 大同大学学則

(昭和39年4月1日制定)

### 第1章 総則

(目的)

**第1条** 大同大学(以下「本学」という。)は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

(自己点検等)

**第2条** 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

3 前2項の点検及び評価並びに認証評価に関する事項は、別に定める。

(情報の積極的な提供)

**第2条の2** 本学は、教育研究活動等の状況について、積極的に情報を提供する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

**第2条の3** 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

### 第2章 組織

(学部、学科)

**第3条** 本学に次の学部学科を置く。

工学部 機械工学科  
工学部 機械システム工学科  
工学部 電気電子工学科  
建築学部 建築学科  
情報学部 情報システム学科  
情報学部 情報デザイン学科  
情報学部 総合情報学科

2 本学の学部の目的は、それぞれ次のとおりとする。

(1) 工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

(2) 建築学部は、豊かな教養及び建築学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、建築学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

(3) 情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学

を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3 本学の学科の目的は、それぞれ次のとおりとする。

- (1) 工学部機械工学科は、機械工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、深い研究を通じて自ら学び、考え、行動できる人材を育成することを目的とする。
- (2) 工学部機械システム工学科は、機械及び周辺技術を融合した「人にやさしい機械」づくりのための教育・研究を通じて、実務で役に立つ創造性に富んだ人材を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。
- (3) 工学部電気電子工学科は、電気工学と電子工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、研究を通して電気電子工学分野の発展に貢献することを目的とする。
- (4) 建築学部建築学科は、都市環境及び生活環境の創造・生産・維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築学に関する様々な分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
- (5) 情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもつて、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。
- (6) 情報学部情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる実学的な専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる研究を通して新たな価値を創造することを目的とする。
- (7) 情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(大学院)

**第4条** 本学に大学院を置く。

2 大学院に関しては、第2条の3及び第5条から第47条までの規定は適用せず、大学院に関する学則は、別に定める。

### 第3章 修業年限及び収容定員

(修業年限、在学年限)

**第5条** 本学学部の修業年限は、4年とし、在学年限は、8年とする。

(収容定員)

**第6条** 本学の収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	収容定員	入学定員
工学部	機械工学科	480名	120名
工学部	機械システム工学科	440名	110名
工学部	電気電子工学科	360名	90名
工学部	合 計	1,280名	320名
建築学部	建築学科	760名	190名
建築学部	合 計	760名	190名

情報学部	情報システム学科	480名	120名
情報学部	情報デザイン学科	440名	110名
情報学部	総合情報学科	300名	75名
情報学部	合 計	1,220名	305名
	総 計	3,260名	815名

#### 第4章 学年、学期及び休業日

(学年)

**第7条** 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期及び授業期間)

**第8条** 学年を分けて、次の2学期とする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて学期の期間を変更することがある。

3 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

4 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合には、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(休業日)

**第9条** 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 開学記念日5月10日

(4) 春季休業3月21日から4月2日まで

(5) 夏季休業8月1日から9月30日まで

(6) 冬季休業12月21日から1月9日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 臨時の休業日は、その都度これを定める。

#### 第5章 教育課程

(教育課程の編成)

**第10条** 教育課程は、本学の学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

3 各授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に配当して編成するものとする。

(授業科目及び単位数)

**第10条の2** 工学部及び情報学部の授業科目は、人間科学科目群の科目、専門基礎科目群の科目及び専門科目群の科目とする。

- 2 各学部学科の科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表(1)、別表(1)の2及び別表(1)の3に定める。

(単位の計算方法)

**第11条** 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習(製図を含む)及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習(製図を含む)又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、その学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業の方法)

**第11条の2** 授業は、講義、演習、実験、実習(製図を含む)若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

- 4 第1項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業の一部を校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。(成績評価基準等の明示等)

**第11条の3** 授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画は、学生に対してあらかじめ明示するものとする。

- 2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

**第12条** 削除

(教職課程)

**第12条の2** 本学に、教育職員免許法に基づく教員の免許状授与の所要資格を取得するための課程を置く。

- 2 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 3 教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表(2)のとおりとする。

- 4 各学部学科において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び免許教科は、別表(2)

の2のとおりとする。

## 第6章 履修の方法及び卒業の要件等

(履修の方法)

**第13条** 授業科目の履修の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の授与及び成績の評価)

**第14条** 授業科目を履修した学生に対しては、学修状態を審査して、単位を与えるものとする。

ただし、第11条第2項の授業科目については、本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

2 授業科目の成績の評価は、当該授業科目の担当教員が行う。

3 成績は、秀、優、良、可又は不可の評語をもつて評価し、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

4 前項の規定にかかわらず、せけ及び卒業研究は、合格又は不合格をもつて評価する。

**第15条** 削除

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

**第16条** 教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、学生が本学に入学した後に他の大学又は短期大学との協議に基づき履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本学の学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

**第17条** 本学の学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

**第18条** 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が本学に入学する前に行つた前条第1項に規定する学修のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものを、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第16条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)及び前条第1項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業の要件)

**第19条** 卒業の要件は、大学に4年以上在学し、124単位以上を修得することとする。

2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第11条の2第2項の授業

の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 各学部学科の定める卒業の要件は、別に定める。

(学位授与)

**第19条の2** 本学を卒業した者に、学士の学位を授与する。

2 学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

## 第7章 入学、学籍の異動

(入学時期)

**第20条** 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

**第21条** 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育による12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により、他の大学に入学した者で、その後本学において、大学教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (9) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学志願の手続)

**第22条** 入学志願者は、指定の期間内に入学検定料を納付のうえ、入学願書等、所定の書類を提出しなければならない。

(入学試験)

**第23条** 入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

2 入学試験に関する事項は、別に定める。

(入学手続及び入学許可)

**第24条** 前条の入学試験の結果に基づき、合格通知を受けた者で、本学に入学しようとする者は、指定の期間内に入学金、授業料等を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学を許可する。

(再入学)

**第 25 条** 本学を退学した者及び第 33 条第 1 項第 4 号に定める除籍者で、再び入学を願い出たときは、選考のうえ原則として同一学科の相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定にかかわらず、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

3 再入学に関する事項は、別に定める。

(転入学、編入学)

**第 26 条** 他の大学の学生で、当該大学の許可を得て本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に転入学を許可することがある。

2 次の各号の一に該当する者で、本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に編入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学を途中退学した者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(4) 専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)

(5) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)

(6) その他法令により編入学を認められた者

3 前 2 項に定めるほか転入学及び編入学に関する事項は、別に定める。

(転学部及び転学科)

**第 27 条** 本学の学生が他の学部転学部を願い出たとき又は同一学部の他の学科に転学科を願い出たときは、選考のうえ許可することがある。

(転学)

**第 28 条** 学生が他の大学に転学しようとするときは、転学願を提出し、学長の許可を得て転学することができる。

(留学)

**第 29 条** 学生が第 16 条第 2 項の規定に基づき留学しようとするときは、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(休学)

**第 30 条** 病気その他やむを得ない事由により 2 か月以上修学できない場合には、休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学は、1 年以内とする。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得て更に 1 年以内限り休学することができる。

3 休学期間は、通算して 4 年を超えてはならない。

4 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

**第 31 条** 休学期間内においてその事由が消滅したときには、復学願を提出し、学長の許可を得て

復学することができる。

(退学)

**第 32 条** 学生が退学しようとするときは、退学願を提出し、学長の許可を得て退学することができる。ただし、懲戒による退学を除くものとする。

(除籍)

**第 33 条** 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- (1) 在学年限を超えた者
- (2) 長期にわたる欠席又は疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められた者
- (3) 死亡又は行方不明となつた者
- (4) 学生納付金の納付を怠り、催告されてもなお納付しない者
- (5) 他の大学、短期大学又は高等専門学校に正規課程の学生として在籍していることが明らかになつた者

(復籍)

**第 34 条** 前条第 1 項第 4 号により除籍された者が除籍日の翌日から起算して 1 ヶ月以内に未納の学納金及び別に定める復籍料を納入の上復籍を願い出た場合は、復籍を許可することができる。

2 前項の規定による復籍日は、除籍日の翌日とする。

3 第 1 項の規定により復籍した者の再度の復籍は認めない。

## 第 8 章 入学検定料・学生納付金

(入学検定料)

**第 35 条** 入学検定料の額は、別表(5)に定める。

2 すでに納付した入学検定料は、返付しない。

(学生納付金)

**第 35 条の 2** 学生納付金とは、次のものをいう。

- (1) 入学金
- (2) 授業料及び施設設備費(以下「授業料等」という。)
- (3) その他諸納付金

2 学生納付金の額は、別表(5)に定める。

3 すでに納付した学生納付金は、原則として返付しない。

4 停学を命ぜられた者は、停学期間中であっても学生納付金を納付しなければならない。

5 学生納付金の納付手続きに関する事項は、別に定める。

(学生納付金の特別な取扱等)

**第 35 条の 3** 編入学、転入学及び再入学を許可された者は、別表(5)に定める入学金を納付しなければならない。

2 卒業研究を修得した者であつて、修業年限を越え、なお在学する者は、授業料等の納付に代え、別表(5)に定める学生納付金の特例を受けることができる。

3 復籍を許可された者は、別表(5)に定める復籍料を納付しなければならない。

(学生納付金の免除)

**第 36 条** 休学を許可された者の休学期間中の学生納付金は、別表(5)に定める在籍料とし、授業料等を免除する。ただし、学期の途中に休学又は復学する場合には、この限りではない。

2 学生納付金の納付期限の延長を許可され、学生納付金が未納の状態にある者が退学する場合は、未納の学生納付金を免除する。

3 学生納付金が未納の状態にある者で第 33 条第 3 号又は第 4 号により除籍となつた者は、未納の学生納付金を免除する。

4 学生納付金の納付が極めて困難な者であつて、学業に精励し、人格、操行優秀な者に対しては、願ひ出により選考のうへ学生納付金の一部又は全部を免除することができる。

## 第 9 章 奨学生

(奨学生)

**第 37 条** 本学に、奨学生制度を設ける。

2 奨学生制度に関する事項は、別に定める。

## 第 10 章 賞罰

(表彰)

**第 38 条** 学長は、他の模範となる学生を表彰することがある。

2 表彰に関する事項は、別に定める。

(懲戒)

**第 39 条** 学長は、学生が法令若しくは本学の規則に違反したとき又は学生の本分に反する行為をしたときは、懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者についてこれを行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 前 3 項に規定するほか、学生の懲戒に関する事項は別に定める。

## 第 11 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生、外国人留学生

(科目等履修生)

**第 40 条** 本学の授業科目の履修を願ひ出た者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうへ科目等履修生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

**第 40 条の 2** 他の大学の学生で、本学の授業科目の履修を願ひ出た者があるときは、当該他の大学との協議に基づき、教授会の審議を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生)

**第 41 条** 本学において特定の専門事項につき研究を願ひ出た者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうへ研究生として入学を許可することがある。

(委託学生)

**第 42 条** 会社等からの委託により、本学の学生として入学することを願ひ出た者があるときは、

選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

(委託生)

**第 42 条の 2** 会社等からの委託により、本学の授業科目の履修を願い出た者がいるときは、選考のうえ委託生として入学を許可することがある。

(外国人留学生)

**第 43 条** 外国人で、本学に入学を願い出た者がいるときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

(関係規程)

**第 44 条** 前 6 条に規定する科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生に関する事項は、別に定める。

## **第 12 章 職員組織**

(職員組織)

**第 45 条** 本学に次の職員を置く。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員、事務職員

(職制、業務処理)

**第 46 条** 本学の職制及び業務処理に関する事項は、別に定める。

## **第 13 章 教授会**

(教授会)

**第 47 条** 本学に、教授会を置く。

2 教授会に関する事項は、別に定める。

## **第 14 章 図書館及びセンター**

(図書館及びセンター)

**第 48 条** 本学に図書館及び創造製作センター並びに次の各号に掲げる附属施設を置く。

- (1) 教育開発・学習支援センター
- (2) 研究・社会連携推進センター

2 図書館及びセンターに関する事項は、別に定める。

## **第 15 章 公開講座**

(公開講座)

**第 49 条** 本学は、地域社会の教育文化の発展に貢献するため、公開講座を設ける。

## **第 16 章 厚生補導等**

(厚生補導)

**第 50 条** 学生の厚生補導に関する規程は、別に定める。

(厚生施設等)

**第 50 条の 2** 本学に、厚生施設等を設ける。

2 厚生施設等に関する事項は、別に定める。

(学校医)

**第 51 条** 学生の保健及び衛生のため、学校医を委嘱する。

2 学校医は、毎年身体検査を行うとともに、保健及び衛生について指導する。

(学生会)

**第 52 条** 本学は、学生会の設立を許可し、自治精神の涵養及びその実践を促進する。

附 則 (昭和 41 年 3 月 7 日から昭和 59 年 1 月 23 日までの改正附則は、省略する。)

**第 1 条** 本学則は、昭和 39 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (昭和 60 年 2 月 4 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 昭和 59 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (昭和 61 年 2 月 3 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 4 条の規定にかかわらず、昭和 61 年度から平成 11 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等	入学定員
工学部	
機械工学科	180 人
電気工学科	120 人
建設工学科	80 人
応用電子工学科	80 人
計	460 人

**第 2 条** 昭和 60 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、応用電子工学科の教員免許状取得については、前段の規定にかかわらず、昭和 60 年度の入学生からこの改正規定を適用する。

附 則 (昭和 62 年 2 月 24 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 4 条の規定にかかわらず、昭和 62 年度から平成 7 年度までの間の応用電子工学科の入学定員は、次のとおりである。

学部・学科等	入学定員
応用電子工学科	100 人

**第 2 条** 昭和 61 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、第 7 条については全学生に適用する。

附 則 (昭和 63 年 2 月 2 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 4 条の規定にかかわらず、昭和 63 年度から平成 8 年度までの間の建設工学科土木工学専攻、建築学専攻の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等	入学定員
工学部・建設工学科 土木工学専攻	80 人
工学部・建設工学科 建築学専攻	80 人

**第 2 条** 昭和 62 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成元年 2 月 16 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 昭和 63 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成元年 7 月 4 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成元年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 2 年 2 月 13 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成元年までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 3 年 3 月 5 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 4 条及び昭和 61 年 2 月 3 日改正附則第 1 条並びに昭和 62 年 2 月 24 日改正附則第 1 条の規定にかかわらず、入学定員は、次の表のとおりとする。

学 科	入 学 定 員	
	平成 3 年度～平成 7 年度	平成 8 年度～平成 11 年度
機械工学科	195 人	195 人
電気工学科	130 人	130 人
応用電子工学科	110 人	90 人

**第 2 条** 平成 2 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 3 年 10 月 15 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 3 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 4 年 2 月 13 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 3 年度までに入学した学生に対しては、この改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 4 年 3 月 5 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 3 年度までに入学した研究生にかかる授業料の額については、本学則第 47 条の規

定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成4年10月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成5年4月1日から施行する。

**第2条** 平成4年度までに入学した学生の学生納付金については、従前の例による。

附 則 (平成5年7月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成5年7月1日から施行する。

附 則 (平成5年6月15日改正)

**第1条** この改正学則は、平成5年8月10日から施行する。

**第2条** 収容定員は、第4条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

学部・学科等	収容定員(入学定員)				
	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
工学部 機械工学科	765 (195)	780 (195)	780 (195)	780 (195)	780 (195)
工学部 電気工学科	510 (130)	520 (130)	520 (130)	520 (130)	520 (130)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	320 (80)	320 (80)	320 (80)	320 (80)	300 (60)
工学部 建設工学科 建築学専攻	320 (80)	320 (80)	320 (80)	320 (80)	300 (60)
工学部 応用電子工学科	430 (110)	440 (110)	440 (110)	420 (90)	400 (90)
計	2,345 (595)	2,380 (595)	2,380 (595)	2,360 (575)	2,300 (535)

学部・学科等	収容定員(入学定員)				
	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
工学部 機械工学科	780 (195)	780 (195)	745 (160)	710 (160)	675 (160)
工学部 電気工学科	520 (130)	520 (130)	490 (100)	460 (100)	430 (100)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	280 (60)	260 (60)	240 (60)	240 (60)	240 (60)
工学部 建設工学科 建築学専攻	280 (60)	260 (60)	240 (60)	240 (60)	240 (60)
工学部 応用電子工学科	380 (90)	360 (90)	350 (80)	340 (80)	330 (80)
計	2,240 (535)	2,180 (535)	2,065 (460)	1,990 (460)	1,915 (460)

**第3条** 平成4年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数は、第8条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第4条** 平成4年度までに入学した学生に係る、本学学部の学科において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び教育職員免許状取得に関する履修方法は、第11条第2項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成5年12月17日改正)

**第1条** この改正学則は、平成6年4月1日から施行する。

**第2条** 平成5年度までに入学した学生に係る授業科目並びに単位数については、本学則第8条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第3条** 平成5年度までに入学した学生に係る各授業科目に対する単位数の算出基準については、本学則第10条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第4条** 平成5年度までに入学した学生に係る授業科目の履修方法及び教育職員免許状取得に関する履修方法については、本学則第11条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第5条** 平成5年度までに入学した学生に係る学修進行制限基準及び卒業研究履修基準については、本学則第12条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第6条** 平成5年度までに入学した学生に係る学生納付金の額については、本学則第31条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成6年9月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成6年9月1日から施行する。

附 則 (平成6年10月18日改正)

**第1条** この改正学則は、平成6年10月1日から施行する。

附 則 (平成6年10月18日改正)

**第1条** この改正学則は、平成7年4月1日から施行する。

**第2条** 平成6年度までに入学した学生に係る学生納付金の額については、本学則第31条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成7年6月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成7年6月20日から施行する。

附 則 (平成8年3月7日改正)

**第1条** この改正学則は、平成8年4月1日から施行する。収容定員は、第6条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

(単位:人)

学部・学科等	収容定員 (入学定員)				
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
工学部 機械工学科	780 (195)	780 (195)	780 (195)	780 (195)	745 (160)
工学部 電気工学科	520 (130)	520 (130)	520 (130)	520 (130)	490 (100)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	320 (80)	300 (60)	280 (60)	260 (60)	240 (60)
工学部 建設工学科 建築学専攻	320 (80)	300 (60)	280 (60)	260 (60)	240 (60)
工学部 応用電子工学科	440 (110)	440 (110)	440 (110)	440 (110)	410 (80)
計	2,380 (595)	2,340 (555)	2,300 (555)	2,260 (555)	2,125 (460)

学部・学科等	収容定員（入学定員）		
	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
工学部 機械工学科	710 (160)	675 (160)	640 (160)
工学部 電気工学科	460 (100)	430 (100)	400 (100)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	240 (60)	240 (60)	240 (60)
工学部 建設工学科 建築学専攻	240 (60)	240 (60)	240 (60)
工学部 応用電子工学科	380 (80)	350 (80)	320 (80)
計	2,030 (460)	1,935 (460)	1,840 (460)

附 則（平成 8 年 12 月 19 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。収容定員は、第 6 条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。（単位：人）

学部・学科等	収容定員（入学定員）						
	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
工学部 機械工学科	780 (195)	780 (195)	780 (195)	745 (160)	710 (160)	675 (160)	640 (160)
工学部 電気工学科	520 (130)	520 (130)	520 (130)	490 (100)	460 (100)	430 (100)	400 (100)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	320 (80)	320 (80)	320 (80)	300 (60)	280 (60)	260 (60)	240 (60)
工学部 建設工学科 建築学専攻	320 (80)	320 (80)	320 (80)	300 (60)	280 (60)	260 (60)	240 (60)
工学部 応用電子工学科	440 (110)	440 (110)	440 (110)	410 (80)	380 (80)	350 (80)	320 (80)
計	2,380 (595)	2,380 (595)	2,380 (595)	2,245 (460)	2,110 (460)	1,975 (460)	1,840 (460)

※別表(1)「教育課程表」、別表(2)「教職に関する科目教育課程表」及び別表(3)「卒業要件」は、履修要綱に掲載されている。

附 則（平成 9 年 9 月 25 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 9 年 10 月 1 日から施行する。

附 則（平成 10 年 3 月 17 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 9 年度までに入学した学生に係る入学検定料及び学生納付金の年額については、第 22 条第 2 項及び第 35 条第 1 項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 11 年 2 月 17 日改正）

**第1条** この改正学則は、平成11年4月1日から施行する。

**第2条** 平成10年度までに入学した学生に係る入学検定料及び学生納付金の年額については、第22条第2項及び第35条第1項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成11年7月21日改正)

**第1条** この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、第27条の2に定める転コース、第16条に定める他の大学における授業科目の履修等、第17条に定める大学以外の教育施設等における学修及び第18条第3項に定める入学前の既修得等の認定については、平成11年7月21日から適用する。

**第2条** 昼間主コースの収容定員については、第6条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

学部・学科等	収容定員 (入学定員)				
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
工学部 機械工学科	776 (191)	768 (187)	757 (184)	742 (180)	728 (177)
工学部 電気工学科	517 (127)	511 (124)	502 (121)	490 (118)	478 (115)
工学部 建設工学科 土木工学専攻	318 (78)	314 (76)	308 (74)	300 (72)	292 (70)
工学部 建設工学科 建築学専攻	318 (78)	314 (76)	308 (74)	300 (72)	292 (70)
工学部 応用電子工学科	437 (107)	431 (104)	422 (101)	410 (98)	398 (95)
計	2,366 (581)	2,338 (567)	2,297 (554)	2,242 (540)	2,188 (527)

**第3条** 平成11年度までに入学した学生に係る授業科目、単位数、卒業の要件、単位の計算方法及び教育職員免許状については、第10条第2項、第11条、第12条及び第12条の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成11年9月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

**第2条** 平成11年度までに入学した学生に係る授業科目、単位数及び卒業の要件については、第10条及び第12条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成12年2月16日改正)

**第1条** この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

**第2条** 平成11年度までに入学した学生に係る学生納付金の年額については、この第35条(別表5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成12年3月10日改正)

**第1条** この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年3月31日改正)

**第1条** この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年4月19日改正)

**第1条** この改正学則は、平成13年4月1日から施行する。

**第2条** 工学部電気工学科、建設工学科及び応用電子工学科は、改正後の第3条の規定にかかわ

らず、平成 13 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 昼間主コースの収容定員については、第 6 条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

学部・学科等	収容定員（入学定員）			
	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
工学部 機械工学科	107 (107)	211 (104)	311 (100)	408 (97)
工学部 情報機械システム工学科	80 (80)	160 (80)	240 (80)	320 (80)
工学部 電気電子工学科	127 (127)	250 (123)	369 (119)	484 (115)
工学部 電子情報工学科	107 (107)	210 (103)	309 (99)	404 (95)
工学部 建築学科	76 (76)	150 (74)	222 (72)	292 (70)
工学部 都市環境デザイン学科	70 (70)	140 (70)	210 (70)	280 (70)
計	567 (567)	1,121 (554)	1,661 (540)	2,188 (527)

**第 4 条** 平成 12 年度までに入学した学生に係わる各学科の定める卒業に必要な単位数については、この第 12 条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 12 年 9 月 20 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 12 年度までに入学した学生に係わる授業科目、単位数並びに教員の免許状の種類及び免許教科については、第 10 条第 2 項別表(1)及び別表(2)並びに第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 13 年 3 月 21 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 12 年度までに入学した学生に係わる学生納付金の年額については、この第 35 条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 13 年 4 月 18 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 工学部電子情報工学科は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 14 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 平成 13 年度までに入学した学生に係る学部及び学科、並びに収容定員については、第 3 条及び第 6 条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 4 条** 工学部建築学科の昼間主コースの収容定員（入学定員）については、第 6 条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
工学部 建築学科	74(74)	146(72)	216(70)

附 則（平成 13 年 6 月 20 日改正）

**第1条** この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

**第2条** 平成13年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第10条別表(1)、別表(1)の2及び別表(2)並びに第12条の2別表(2)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成14年3月8日改正)

**第1条** この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

**第2条** 平成13年度に入学した学生に係る授業科目及び単位数について機械工学科及び情報機械システム工学科は、平成14年4月1日から、電気電子工学科及び電子情報工学科は、平成13年4月1日から第10条第3項の規定を適用する。

**第3条** 平成13年度に入学した学生に係る授業科目及び単位数について建築学科及び都市環境デザイン学科は、第10条第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成14年3月11日改正)

**第1条** この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

**第2条** 平成13年度までに入学した学生に係る学生納付金の年額については、この第35条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成14年9月25日改正)

**第1条** この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

**第2条** 平成13年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第10条別表(1)の2並びに第12条の2別表(2)及び別表(2)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成14年9月25日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

**第2条** 平成14年度までに入学した学生に係る教育職員免許状については、第12条の2別表(2)及び別表(2)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成14年12月18日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年1月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年2月26日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

**第2条** 平成14年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第35条別表(5)の2(1)①及び②の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成15年3月17日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年5月21日改正)

**第1条** この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年6月18日改正)

**第1条** この改正学則は、平成16年4月1日から施行する。

**第2条** 平成15年度までに入学した学生に係る収容定員、授業科目、単位数、教員免許状の種類・免許教科、転コース及び学生納付金の年額については、第6条、第10条第3項、第12条の2第2項及び第35条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成16年3月17日改正)

**第1条** この改正学則は、平成16年4月1日から施行する。

**第2条** 平成15年度までに入学した学生に係る学生納付金については、この第35条別表(5)の2(1)①及び②の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成16年4月28日改正)

**第1条** この改正学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年1月26日改正)

**第1条** この改正学則は、平成17年4月1日から施行する。

**第2条** 平成14年度から平成16年度までに入学した工学部都市環境デザイン学科の学生に係る専門教育課程表専門科目群の授業科目に技術者倫理、選択2単位を加える。

**第3条** 平成16年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに学生納付金については、前条を除き、第10条第3項別表(1)及び第35条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成17年3月25日改正)

**第1条** この改正学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年4月20日改正)

**第1条** この改正学則は、平成18年4月1日から施行する。

**第2条** 工学部情報機械システム工学科は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第3条** 平成17年度までに入学した学生に係る収容定員、授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第6条、第10条第3項別表(1)及び別表(2)並びに第12条の2別表(2)及び別表(2)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成18年3月9日改正)

**第1条** この改正学則は、平成18年4月1日から施行する。

**第2条** 平成17年度までに入学した学生に係る授業科目、単位数、単位の計算方法、教育職員免許状及び成績の評価については、第10条第2項、同条第3項別表(1)、別表(1)の2、別表(2)、第11条第1項、第12条の2第1項別表(2)、同条第2項別表(2)の2及び第14条第2項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成18年6月21日改正)

**第1条** この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

**第2条** 平成18年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第35条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成18年10月25日改正)

**第1条** この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年2月21日改正)

**第1条** この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

**第2条** 平成17年度までに入学した情報学部情報学科の学生に係る科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第10条の2第2項別表(1)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成19年3月28日改正)

**第1条** この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

**第2条** 情報学部情報学科は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第3条** 平成19年度までに入学した学生に係る収容定員、科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第6条及び第10条の2第2項別表(1)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成19年7月18日改正)

**第1条** この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

**第2条** 平成19年度までに入学した学生に係る教育職員免許状については、第12条の2第2項別表(2)、同条第3項別表(2)の2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成19年9月19日改正)

**第1条** この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

**第2条** 平成19年度までに入学した学生に係る教育職員免許状については、第12条の2第2項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成19年12月19日改正)

**第1条** この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

**第2条** 平成19年度までに入学した工学部建築学科の学生に係る科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分並びに教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第10条の2第2項別表(1)及び第12条の2第2項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成20年3月19日改正)

**第1条** この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年12月17日改正)

**第1条** この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。

**第2条** 平成20年度までに入学した学生に係る科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分並びに教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第10条の2第2項別表(1)及び別表(1)の2並びに第12条の2第2項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成21年4月1日校名変更)

**第1条** この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年6月17日改正)

**第1条** この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。

**第2条** 平成20年度までに入学した学生に係る教育職員免許状の取得に関する授業科目、

単位数及び授業科目の区分については、第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成 21 年 6 月 17 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 21 年 7 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 21 年 3 月 18 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 工学部ロボティクス学科は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 22 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 平成 21 年度までに入学した学生に係る科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成 21 年 5 月 27 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 21 年度までに入学した学生に係る教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分並びに取得できる免許状の種類及び免許教科については、第 12 条の 2 第 2 項別表(2)及び第 12 条の 2 第 3 項別表(2)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成 21 年 11 月 18 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 21 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2 並びに第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成 22 年 1 月 20 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 21 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 21 年度までに入学した学生に係る教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分については、第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則 (平成 22 年 9 月 15 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 22 年 12 月 15 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 23 年 3 月 9 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 23 年 7 月 20 日改正)

**第 1 条** この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 23 年 3 月 16 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 工学部都市環境デザイン学科は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 24 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 平成 23 年度までに入学した学生に係る学部学科、学科の目的、収容定員、科目群の区分、授業科目、単位数、授業科目の区分及び教育職員免許状については、第 3 条、第 6 条、第 10 条の 2 第 1 項、同条第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2、並びに第 12 条の 2 第 2 項別表(2)及び同条第 3 項別表(2)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 23 年 6 月 15 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 23 年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第 35 条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 23 年 12 月 21 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 23 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2 並びに第 12 条の 2 第 2 項別表(2)及び第 3 項別表(2)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 平成 21 年度に入学した工学部機械工学科の学生に係る専門教育課程表専門科目群の授業科目に、機械創造工学セ計（選択 2 単位）を加える。

**第 4 条** 平成 22 年度及び平成 23 年度に入学した工学部機械工学科の学生に係る専門教育課程表専門科目群の授業科目に、機械創造工学セ計（選択 2 単位）、フォートラン（選択 2 単位）CAD 設計（選択 2 単位）及び数値計算法（選択 2 単位）を加える。

附 則（平成 24 年 9 月 19 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 24 年 9 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 24 年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第 35 条の 2 第 1 項及び同条第 2 項別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 24 年 11 月 21 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 12 月 19 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 24 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 平成 24 年度に入学した情報学部情報デザイン学科の学生に係る専門教育課程表専門科目群の授業科目に、自己表現演習 1（選択 2 単位）、自己表現演習 2（選択 2 単位）、自己表現演習 3（選択 2 単位）及び自己表現演習 4（選択 2 単位）を加える。

附 則（平成 25 年 5 月 22 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 25 年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第 35 条の 2 第 2 項別表

(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 25 年 11 月 20 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 2 月 25 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 12 月 22 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 28 年 1 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 12 月 22 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 27 年度までに入学した学生に係る収容定員については、第 6 条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 27 年 12 月 22 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 27 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数、単位の計算方法並びに教育職員免許状については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2、第 11 条第 1 項第 2 号並びに第 12 条の 2 第 2 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 平成 27 年度までに入学した学生に係る学生納付金については、第 35 条の 2 第 2 項別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 28 年 12 月 20 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 28 年度までに入学した工学部の学生に係る授業科目及び単位数については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 29 年 3 月 23 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 工学部総合機械工学科は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず平成 30 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 平成 29 年度までに入学した学生に係る学部学科、学科の目的、収容定員、授業科目及び単位数については、第 3 条、第 6 条、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)並びに第 12 条の 2 第 3 項別表(2)及び同条第 4 項別表(2)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 29 年 12 月 22 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 29 年度までに入学した情報学部総合情報学科の学生に係る学科の目的については、第 3 条第 3 項第 7 号の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 平成 29 年度までに入学した工学部建築学科及び情報学部総合情報学科の学生に係る授業科目及び単位数については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 4 条** 平成 29 年度までに入学した情報学部総合情報学科の学生に係る学生納付金については、第 35 条の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 30 年 3 月 20 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 29 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教職課程については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び第 12 条の 2 第 3 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（平成 30 年 12 月 18 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 平成 30 年度までに入学した情報学部総合情報学科の学生に係る学科の目的、授業科目及び単位数については、第 3 条第 3 項第 7 号及び第 10 条の 2 第 2 項別表(1)の 2 の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 平成 30 年度までに入学した工学部および情報学部情報システム学科の学生に係る教育職員免許状については、第 12 条の 2 第 3 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（2019 年 12 月 23 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 2019 年度までに入学した情報学部情報デザイン学科の学生に係る学科の目的については、第 3 条第 3 項第 6 号の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

**第 3 条** 2019 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び別表(1)の 2 並びに第 12 条の 2 第 3 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（2020 年 12 月 15 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 2020 年度までに入学した学生に係る収容定員については、第 6 条の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（2021 年 12 月 17 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 2021 年度までに入学した学生に係る授業科目及び単位数並びに教育職員免許状については、第 12 条の 2 第 3 項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則（2022 年 12 月 21 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（2023 年 3 月 23 日改正）

**第 1 条** この改正学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

**第 2 条** 工学部建築学科は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、2024 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する学生が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

**第 3 条** 2023 年度までに入学した学生に係る学部学科、収容定員、授業科目、単位数、教職課程及び学生納付金については、第 3 条、第 6 条、第 10 条の 2 第 2 項別表(1)、別表(1)の 2 及び別表(1)の 3、第 12 条の 2 第 3 項別表(2)及び同条第 4 項別表(2)の 2 並びに第 35 条の 2 第 2 項別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

別表(1) 教育課程表

1. 工学部 (各学科共通)

(1) 人間科学科目群

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
人間科学科目群	ファースト・イヤー・ 세미나	1			
	基礎英語セミナー			1	
	資格英語 1	1			
	資格英語 2	1			
	英語スキル 1	1			
	英語スキル 2	1			
	英語スキル 3	1			
	英語スキル 4	1			
	実践英語 1		1		
	実践英語 2		1		
	中国語入門 1				1
	中国語入門 2				1
	健康科学演習 A	1			
	健康科学演習 B	1			
	日本文学 A		2		
	日本文学 B		2		
	外国文学 A		2		
	外国文学 B		2		
	哲学 A		2		
	哲学 B		2		
	文化人類学 A		2		
	文化人類学 B		2		
	歴史学 A		2		
	歴史学 B		2		
	心理学 A		2		
	心理学 B		2		
	教育原理		2		
	教育心理学		2		
	政治学 A		2		
	政治学 B		2		
	経済学 A		2		
	経済学 B		2		
	法学 A		2		
	法学 B		2		
	社会学 A		2		
	社会学 B		2		
	社会調査の方法 A		2		
	社会調査の方法 B		2		
	現代社会論 A		2		
	現代社会論 B		2		
	教育社会学		2		
	健康科学 A		2		
	健康科学 B		2		
	認知科学 A		2		
	認知科学 B		2		
	環境科学 A		2		
	環境科学 B		2		
	自然科学概論 A		2		
	自然科学概論 B		2		
	生物学 A		2		
生物学 B		2			
地球科学 A		2			
地球科学 B		2			
リベラルアーツ特別講義		2			
リベラルアーツ実践演習 A		2			
リベラルアーツ実践演習 B		2			
教養総合講座 A		2			
教養総合講座 B		2			
合計		9	90	3	
			102		

2. 工学部機械工学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	基礎数学セミナ			1	履修者指定
	基礎理科セミナ			1	
	線形代数 1		2		
	線形代数 2		2		
	基礎物理 A		2		
	基礎物理 B		2		
	現代物理学 1			2	
	現代物理学 2			2	
	化学 1		2		
	化学 2		2		
	数学基礎		2		
	解析学 1		2		
	解析学 2		2		
	解析学 3		2		
	常微分方程式		2		
	力学 1	2			
	力学 2		2		
	力学 3		2		
	基礎工学実験	2			
	機械数学基礎演習		1		
機械工学基礎 A	2				
機械工学基礎 B	2				
機械工学基礎 C	2				
専門科目群	機械入門セミナ	1			
	機械セミナ	1			
	工業力学	2			
	加工学基礎	2			
	機械力学基礎	2			
	材料力学基礎	2			
	機械材料学基礎	2			
	熱力学基礎	2			
	流体力学基礎	2			
	要素・機構設計学	2			
	機械英語 A		2		
	機械英語 B		2		
	機械力学		2		
	振動工学		2		
	材料力学		2		
	材料強度設計学		2		
	応用機械工学 A		2		
	応用機械工学 B		2		
	自動車工学		2		
	熱エネルギー工学		2		
	熱移動工学		2		
	流体力学 1		2		
	流体力学 2		2		
	計測工学		2		
	制御工学		2		
	電気工学		2		
	航空宇宙工学		2		
	機械材料学		2		
	機能材料工学		2		
	機械加工学		2		
	変形加工学		2		
	溶融加工学		2		
	表面加工学		2		
	環境工学		2		
基礎機械製図	2				
機械設計製図 1	2				
機械設計製図 2	2				

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門 科目 群	応用設計演習 1		2		
	応用設計演習 2		2		
	数値計算法 1		2		
	数値計算法 2		2		
	シミュレーション工学		2		
	機械製作実習 1	2			
	機械製作実習 2	2			
	機械工学実験 1	2			
	機械工学実験 2	2			
	品質管理		2		
	工業経営論		2		
	科学技術史と技術者倫理		2		
	知的財産権論と情報倫理		2		
	インターンシップ (学外研修)		2		
	総合 세미나	2			
	機械創造工学 세미나	2			
	卒業研究	6			
	幾何学 1			2	
	幾何学 2			2	
	数理統計学 1			2	
	数理統計学 2			2	
	応用解析 1			2	
	応用解析 2			2	
	応用解析 3			2	
	応用解析 4			2	
	線形代数 3			2	
	代数系入門			2	
	工学概論			2	
	職業指導 1			2	
	職業指導 2			2	
	合計	5 2	9 5	3 2	
		1 7 9			

3. 工学部機械システム工学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	履修者指定
	基礎理科 세미나			1	
	線形代数 1		2		
	線形代数 2		2		
	基礎物理 A		2		
	基礎物理 B		2		
	現代物理学 1			2	
	現代物理学 2			2	
	化学 1		2		
	化学 2		2		
	数学基礎		2		
	解析学 1		2		
	解析学 2		2		
	解析学 3		2		
	常微分方程式		2		
	力学 1	2			
	力学 2		2		
	力学 3		2		
	基礎工学実験		2		
	工業数学 1	2			
工業数学 2	2				
専門科目群	機械システム入門セミナー	1			
	材料力学 1	2			
	材料力学 2		2		
	熱力学 1	2			
	熱力学 2		2		
	流体力学 1	2			
	流体力学 2		2		
	機械力学 1	2			
	機械力学 2		2		
	工業力学	2			
	材料工学 1		2		
	材料工学 2		2		
	加工学 1	2			
	加工学 2		2		
	計測工学		2		
	制御工学		2		
	コンピュータシステム工学		2		
	電気・電子工学 1	2			
	電気・電子工学 2		2		
	プログラミング 1	2			
	プログラミング 2		2		
	デジタルエンジニアリング入門	2			
	デジタルエンジニアリング 1	2			
	デジタルエンジニアリング 2		2		
	デジタルエンジニアリング 3 A		2		
	デジタルエンジニアリング 3 B		2		
	デジタルエンジニアリング 4		2		
	機械製図	2			
	機械要素		2		
	創造製作演習	4			
	機械加工実習	2			
	電気電子工学実習	2			
	機械工学実験 A	2			
機械工学実験 B	2				
エンジン工学		2			
流体システム工学		2			
自動車工学		2			
航空宇宙工学		2			
センサ・アクチュエータ工学		2			
メカトロニクス工学		2			

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目 群	ロボット工学		2		集中	
	システム制御工学		2			
	コンピュータビジョン		2			
	オートメーション工学		2			
	ロボットプログラミング		2			
	人工知能		2			
	工業経営概論		2			
	品質工学		2			
	科学技術史論と技術者倫理		2			
	知的財産権と情報倫理		2			
	インターンシップ (学外研修)		2			
	総合セミナー1	2				
	総合セミナー2	2				
	卒業研究	6				
	幾何学1			2		
	幾何学2			2		
	数理統計学1			2		
	数理統計学2			2		
	応用解析1			2		
	応用解析2			2		
	応用解析3			2		
	応用解析4			2		
	線形代数3			2		
	代数系入門			2		
	工学概論			2		
	職業指導1			2		
	職業指導2			2		
	合計	51	96	32		
			179			

4. 工学部電気電子工学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	履修者指定
	基礎理科 세미나			1	
	線形代数 1		2		
	線形代数 2		2		
	基礎物理 A		2		
	基礎物理 B		2		
	現代物理学 1			2	
	現代物理学 2			2	
	化学 1		2		
	化学 2		2		
	数学基礎		2		
	解析学 1		2		
	解析学 2		2		
	解析学 3		2		
	常微分方程式		2		
	力学 1	2			
	力学 2		2		
	力学 3		2		
	基礎工学実験	2			
	電気電子数学 1	2			
電気電子数学 2	2				
電気電子数学 3		2			
専門科目群	電気電子入門セミナー	1			
	電気回路理論 1	2			
	電気回路理論 2	2			
	電気回路理論 3	2			
	電気回路理論 4		2		
	電気回路理論演習		2		
	電気磁気学 1	2			
	電気磁気学 2	2			
	電気磁気学 3		2		
	電気磁気学演習 1		2		
	電気磁気学演習 2		2		
	電子回路 1	2			
	電子回路 2	2			
	電子回路 3		2		
	電子回路演習		2		
	プログラミング 1	2			
	プログラミング 2		2		
	電気電子工学実験 1	2			
	電気電子工学実験 2	2			
	電気電子工学実験 3	2			
	電気電子工学実験 4	2			
	電気電子計測		2		
	コンピュータ工学 1		2		
	電気電子CAE		2		
	電気法規		2		
	電気エネルギー発生工学		2		
	エネルギー変換工学 1		2		
	エネルギー変換工学 2		2		
	エネルギー伝送工学		2		
	パワーエレクトロニクス		2		
	電気設備		2		
	デジタル回路		2		
	センサ工学		2		
	制御工学 1		2		
制御工学 2		2			
デジタル信号処理		2			
メカトロニクス		2			
コンピュータ工学 2		2			
電気電子材料		2			

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門科目群	電子物性 1		2		
	電子物性 2		2		
	半導体デバイス工学 1		2		
	半導体デバイス工学 2		2		
	電気電子設計製図演習		2		
	電気電子CAD演習		2		
	インターンシップ (学外研修)		2		
	電気電子 세미나	2			
	セミナー	2			
	卒業研究	6			
	幾何学 1			2	
	幾何学 2			2	
	数理統計学 1			2	
	数理統計学 2			2	
	応用解析 1			2	
	応用解析 2			2	
	応用解析 3			2	
	応用解析 4			2	
	線形代数 3			2	
	代数系入門			2	
	工学概論			2	
	職業指導 1			2	
	職業指導 2			2	
合計		43	94	32	
		169			

別表(1)の2 教育課程表

1. 建築学部

(1)人間科学科目群

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
人間科学科目群	ファースト・イヤー・ 세미나	1			
	基礎英語セミナー			1	
	英語スキル1	2			
	英語スキル2	2			
	資格英語	2			
	実践英語		1		
	英語ライティング		1		
	英語プレゼンテーション		1		
	中国語入門1		1		
	中国語入門2		1		
	スポーツ実技A			1	
	スポーツ実技B			1	
	スポーツと健康の科学A			1	
	スポーツと健康の科学B			1	
	情報リテラシー概論	1			
	データサイエンス概論	1			
	文学A		2		
	文学B		2		
	哲学A		2		
	哲学B		2		
	人類学A		2		
	人類学B		2		
	歴史学A		2		
	歴史学B		2		
	心理学A		2		
	心理学B		2		
	教育原理		2		
	教育心理学		2		
	政治学A		2		
	政治学B		2		
	経済学A		2		
	経済学B		2		
	法学A		2		
	法学B		2		
	社会学A		2		
	社会学B		2		
	社会調査法A		2		
	社会調査法B		2		
	現代社会論A		2		
	現代社会論B		2		
	教育社会学		2		
	健康科学A		2		
	健康科学B		2		
	認知科学A		2		
	認知科学B		2		
	環境と防災A		2		
	環境と防災B		2		
	自然科学概論A		2		
	自然科学概論B		2		
	生物学A		2		
生物学B		2			
地球科学A		2			
地球科学B		2			
課題探究集中講座		2			
課題探究セミナーA		2			
課題探究セミナーB		2			
教養総合講座A		2			
教養総合講座B		2			
合計		9	93	1	
			103		

2. 建築学部建築学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	
	基礎理科 세미나			1	
	線形代数 1		2		
	線形代数 2		2		
	基礎物理 A		2		
	基礎物理 B		2		
	現代物理学 1			2	
	現代物理学 2			2	
	化学 1		2		
	化学 2		2		
	化学基礎 1		2		
	化学基礎 2		2		
	数学基礎		2		履修者指定
	解析学 1		2		
	解析学 2		2		
	解析学 3		2		
	常微分方程式		2		
	力学 1		2		
	力学 2		2		
	力学 3		2		
	基礎工学実験		2		
	建築基礎数理 1		2		
	建築基礎数理 2		2		
	建築概論		2		
	芸術概論		2		
	造形基礎実習		2		
	建築デザイン基礎実習		2		
	インテリアデザイン基礎実習		2		
	建築の仕組み		2		
	環境色彩論		2		
	力と形演習		2		
	情報リテラシ		1		
	建築CAD 1		2		
建築CAD 2		2			
建築プレゼンテーション演習		2			
建築統計処理		2			
デジタルファブリケーション演習		2			
専門科目群	建築・インテリア入門セミナー		1		
	建築計画 1		2		
	建築計画 2		2		
	構造力学 1		2		
	構造力学 2		2		
	骨組の解析法		2		
	建築構法		2		
	建築材料		2		
	建築環境材料		2		
	構造・材料実験		2		
	建築法規		2		
	建築・インテリア図法実習 1		2		
	建築・インテリア図法実習 2		2		
	建築設計 1		3		
	建築設計 2		3		
	建築設計 3		3		
	建築遺産 A		2		
	建築遺産 B		2		
	環境工学 1		2		
	環境工学 2		2		
	環境工学 3		2		
	建築設備		2		

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考	
		必修	選択	自由		
専門科目群	コンクリート系構造		2			
	鋼構造		2			
	インターンシップ (学外研修)		2			
	空間文化論		2			
	住空間論		2			
	建築企画論		2			
	都市計画		2			
	まちづくり論		2			
	建築デザイン論		2			
	総合空間設計1			3		
	総合空間設計2			3		
	建築デザイン史			2		
	力とデザイン			2		
	構造設計演習			2		
	維持・保全工学			2		
	建築生産1			2		
	建築生産2			2		
	建築測量学同実習			2		
	環境心理学			2		
	環境評価演習			2		
	振動と塑性解析			2		
	鉄筋コンクリート構造演習			2		
	インテリア計画1			2		
	インテリア計画2			2		
	インテリアエレメント演習1			2		
	インテリアエレメント演習2			2		
	デザインマネジメント演習1			2		
	デザインマネジメント演習2			2		
	インテリア設計1			3		
	インテリア設計2			3		
	インテリア設計3			3		
	かおりデザイン入門 세미나			1		
	情報処理1			2		
	情報処理2			2		
	キャリア開発1			1		
	キャリア開発2			1		
	プロジェクト演習1			2		
	プロジェクト演習2			2		
	においの数値解析1			2		
	においの数値解析2			2		
	住居学			2		
	生活環境学1			2		
	生活環境学2			2		
	かおり成分と調香1			2		
	かおり成分と調香2			2		
	嗅覚の特性			2		
	嗅覚測定法			4		
	心理学概論			2		
	消脱臭原理			2		
	キャリア開発3			1		
キャリア開発4			1			
プロジェクト演習3			2			
プロジェクト演習4			2			
かおりデザイン演習1			2			
色彩論			2			

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目 群	生活環境評価演習 1		2		
	生活環境評価演習 2		2		
	生活環境評価演習 3		4		
	食品とかおり		2		
	ランドスケープデザイン		2		
	かおり成分と調香 3		2		
	かおり成分と調香 4		2		
	におい・かおり測定演習 1		4		
	におい・かおり測定演習 2		4		
	におい・かおり測定演習 3		4		
	かおりデザイン演習 2		2		
	かおりデザイン演習 3		2		
	かおりデザイン演習 4		2		
	かおりデザイン演習 5		2		
	アロマテラピー演習		2		
	脱臭性能評価演習		2		
	悪臭防止法		2		
	構造工学 1		2		
	構造工学 2		2		
	構造工学 3		2		
	地盤工学 1		2		
	地盤工学 2		2		
	地盤工学 3		2		
	環境工学基礎		2		
	流れ学 1		2		
	流れ学 2		2		
	都市衛生工学		2		
	計画数理		2		
	都市環境プランニング		2		
	地域・都市計画		2		
	都市空間インフラ入門セミナー		1		
	社会基盤設計		3		
	ドボクの計測・調査		2		
	環境生態学同実習		2		
	都市環境プロジェクト実習		2		
	測量学同実習 1		3		
	測量学同実習 2		3		
	基礎情報処理 1		2		
	基礎情報処理 2		2		
	CAD演習 1		2		
	応用情報処理 1		2		
	応用情報処理 2		2		
	鋼構造工学		2		
	RC構造工学		2		
	建設技術		2		
	建設マネジメント		2		
	建設技術演習		2		
	地盤環境工学		2		
	応用地質学		2		
	地盤設計技術		2		
	維持管理工学		2		
	流域環境学		2		
	河川学		2		
	ビオトープ設計		3		
	資源循環工学		2		
	交通計画		2		
	都市デザイン実習		2		
	まちづくり関係法規		2		
	輸送システム		2		
	ランドスケープ設計		3		
	道路工学		2		

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門 科目 目 群	道路空間設計		3		
	環境アセスメント		2		
	CAD演習2		2		
	応用測量		2		
	応用数学		2		
	GIS基礎		2		
	GIS演習		2		
	3D設計基礎		2		
	VR演習		2		
	エクセレント 세미나		1		
	防災論		2		
	学びとキャリア		2		
	総合土木工学		2		
	技術者倫理		2		
	セミナー1		2		
	セミナー2		2		
	プロジェクト演習5		2		
	総合セミナー1		2		
	総合セミナー2		2		
	卒業研究	6			
	幾何学1			2	
	幾何学2			2	
	数理統計学1			2	
	数理統計学2			2	
	応用解析1			2	
	応用解析2			2	
	応用解析3			2	
	応用解析4			2	
	線形代数3			2	
	代数系入門			2	
	工学概論			2	
	職業指導1			2	
	職業指導2			2	
	合計	6	395	32	
		433			

別表(1)の3 教育課程表

1. 情報学部(各学科共通)

(1)人間科学科目群

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
人間科学科目群	ファースト・イヤー・ 세미나	1			
	基礎英語セミナー			1	
	資格英語1	1			
	資格英語2	1			
	英語スキル1	1			
	英語スキル2	1			
	英語スキル3	1			
	英語スキル4	1			
	実践英語1		1		
	実践英語2		1		
	中国語入門1			1	
	中国語入門2			1	
	健康科学演習A	1			
	健康科学演習B	1			
	日本文学A		2		
	日本文学B		2		
	外国文学A		2		
	外国文学B		2		
	哲学A		2		
	哲学B		2		
	文化人類学A		2		
	文化人類学B		2		
	歴史学A		2		
	歴史学B		2		
	心理学A		2		
	心理学B		2		
	教育原理		2		
	教育心理学		2		
	政治学A		2		
	政治学B		2		
	経済学A		2		
	経済学B		2		
	法学A		2		
	法学B		2		
	社会学A		2		
	社会学B		2		
	社会調査の方法A		2		
	社会調査の方法B		2		
	現代社会論A		2		
	現代社会論B		2		
	教育社会学		2		
	健康科学A		2		
	健康科学B		2		
	認知科学A		2		
	認知科学B		2		
	環境科学A		2		
	環境科学B		2		
	自然科学概論A		2		
	自然科学概論B		2		
	生物学A		2		
生物学B		2			
地球科学A		2			
地球科学B		2			
リベラルアーツ特別講義		2			
リベラルアーツ実践演習A		2			
リベラルアーツ実践演習B		2			
教養総合講座A		2			
教養総合講座B		2			
合計		9	90	3	
			102		

2. 情報学部情報システム学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	履修者指定
	数学基礎		2		
	解析学 1		2		
	解析学 2		2		
	解析学 3		2		
	常微分方程式		2		
	線形代数 1		2		
	線形代数 2		2		
	線形代数 3		2		
	情報数学		2		
	確率・統計		2		
	情報統計学		2		
	基礎理科 세미나			1	
	力学		2		
	電磁気学		2		
	現代物理学 1			2	
	現代物理学 2			2	
	情報システム入門セミナー	1			
	情報概論	2			
	情報処理基礎	2			
コンピュータハードウェア基礎	2				
プログラミング入門		2			
情報ネットワーク概論		2			
基礎電気回路		2			
専門科目群	プログラミング 1	2			
	プログラミング 2	2			
	アルゴリズムとデータ構造 1		2		
	アルゴリズムとデータ構造 2		2		
	数値計算法		2		
	コンピュータアーキテクチャ 1		2		
	コンピュータアーキテクチャ 2		2		
	オペレーティングシステム		2		
	情報ネットワーク 1		2		
	情報ネットワーク 2		2		
	情報理論		2		
	オートマトン・言語理論		2		
	電気回路 1		2		
	電気回路 2		2		
	情報演習 A	4			
	情報演習 B	4			
	情報演習 C	4			
	情報演習 D	4			
	ソフトウェア工学		2		
	コンパイラ構成法		2		
	オブジェクト指向プログラミング		2		
	データベース		2		
	分散処理		2		
	信号処理基礎		2		
	デジタル信号処理		2		
	デジタル回路		2		
	電子回路		2		
	情報システム最新技術		2		
	CAD		2		
	制御工学		2		
	コンピュータセンシング		2		
	コンピュータコントロール		2		
	組込システムプログラミング		2		
リアルタイムシステム		2			

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門 科目 群	ネットワークシステム		2		集中
	ネットワークコンテンツ		2		
	ネットワークプログラミング		2		
	情報セキュリティ		2		
	通信工学		2		
	パターン情報処理		2		
	音声画像処理		2		
	自然言語処理		2		
	人工知能		2		
	ソフトコンピューティング		2		
	インターンシップ (学外研修)		2		
	技術者倫理		2		
	知的財産権論		2		
	セミナー1	2			
	セミナー2	2			
	卒業研究	6			
	幾何学1			2	
	幾何学2			2	
	数理統計学2			2	
	応用解析1			2	
	応用解析2			2	
	応用解析3			2	
	応用解析4			2	
	代数系入門			2	
	情報化社会と情報倫理			2	
	情報化社会と職業			2	
	合計		37	114	
			177		

3. 情報学部情報デザイン学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	情報デザイン入門 세미나	1			
	自己表現 1	2			
	自己表現 2	2			
	自己表現 3		2		
	自己表現 4		2		
	社会と情報 A		2		
	社会と情報 B		2		
	社会と情報 C		2		
	造形デザイン演習 1		4		
	造形デザイン演習 2		4		
	基礎デザイン論 1		2		
	基礎デザイン論 2		2		
	基礎デザイン論 3		2		
	クリエイティブ・ビジネス基礎 1			2	
	情報デザイン基礎実習 A	2			
	情報デザイン基礎実習 B	2			
	情報デザイン基礎実習 C		2		
	情報デザイン基礎実習 D		2		
	情報デザイン基礎実習 E		2		
	情報デザイン基礎実習 F		2		
	基礎音楽論			2	
	コンピュータサウンド 1			2	
	コンピュータサウンド 2			2	
	映像デザイン基礎 1			2	
	映像デザイン基礎 2			2	
	2Dグラフィックス基礎実習			2	
	CAD基礎実習			2	
	3Dグラフィックス基礎実習			2	
	CGプログラミング 1			2	
	CGプログラミング 2			2	
	CAD実習 1			2	
	CAD実習 2			2	
	プログラミング 1			2	
	プログラミング 2			2	
	コンピュータリテラシ				2
	情報デザイン特別活動 A				1
	情報デザイン特別活動 B				1
	情報デザイン特別活動 C				1
	情報デザイン特別活動 D				1
	現代物理学 1				2
現代物理学 2				2	
専門科目群	デジタルグラフィックス実習 A		2		
	デジタルグラフィックス実習 B		2		
	視覚情報デザイン実習 A		2		
	視覚情報デザイン実習 B		2		
	デジタルデザイン論 A		2		
	デジタルデザイン論 B		2		
	視覚情報表現論		2		
	コミュニケーションデザイン論		2		
	メディアクリエイティブ実習 A		2		
	メディアクリエイティブ実習 B		2		
	メディアクリエイティブ実習 C		2		
	メディアクリエイティブ実習 D		2		

(次項につづく)

区分	授業科目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門 科目 目 群	メディアクリエイティブ論A		2		
	メディアクリエイティブ論B		2		
	メディアクリエイティブ論C		2		
	メディアクリエイティブ論D		2		
	Webデザイン基礎実習		2		
	WebデザインA		2		
	WebデザインB		2		
	クリエイティブ・ワークプロジェクトA		2		
	クリエイティブ・ワークプロジェクトB		2		
	クリエイティブ・ビジネス基礎2		2		
	クリエイティブ・ビジネス		2		
	社会と情報D		2		
	製品デザイン実習A		2		
	製品デザイン実習B		2		
	応用CAD実習A		2		
	応用CAD実習B		2		
	プロダクトデザイン論		2		
	材料と加工法論		2		
	デジタルプレゼンテーション論		2		
	造形制作技法		2		
	プログラミング3		2		
	プログラミング4		2		
	ビジネスコンピューティング		2		
	インターンシップ(学外研修)		2		
	専門 세미나1	1			
	専門 세미나2	1			
	情報デザイン研究1	1			
	情報デザイン研究2	1			
	卒業研究	6			
	合計		19	134	10
		163			

4. 情報学部総合情報学科 専門教育科目

区分	授 業 科 目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専 門 基 礎 科 目 群	総合情報入門セミナー	1			
	コミュニケーションスキル1	2			
	コミュニケーションスキル2	2			
	情報処理演習1	2			
	データベース基礎		2		
	プログラミング演習1	2			
	情報統計学1	2			
	経営学概論		2		
	経済学入門		2		
	入門簿記		2		
	簿記原理		2		
	会計学		2		
	経営実践入門	2			
	経営実践1		2		
	スポーツ情報実践1		2		
	経営実践2		2		
	スポーツ情報実践2		2		
現代物理学1			2		
現代物理学2			2		
専 門 科 目 群	キャリア開発1	1			
	キャリア開発2	1			
	キャリア開発3	1			
	経営情報プロジェクト演習1		2		
	スポーツ情報プロジェクト演習1		2		
	経営情報プロジェクト演習2		2		
	スポーツ情報プロジェクト演習2		2		
	経営情報プロジェクト演習3		2		
	スポーツ情報プロジェクト演習3		2		
	情報概論		2		
	異文化コミュニケーション1		2		
	異文化コミュニケーション2		2		
	経営史		2		
	マーケティング概論		2		
	人材マネジメント		2		
	民法		2		
	会社法		2		
	交通論		2		
	企業経営戦略論		2		
	工業簿記		2		
	原価計算		2		
	データサイエンス概論	2			
	情報処理演習2		2		
	情報統計学2		2		
	プログラミング演習2		2		
	コーチング論		2		
	トレーニング論		2		
	スポーツ心理学		2		
	スポーツライフと社会		2		
	スポーツライフと栄養		2		
スポーツライフと健康		2			
スポーツ情報科学概論		2			

(次項につづく)

区分	授 業 科 目	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目 群	スポーツライフのデータサイエンス		2		
	スポーツ測定評価法		2		
	ヘルスケアとスポーツライフ		2		
	スポーツコンディショニング		2		
	スポーツコンディショニング演習		2		
	データサイエンス演習1	2			
	データサイエンス演習2		2		
	キャリア開発4		1		
	プレゼンテーションスキル		2		
	経営情報論		2		
	管理会計論		2		
	経営実践3		2		
	スポーツ情報実践3		2		
	経営分析		2		
	ベンチャービジネス論		2		
	インターネットビジネス		2		
	物流論		2		
	中小企業論		2		
	国際経営論		2		
	金融と財務		2		
	労働法		2		
	知的財産権		2		
	環境経営論		2		
	スポーツと安全		2		
	スポーツマネジメント		2		
	海外事情A		2		
	海外事情B		2		
	インターンシップ (学外研修)		2		
	セミナー1	2			
	セミナー2	2			
セミナー3	2				
セミナー4	2				
卒業研究	6				
合 計		34	129	4	
			167		

別表(2)

I. 「数学」(中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状)に関する教職課程科目表

[数学コース]

1. 「教育の基礎的理解に関する科目等」

(工学部の機械工学科、機械システム工学科及び電気電子工学科並びに情報学部の情報システム学科)

	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
第三欄	教職論	2		
	教育原理	2		
	教育心理学	2		
	教育社会学	2		
	特別支援教育の理論と指導方法	2		
	教育課程論	2		
第四欄	道徳教育の理論と実践	2		中1種免のみ必修
	総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育方法論	2		
	情報通信技術の活用	1		
	生徒・進路指導論	2		
	教育相談の理論と方法	2		
第五欄	教育実習指導	1		中1種免のみ必修
	教育実習A	2		
	教育実習B	2		
	教職実践演習(中等)	2		
合計	中学校教免	31		
	高校教免	27		

2. 「教科及び教科の指導法に関する科目」

(1) 機械工学科

① 中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学 解析学
解析学 1	2		
解析学 2	2		
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
機械設計製図 1	2		コンピュータ
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
数学科教育法 3	2		
数学科教育法 4	2		
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学 解析学
応用解析 2	2		
応用解析 3		2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
機械設計製図 2	2		コンピュータ
シミュレーション工学		2	
合計	3 2	1 4	

② 高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学 解析学
解析学 1	2		
解析学 2	2		
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
機械設計製図 1	2		コンピュータ
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学 解析学
応用解析 2	2		
応用解析 3		2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
機械設計製図 2	2		コンピュータ
シミュレーション工学		2	
合計	2 8	1 4	

## (2) 機械システム工学科

## ①中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		解析学
解析学 2	2		
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
デジタルエンジニアリング 1	2		コンピュータ
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
数学科教育法 3	2		
数学科教育法 4	2		
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2	2		解析学
応用解析 3		2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
プログラミング 2	2		コンピュータ
デジタルエンジニアリング 3 B		2	
合計	32	14	

## ②高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		解析学
解析学 2	2		
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
デジタルエンジニアリング 1	2		コンピュータ
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2	2		解析学
応用解析 3		2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
プログラミング 2	2		コンピュータ
デジタルエンジニアリング 3 B		2	
合計	28	14	

## (3) 電気電子工学科

## ① 中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		
解析学 2	2		解析学
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
プログラミング 2	2		コンピュータ
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2	2		
応用解析 3		2	解析学
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	
コンピュータ工学 1		2	「確率論、統計学」
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
数学科教育法 3	2		
数学科教育法 4	2		
合 計	30	14	

## ② 高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		
解析学 2	2		解析学
解析学 3	2		
応用解析 1	2		
常微分方程式	2		
数理統計学 1	2		「確率論、統計学」
プログラミング 2	2		コンピュータ
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2	2		
応用解析 3		2	解析学
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	
コンピュータ工学 1		2	「確率論、統計学」
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
合 計	26	14	

## (4) 情報システム学科

## ① 中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		解析学
解析学 2	2		
解析学 3	2		
常微分方程式	2		
応用解析 1	2		
確率・統計	2		「確率論、統計学」
プログラミング 1	2		コンピュータ
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2			解析学
応用解析 3	2	2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
情報統計学		2	コンピュータ
数値計算法		2	
情報理論		2	
オートマトン・言語理論		2	
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
数学科教育法 3	2		
数学科教育法 4	2		
合 計	30	20	

## ② 高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
線形代数 1	2		代数学
線形代数 2	2		
幾何学 1	2		幾何学
解析学 1	2		解析学
解析学 2	2		
解析学 3	2		
常微分方程式	2		
応用解析 1	2		
確率・統計	2		「確率論、統計学」
プログラミング 1	2		コンピュータ
線形代数 3		2	代数学
代数系入門		2	
幾何学 2		2	幾何学
応用解析 2			解析学
応用解析 3	2	2	
応用解析 4		2	
数理統計学 2		2	「確率論、統計学」
情報統計学		2	コンピュータ
数値計算法		2	
情報理論		2	
オートマトン・言語理論		2	
数学科教育法 1	2		各教科の指導法
数学科教育法 2	2		
合 計	26	20	

Ⅱ. 「工業」（高等学校教諭一種免許状）に関する教職課程科目表

[工業コース]

1. 「教育の基礎的理解に関する科目等」

（工学部の機械工学科、機械システム工学科及び電気電子工学科）

	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
第三欄	教職論	2		
	教育原理	2		
	教育心理学	2		
	教育社会学	2		
	特別支援教育の理論と指導方法	2		
	教育課程論	2		
第四欄	総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育方法論	2		
	情報通信技術の活用	1		
	生徒・進路指導論	2		
	教育相談の理論と方法	2		
第五欄	教育実習指導	1		
	教育実習B	2		
	教職実践演習	2		
合計	高校免許	27		

2. 「教科及び教科の指導法に関する科目」

(1) 機械工学科

高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
工学概論	2		
工業力学	2		
加工学基礎	2		
機械力学基礎	2		
材料力学基礎	2		
機械材料学基礎	2		
熱力学基礎	2		
流体力学基礎	2		
要素・機構設計学	2		
機械力学		2	
材料力学		2	
材料強度設計学		2	
応用機械工学A		2	
応用機械工学B		2	
自動車工学		2	
熱エネルギー工学		2	
熱移動工学		2	
流体力学1		2	
計測工学		2	
電気工学		2	
航空宇宙工学		2	
機械材料学		2	
機能材料工学		2	
機械加工学		2	
変形加工学		2	
熔融加工学		2	
表面加工学		2	
環境工学		2	
基礎機械製図	2		
応用設計演習1		2	
応用設計演習2		2	
数値計算法1		2	
数値計算法2		2	
機械製作実習1	2		
機械製作実習2	2		
機械工学実験1	2		
機械工学実験2	2		
品質管理		2	
工業経営論		2	
科学技術史と技術者倫理		2	
職業指導1	2		
職業指導2	2		
工業科教育法1	2		
工業科教育法2	2		
合計	36	52	

(2) 機械システム工学科  
高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
工学概論	2		
材料力学 1	2		
材料力学 2		2	
熱力学 1	2		
熱力学 2		2	
流体力学 1	2		
流体力学 2		2	
機械力学 1	2		
機械力学 2		2	
工業力学	2		
材料工学 1		2	
材料工学 2		2	
加工学 1	2		
加工学 2		2	
電気・電子工学 1	2		
電気・電子工学 2		2	
計測工学		2	
制御工学		2	
機械要素		2	
デジタルエンジニアリング入門	2		
デジタルエンジニアリング 2		2	
デジタルエンジニアリング 3 A		2	
デジタルエンジニアリング 4		2	
機械加工実習	2		
電気電子工学実習	2		
機械工学実験 A	2		
機械工学実験 B	2		
自動車工学		2	
流体システム工学		2	
メカトロニクス工学		2	
エンジン工学		2	
工業経営概論		2	
品質工学		2	
科学技術史論と技術者倫理		2	
ロボット工学		2	
機械製図	2		
創造製作演習	4		
センサ・アクチュエータ工学		2	
オートメーション工学		2	
コンピュータビジョン		2	
職業指導 1	2		
職業指導 2	2		
工業科教育法 1	2		
工業科教育法 2	2		
合計	40	50	

(3) 電気電子工学科  
高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
工学概論	2		
電気回路理論 1	2		
電気回路理論 2	2		
電気回路理論 3	2		
電気回路理論 4		2	
電気回路理論演習		2	
電気磁気学 1	2		
電気磁気学 2	2		
電気磁気学 3		2	
電気磁気学演習 1		2	
電気磁気学演習 2		2	
電子回路 1	2		
電子回路 2		2	
電気電子工学実験 1	2		
電気電子工学実験 2	2		
電気電子工学実験 3	2		
電気電子工学実験 4	2		
電気電子計測		2	
電気法規		2	
電気エネルギー発生工学		2	
エネルギー変換工学 1		2	
エネルギー変換工学 2		2	
エネルギー伝送工学		2	
パワーエレクトロニクス		2	
デジタル回路		2	
センサ工学		2	
制御工学 1		2	
メカトロニクス		2	
コンピュータ工学 2		2	
制御工学 2		2	
電気電子材料		2	
電子物性 1		2	
半導体デバイス工学 1		2	
半導体デバイス工学 2		2	
電気電子設計製図演習		2	
電気電子CAD演習		2	
職業指導 1	2		
職業指導 2	2		
工業科教育法 1	2		
工業科教育法 2	2		
合計	30	50	

Ⅲ. 「情報」（高等学校教諭一種免許状）に関する教職課程科目表

[情報コース]

1. 「教育の基礎的理解に関する科目等」（情報学部 情報システム学科）

	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
第三欄	教職論	2		
	教育原理	2		
	教育心理学	2		
	教育社会学	2		
	特別支援教育の理論と指導方法	2		
	教育課程論	2		
第四欄	総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育方法論	2		
	情報通信技術の活用	1		
	生徒・進路指導論	2		
	教育相談の理論と方法	2		
第五欄	教育実習指導	1		
	教育実習B	2		
	教職実践演習	2		
合計	高校免許	27		

2. 「教科及び教科の指導法に関する科目」

(1) 情報システム学科

高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
知的財産権論		2	情報社会と情報倫理
情報化社会と情報倫理	2		
プログラミング2	2		コンピュータ及び情報処理
コンピュータアーキテクチャ1	2		
コンピュータアーキテクチャ2		2	
アルゴリズムとデータ構造1	2		
アルゴリズムとデータ構造2		2	
情報演習D	4		
コンパイラ構成法		2	
デジタル回路		2	
コンピュータセンシング		2	
オブジェクト指向プログラミング		2	
オペレーティングシステム	2		情報システム
ソフトウェア工学		2	
データベース	2		
リアルタイムシステム		2	
分散処理		2	
情報ネットワーク概論	2		情報通信ネットワーク
情報ネットワーク1	2		
ネットワークプログラミング		2	
通信工学		2	
ネットワークシステム		2	
音声画像処理		2	マルチメディア表現及び技術
情報演習C	4		
CAD	2		
情報化社会と職業	2		情報と職業
情報科教育法1	2		各教科の指導法
情報科教育法2	2		
合計	32	28	

IV. 教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に規定する科目及び単位数

施行規則66条の6		大学の授業科目	
日本国憲法	4単位	「法学A (日本国憲法を含む)」	(2単位)
		「法学B (日本国憲法を含む)」	(2単位)
		計 4単位	
体育	2単位	「健康科学演習A」	(1単位)
		「健康科学演習B」	(1単位)
		計 2単位	
外国語コミュニケーション	2単位	「英語スキル3」英語会話コース	(1単位)
		「英語スキル4」英語会話コース	(1単位)
		「実践英語1」	(1単位)
		「実践英語2」	(1単位)
		計 4単位	
情報機器の操作	2単位	機械工学科	「機械工学基礎C」
		機械システム工学科	「プログラミング1」
		電気電子工学科	「プログラミング1」
		情報システム学科	「プログラミング入門」
		各学科 2単位	

学則別表(2)の2

学部	学 科	コース	教員の免許状の種類(免許教科)
工学部	機械工学科	工業コース	高等学校教諭一種免許状(工業)
		数学コース	中学校教諭一種免許状(数学)
	高等学校教諭一種免許状(数学)		
	機械システム工学科	工業コース	高等学校教諭一種免許状(工業)
		数学コース	中学校教諭一種免許状(数学)
	高等学校教諭一種免許状(数学)		
電気電子工学科	工業コース	高等学校教諭一種免許状(工業)	
	数学コース	中学校教諭一種免許状(数学)	
高等学校教諭一種免許状(数学)			
情報学部	情報システム学科	情報コース	高等学校教諭一種免許状(情報)
		数学コース	中学校教諭一種免許状(数学)
			高等学校教諭一種免許状(数学)

別表(3) 削 除

別表(4) 削 除

別表(5) 入学検定料・学生納付金(第35条・第35条の2・第35条の3・第36条関係)

1. 入学検定料

納付金種別	金額
入学検定料	35,000円

入学検定料の減額に関することは、別に定める。

2. 学生納付金

(1) 入学金

第24条に規定する入学並びに第26条に規定する編入学及び転入学は300,000円とし、第25条に規定する再入学は150,000円とする。

(2) 授業料及び施設設備費

① 工学部

納付金種別	金額			
	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	940,000円	960,000円	980,000円	1,000,000円
施設設備費	345,000円	355,000円	365,000円	375,000円
計	1,285,000円	1,315,000円	1,345,000円	1,375,000円

① 建築学部

納付金種別	金額			
	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	940,000円	960,000円	980,000円	1,000,000円
施設設備費	345,000円	355,000円	365,000円	375,000円
計	1,285,000円	1,315,000円	1,345,000円	1,375,000円

② 情報学部

ア 情報システム学科及び情報デザイン学科

納付金種別	金額			
	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	940,000円	960,000円	980,000円	1,000,000円
施設設備費	345,000円	355,000円	365,000円	375,000円
計	1,285,000円	1,315,000円	1,345,000円	1,375,000円

イ 総合情報学科

納付金種別	金額			
	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	720,000円	740,000円	760,000円	780,000円
施設設備費	325,000円	335,000円	345,000円	355,000円
計	1,045,000円	1,075,000円	1,105,000円	1,135,000円

(3) その他諸納付金

① 復籍料

30,000 円とする。

② 学生納付金の特例

履修登録 1 単位あたり 40,000 円とする。

③ 休学時の在籍料

年額 60,000 円とする。

ただし、前期又は後期の休学を許可された場合の在籍料は、年額の 2 分の 1 とする。

④ 教職課程履修料

1 免許毎 18,000 円とする。

## 設置の趣旨等を記載した書類

### 目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部、学科等の特色	5
3. 学部、学科等の名称及び学位の名称	6
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	6
5. 教育方法，履修指導方法及び卒業要件	11
6. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	15
7. 取得可能な資格	15
8. 入学者選抜の概要	16
9. 教員組織の編制の考え方及び特色	21
10. 研究の実施についての考え方，体制，取組	22
11. 施設，設備等の整備計画	22
12. 管理運営及び事務組織	24
13. 自己点検・評価	26
14. 情報の公表	26
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	28
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	30

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### [1] 建築学部設置の趣旨

本学は、昭和 14 年に設立された大同工業学校を前身としている。当時、大同製鋼（現・大同特殊鋼株式会社）は、社内のみならず一般社会に対しても有能な産業技術者を多数育成し、教育面から社会に対して貢献したいとの考えから大同工業教育財団を設置し、その財団を母体に大同工業学校を設立した。以来、新学制により大同工業高等学校（現・大同大学大同高等学校）、大同中学校を、そして昭和 37 年に大同工業短期大学、昭和 39 年には中部産業界の支援を得て大同工業大学を開設し、機械工学科と電気工学科の 2 学科が設置された。大同工業大学の建学の精神は、大学設置の趣旨で謳われた「産学協同」と「実学に基づく技術者教育」である。創設者の意志は、大同学園の歴史とともに受け継がれ、大学の理念である「創造と調和」という言葉に昇華され、「教育理念」と「教育目標」により具現化していた。それ以来、本学は工学部のみの工科系単科大学として発展してきたが、平成 14 年度に情報学部を開設して 2 学部体制となった。そして、学園創立 70 周年を機に、平成 21 年度から校名を「大同工業大学」から「大同大学」に改称し、建学の精神は「産業と社会の要請に応える人材の養成」とし、大学の理念は「実学主義」として、実学の教育研究を通じて産業界と社会に貢献することを目標としてきた。

2020 年には「DAIDO VISION 2030」を策定し、学生の行動指針を「自分が変わる、未来を変える。」とした。専門的な知識や確かな技術力の修得とともに、学生生活全般を通して、「自ら課題を見つけて解決する力」、「他者と協働するコミュニケーション力」、「新たな価値を生み出す創造力」を身につけて欲しいという想いと同時に、自らの未来を力強く変えていくというメッセージは、学生だけでなく教職員も未来に向けて変わっていかうという決意表明でもある。

学園創立 80 周年に合わせ、2020 年春に竣工した新校舎・X 棟は、主に工学部建築学科のための「生きた教材」として供用開始され、変革のための第一歩を踏み出した。さらに、工学部建築学科から、建築学部建築学科へと変革することで、グローバル化や時代と社会の変化に向けたさらなる対応を計りたい。

### [2] 建築学部設置の必要性

建築学部の母体となる、現在の工学部建築学科は、これまでその建学の精神や大学の理念のもと、時代や社会の要請に応じて、多くの技術者を輩出してきた。ことにこの東海圏では自動車産業に代表される近代以降隆盛を誇っていた工業界の影響が大きい時代も続いたが、21 世紀を迎えた現代社会を取り巻く環境は、工業の視点だけでは解決しないことが露呈してきてもいる。

そもそも「建築学」の領域は古くから、工学の枠に収まるものではなく、理系・文系・芸術系のすべての要素が含有されており、欧米の大学では、大学での建築学教育にあたり、日本のような工学部等の他学問分野との小学科方式をとらずに「建築学部」

としているところがほとんどである。本学では、「建築学」が構造や材料などの工学的要素はもちろんの事、建築史やデザイン史などの文系的要素、美しさやデザインなどの芸術系要素を兼ね備えた総合的な学問であったことと、さらに現代的な要素として、環境共生や地域再生、防災復興や修景保存なども加わりつつあるこの分野は、ますます工学だけではカバーしきれない幅広い学問領域になっており、それらに柔軟に対応する教育環境の整備が必要であると考え、そこで現代社会を取り巻く様々な問題に対応できる教育を展開し、21世紀を迎えた現代社会の環境に対応できる人材の育成が可能な教育環境が必要であると考え、現在の4つのコース（建築コース、インテリアデザインコース、かおりデザインコース、土木・環境コース）からなる工学部建築学科を母体とし、建築学部建築学科を設置することで、時代と社会の要請に応えていきたい。

### [3] 建築学部で養成する人材像と研究対象

建築学部建築学科で要請する人材像は、「建築及び都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成する」という従来の工学部建築学科における養成する人材像を基本とし、さらに「建築学」が古くから、工学的要素だけでなく、文系的要素、芸術的要素を兼ね備えた総合的な学問であったことへの対応と、近年における、環境共生や地域再生、防災復興や修景保存などの現代的な要素も加えた知識と技術を有し、時代や社会の変化にも対応できる、表現力・創造力・構築力を併せ持ち、総合的な判断力を有した、感性を豊かに持ち未来を変えることのできる人材を養成する。

また、建築学部建築学科として研究対象とする中心的な学問分野は、現在の工学部建築学科での4つのコース（建築コース、インテリアデザインコース、かおりデザインコース、土木・環境コース）を踏襲するとともに、その履修モデルと連動させ、建築エンジニアリング分野、建築デザイン系分野、インテリアデザイン分野、におい・かおり分野、社会基盤分野、都市・環境システム分野とする。

本学では、養成する人材像を含む学部・学科の目的に基づき学位授与の方針（DP）を定めており、さらにこの方針に基づき、入学者受入れの方針（AP）を定め、同時に学位授与の方針に基づく本学独自の教育課程を生成するため教育課程編成・実施の方針（CP）を定めている。建築学部の養成する人材像及び3つのポリシーの各項目との相関について別紙に示す。【資料1】

### [4] 3つのポリシー

以下に大学の3つのポリシーを示す。

#### 学位授与の方針

大同大学の学士の学位は、以下の4つの力を備えた者に授与する。

- a. 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている

健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。

b. 豊かな教養を身につけている

教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度が備わっている。

c. 確かな専門性を身につけている

自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、問題解決のために応用できる。

d. 豊かな創造力を身につけている

獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

## 教育課程編成・実施の方針

大同大学は、学位授与の方針を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

### 1. 教育課程編成の基本原則

教育課程は、規定の修業年限を通じた一貫した学士課程教育として編成する。

### 2. 学位授与の方針と教育課程編成

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、学位授与の方針に即し、学修の達成に必要な授業科目を順次的・体系的に配置するとともに、授業科目ごとに学修内容及び学修到達目標を適切に定める。その際、学生の主体的な学びを引き出す学修内容等について配慮するものとする。

### 3. 教育課程の適切性の保証と履修モデル

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、教育課程の適切性を担保するため、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップ及び各授業科目の順次性・体系性を示すカリキュラムフローチャートを作成する。また、学生が適切に授業科目を履修できるよう履修モデルを作成する。以上について、大学並びに教養部及び各学部、学科等は、学生に周知する。

### 4. 単位制度の実質化に向けた組織的取組

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、単位制度を実質化し、学位授与の方針をより高いレベルで達成できるよう、授業回数の確保やキャップ制の導入などの制度的対応をとるとともに、適切な履修指導及び学修指導を行う。

### 5. シラバスの充実

大学並びに教養部及び各学部、学科等並びに授業科目担当者は、シラバスを通じて、授業科目の、(1) 学位授与の方針に対する貢献度、(2) 学修内容、(3) 学修到達目標、(4) 成績評価の方法・基準、(5) 準備学習・事後学習の内容、などを学生に明確に伝える。

### 6. 厳格な成績評価の組織的取組

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、各授業科目担当者が、明確化された学修

到達目標と成績評価方法・基準に基づき厳格な成績評価を行うように組織的に取り組むとともに、学修到達目標や成績評価方法・基準についての教員間の共通理解を形成する。

## 入学者受入の方針

大同大学建築学部では、次のような人を広く求めています。

### (知識・技能・思考力)

- (1) 新しいものを創ることに興味をもち、工夫することができる人
- (2) 専攻する分野を学ぶための基礎的な知識や技能を有している人

### (判断力・コミュニケーション力)

- (3) 広い視野と健全な価値観をもち、決断力と行動力のある人
- (4) 豊かな感性と表現力をもつ人
- (5) 人格を尊重しあい、他者と協調できる人

### (関心・意欲・態度)

- (6) 自己の能力向上に意欲をもち、将来の夢や目標を見つけない人
- (7) 目標に向かって自己を開拓する意欲を持っている人
- (8) 学科・専攻の研究領域に興味をもち、専攻する分野の勉学への熱意をもつ人
- (9) 地域や社会との関わりに興味をもち、発展に貢献したい人

なお、建築学部では4つのコース（建築コース、インテリアデザインコース、かおりデザインコース、都市空間インフラコース）毎に学位授与の方針及び入学者受け入れの方針を定めている。【資料2】

## 2. 学部、学科等の特色

建築学部建築学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で提言されている「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に掲げられる7つの主要機能のうち、「2. 高度専門的職業人養成」及び「5. 特定の専門的分野（建築学）の教育・研究」の2つの機能を重点的に担うことを主眼としている。現在までの工学部建築学科の「建築」「インテリアデザイン」「かおりデザイン」「土木・環境」の4つのコースで行われてきた、充実した実学教育と研究を継承しつつ、それらのコースを横断しながら「建築学」に関連する様々な分野の知識を身につけることで、時代や社会の変化にも対応できる、未来を変える人材の育成を図る。

また上記の機能の他にも「7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」に関しても、これまでの工学部建築学科で取り組んできた試みをさらに発展的に継続する。具体的なクライアントに参加してもらい住宅を設計する「D-ラーニング」や、イタリア・ミラノ工科大学との連携授業「C-Scape」などは、すでに10年を超えて継続してきているが、上記の機能として十分応えるものとなるようさらなる発展を目指す。

建築学部建築学科は、「建築学」を総合的に学ぶことが出来る学科であるが、「建築学」の中の細分化された分野を充実した実学教育として学べるように4つのコースを設け

て学習させる。それらのコースが、「建築コース」と「インテリアデザインコース」、「かおりデザインコース」と「都市空間インフラコースである。学生は、自らの興味・関心を基にして、どの分野をさらに詳しく学ぶかを選択することができる。

「建築コース」では、計画・歴史・構造・材料・環境の5つの分野をバランスよく学びながら、同時に人間のための快適な空間づくりのための表現力・構築力を修得させる。「インテリアデザインコース」では、計画・歴史・構造・材料・環境の5つの分野によるさまざまな要素が融合して成り立つインテリアという空間を、材料や構法、光・熱・音環境や人間工学などを幅広く学びながら、目的に応じた空間づくりの表現力・創造力を修得させる。「かおりデザインコース」では、暮らしに密接にかかわっていながら、未解明要素が多い「におい・かおり」分野を対象とし、悪臭・異臭のにおい問題や作業効率の向上や癒しに繋がるかおりを学ばせ、人の感性と生活環境に関する情報の収集・整理・活用能力を修得させる。「都市空間インフラコース」では、人と自然の調和やテクノロジーとの融合をテーマとし、最先端の情報技術を取り入れたまちづくり DX 教育を展開し、交通インフラやライフライン、防災インフラなど、環境との調和と都市の発展に寄与できる能力を修得させる。

### 3. 学部、学科等の名称及び学位の名称

設置の趣旨及び教育研究上の目的にふさわしく、かつ、学生にわかりやすい名称として、学部名称を「建築学部」、設置する学科の名称を「建築学科」とし、学位に付記する専攻分野名は、「学士（建築学）」とする。

学部、学科名称及び学位の英訳名は次のとおりとする。

建築学部	: School of Architecture
建築学科	: Department of Architecture
学 位	
学士（建築学）	: Bachelor of Architecture

### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

#### [1] 教育課程編成の考え方

本学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は以下のとおりである。

大同大学は、学位授与の方針を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

#### 1. 教育課程編成の基本原則

教育課程は、規定の修業年限を通じた一貫した学士課程教育として編成する。

#### 2. 学位授与の方針と教育課程編成

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、学位授与の方針に即し、学修の達成に必要な

な授業科目を順次的・体系的に配置するとともに、授業科目ごとに学修内容及び学修到達目標を適切に定める。その際、学生の主体的な学びを引き出す学修内容等について配慮するものとする。

### 3. 教育課程の適切性の保証と履修モデル

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、教育課程の適切性を担保するため、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップ及び各授業科目の順次性・体系性を示すカリキュラムフローチャートを作成する。また、学生が適切に授業科目を履修できるよう履修モデルを作成する。以上について、大学並びに教養部及び各学部、学科等は、学生に周知する。

### 4. 単位制度の実質化に向けた組織的取組

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、単位制度を実質化し、学位授与の方針をより高いレベルで達成できるよう、授業回数の確保やキャップ制の導入などの制度的対応をとるとともに、適切な履修指導及び学修指導を行う。

### 5. シラバスの充実

大学並びに教養部及び各学部、学科等並びに授業科目担当者は、シラバスを通じて、授業科目の、(1) 学位授与の方針に対する貢献度、(2) 学修内容、(3) 学修到達目標、(4) 成績評価の方法・基準、(5) 準備学習・事後学習の内容、などを学生に明確に伝える。

### 6. 厳格な成績評価の組織的取組

大学並びに教養部及び各学部、学科等は、各授業科目担当者が、明確化された学修到達目標と成績評価方法・基準に基づき厳格な成績評価を行うように組織的に取り組むとともに、学修到達目標や成績評価方法・基準についての教員間の共通理解を形成する。

## [2] 教育課程の編成の特色

教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、あらゆる学問に必要とされる基本的能力とされる「問題を発見し、自分で解決方法を考える力」を養うための人間科学科目群と、専門的な知識・技術を養うための専門基礎科目群及び専門科目群に大きく区別している。これは本学の各学部・学科において共通の特徴となっている。学生は1年次から4年次にわたって専門教育に触れ、早くから卒業後の進路を意識して学修に取り組むことができるように、さらにカリキュラム・ポリシーの各項目と教育課程(各授業科目)が整合するように、これらの科目群はくさび形に編成されている。さらに4つのコースに準じた履修モデルを設定することで、それぞれの分野に近い専門性と関連性を修得できる構成としている。また、4つのコースと履修モデルとの関連性を明確にするため、それぞれのコースにその選択に応じたコース内必修科目として配置をしている。そのため、全コースを通しての必修科目は、卒業研究のみとなり、他の科目はコース内必修科目、あるいは選択科目となる。その他に、卒業要件には直接関わらないが基幹科目及び展開科目を補完する自由科目も配置する。

また、学生は適切な量の授業を履修し、事前学習と事後学習を確実に行うことによって、修得単位にふさわしい学力を身につけられるよう、1年間で44単位を履修の上

限としている。

## ①人間科学科目群

人間科学科目群は、言語・体育実技分野のAグループと人文社会自然分野のBグループに分けている。Bグループは、さらに、「人間・歴史文化・こころの理解」、「国際情勢と社会のしくみ」、「科学的なものの見方と環境問題へのアプローチ」、「学問への複眼的アプローチ」の4つのグループに分けている。

### a. 人間科学科目群Aグループ

この分野は、新入学の学生に対する大学生活の導入教育を行う「ファースト・イヤー・ 세미나」、外国人とのコミュニケーションに必要な英語を中心とする「外国語科目」、個人の健康と運動能力の開発・維持・向上を目的とした体育の実技または講義を行う「スポーツ科目」、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とした「数理・データサイエンス・AI科目」の4グループに分け、「ファースト・イヤー・セミナ」、「基礎英語セミナ」、「英語スキル1」、「中国語入門1」、「英語スキル2」、「中国語入門2」、「資格英語」、「実践英語」、「英語ライティング」、「英語プレゼンテーション」、「スポーツ実技A」、「スポーツ実技B」、「スポーツと健康の科学A」、「スポーツと健康の科学B」、「情報リテラシー概論」、「データサイエンス概論」を配置している。

### b. 人間科学科目群Bグループ

この分野は、「論理的な思考力と的確な表現力の養成」を目的として、物事を直感だけに頼らず、いくつかの見方を冷静に比較した上で判断しようとする「批判的思考」、物事の仕組みを細かく分けて見ていき、その上でもう一度全体の意味を考えようとする「分析と総合」などを学習できるように科目を配置している。また、学生の関心や興味に応じて履修が選択できるように、「人間・歴史文化・こころの理解」、「国際情勢と社会のしくみ」、「科学的なものの見方と環境問題へのアプローチ」、「学問への複眼的アプローチ」の4つのグループに分けている。それぞれのグループで開講される科目は、学生が人間と社会について理解を深め、これからどのように生きていくかを考える手がかりを提供できるように、その内容を工夫している。人間の営みや心の動きを扱う「人間・歴史文化・こころの理解」に関する科目として、「文学A」、「文学B」、「哲学A」、「哲学B」、「人類学A」、「人類学B」、「歴史学A」、「歴史学B」、「心理学A」、「心理学B」、「教育原理」、「教育心理学」を配置している。さまざまな社会の仕組みを扱う「国際情勢と社会のしくみ」に関する科目として、「政治学A」、「政治学B」、「経済学A」、「経済学B」、「法学A」、「法学B」、「社会学A」、「社会学B」、「社会調査法A」、「社会調査法B」、「現代社会論A」、「現代社会論B」、「教育社会学」を配置している。人の健康と環境に関する問題を科学的に扱う「科学的なものの見方と環境問題へのアプローチ」に関する科目として、「健康科学A」、「健康科学B」、「認知科学A」、「認知科学B」、「環境と防災A」、「環境と防災B」、「自然科学概論A」、「自然科学概論B」、「生物学A」、「生物学B」、「地球科学A」、「地球科学B」を配置している。「環境」、「資源」、「エネルギー」、「防災対策」、「こころ」、「教育」、「国際金融」、「法

律と訴訟」、「医療」など、現代人が抱える政治・社会・経済・文化などが複合する問題を複眼的に見ることで解決する能力を養う「学問への複眼的アプローチ」に関する科目として、「課題探究集中講座」、「課題探究 세미나 A」、「課題探究 세미나 B」、「教養総合講座 A」、「教養総合講座 B」を配置している。

## ② 専門基礎科目群

専門基礎科目群に配置される科目は、専門の基礎となる科目である。「建築学」の中の細分化された分野を充実した実学教育として学べるように展開し、学生は、自らの興味・関心を基にして、どの分野をさらに詳しく学ぶかを選択することができる。学生の関心や卒業後の進路を意識して選択する専門科目群に関連する科目に絞って履修できるよう、「建築コース」と「インテリアデザインコース」、「かおりデザインコース」と「都市空間インフラコース」の4つのコース全体を対象とした科目と、主にコースごとに選択できる科目を設定している。

4つのコース全体を対象とした科目として、「基礎数学セミナー」、「基礎理科セミナー」、「線形代数1」、「線形代数2」、「力学1」、「力学2」、「力学3」を配置している。主に「建築コース」と「インテリアデザインコース」を対象とした科目として、「化学1」、「化学2」、「建築基礎数理1」、「建築基礎数理2」、「建築概論」、「芸術概論」、「造形基礎実習」、「建築デザイン基礎実習」、「インテリアデザイン基礎実習」、「建築の仕組み」、「環境色彩論」、「力と形演習」、「情報リテラシー」、「建築CAD1」、「建築CAD2」、「建築プレゼンテーション演習」、「建築統計処理」、「デジタルファブリケーション演習」を配置している。主に「かおりデザインコース」を対象とした科目として、「基礎物理A」、「基礎物理B」、「現代物理学1」、「現代物理学2」、「化学基礎1」、「化学基礎2」、「数学基礎」、「解析学1」、「解析学2」、「解析学3」、「常微分方程式」を配置している。主に「都市空間インフラコース」を対象とした科目として、「基礎物理A」、「基礎物理B」、「現代物理学1」、「現代物理学2」、「化学1」、「化学2」、「数学基礎」、「解析学1」、「解析学2」、「解析学3」、「常微分方程式」、「基礎工学実験」を配置している。

## ③ 専門科目群

専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、関連科目及び卒業研究の科目群から構成されている。建築学科には、「建築コース」と「インテリアデザインコース」、「かおりデザインコース」と「都市空間インフラコース」の4つのコースがあるため、それぞれの専門分野に関連した多くの選択科目が配置されており、主にコースごとに選択できる科目を設定している。

### a. 基幹科目

建築学科の専門教育科目を学修するに当たり、基礎となる授業科目を配したもので、以下の構成である。

主に「建築コース」と「インテリアデザインコース」を対象とした科目として、「建築・インテリア入門セミナー」、「建築計画1」、「建築計画2」、「構造力学1」、「構造力学2」、「骨組の解析法」、「建築構法」、「建築材料」、「建築環境材料」、「構造・材料実

験」、「建築法規」、「建築・インテリア図法実習1」、「建築・インテリア図法実習2」、「建築設計1」、「建築設計2」、「建築設計3」、「建築遺産A」、「建築遺産B」、「環境工学1」、「環境工学2」、「環境工学3」、「建築設備」、「コンクリート系構造」、「鋼構造」、「インテリア計画1」、「インテリア計画2」、「インテリアエレメント演習1」、「インテリアエレメント演習2」、「デザインマネジメント演習1」、「デザインマネジメント演習2」、「インテリア設計1」、「インテリア設計2」、「インテリア設計3」を配置している。主に「かおりデザインコース」を対象とした科目として、「かおりデザイン入門セミナー」、「情報処理1」、「情報処理2」、「にのいの数値解析1」、「にのいの数値解析2」、「キャリア開発1」、「キャリア開発2」、「プロジェクト演習1」、「プロジェクト演習2」、「住居学」、「かおりデザイン演習1」、「かおりデザイン演習2」、「生活環境学1」、「生活環境学2」、「かおり成分と調香1」、「かおり成分と調香2」、「嗅覚の特性」、「嗅覚測定法」、「心理学概論」を配置している。主に「都市空間インフラコース」を対象とした科目として、「構造工学1」、「構造工学2」、「構造工学3」、「地盤工学1」、「地盤工学2」、「地盤工学3」、「流れ学1」、「流れ学2」、「環境生態学同実習」、「環境工学基礎」、「都市衛生工学」、「計画数理」、「都市環境プランニング」、「地域・都市計画」、「社会基盤設計」、「ドボクの計測・調査」、「都市空間インフラ入門セミナー」、「都市環境プロジェクト実習」、「測量学同実習1」、「測量学同実習2」、「基礎情報処理1」、「基礎情報処理2」、「CAD演習1」、「応用情報処理1」、「応用情報処理2」を配置している。

## b. 展開科目

展開科目は、基幹科目の内容を更に発展させ、学生が自らの関心と将来の進路に応じて選択し、その履修により専門性を高める科目であり、以下の構成である。

主に「建築コース」と「インテリアデザインコース」を対象とした科目として、「空間文化論」、「住空間論」、「建築企画論」、「都市計画」、「まちづくり論」、「建築デザイン論」、「総合空間設計1」、「総合空間設計2」、「建築デザイン史」、「力とデザイン」、「構造設計演習」、「維持・保全工学」、「建築生産1」、「建築生産2」、「建築測量学同実習」、「環境心理学」、「環境評価演習」、「振動と塑性解析」、「鉄筋コンクリート構造演習」を配置している。主に「かおりデザインコース」を対象とした科目として、「キャリア開発3」、「キャリア開発4」、「プロジェクト演習3」、「プロジェクト演習4」、「プロジェクト演習5」、「ランドスケープデザイン」、「かおりデザイン演習3」、「かおりデザイン演習4」、「かおりデザイン演習5」、「色彩論」、「生活環境評価演習1」、「生活環境評価演習2」、「生活環境評価演習3」、「食品とかおり」、「かおり成分と調香3」、「かおり成分と調香4」、「にのい・かおり測定演習1」、「にのい・かおり測定演習2」、「にのい・かおり測定演習3」、「アロマセラピー演習」、「消脱臭原理」、「脱臭性能評価演習」、「悪臭防止法」を配置している。主に「都市空間インフラコース」を対象とした科目として、「鋼構造工学」、「RC構造工学」、「建設技術」、「建設マネジメント」、「建設技術演習」、「維持管理工学」、「地盤環境工学」、「応用地質学」、「地盤設計技術」、「流域環境学」、「河川学」、「ビオトープ設計」、「環境アセスメント」、「資源循環工学」、「交通計画」、「都市デザイン実習」、「まちづくり関係法規」、「輸送シス

テム」、「ランドスケープ設計」、「道路工学」、「道路空間設計」、「CAD演習2」、「応用測量」、「応用数学」、「GIS基礎」、「GIS演習」、「3D設計基礎」、「VR演習」、「エクセレント 세미나」、「防災論」、「学びとキャリア」、「総合土木工学」、「技術者倫理」を配置している。

「インターンシップ（学外研修）」に関しては、全コースを対象に配置している。

#### c. 卒業研究

専門科目の中で重要な位置を占める科目が「卒業研究」である。この卒業研究に関する科目は、「建築コース」と「インテリアデザインコース」では、「 세미나1」「 세미나2」「卒業研究」として、「かおりデザインコース」、「都市空間インフラコース」では、「総合 세미나1」「総合 세미나2」「卒業研究」からなる。「卒業研究」においては、全コースともに学生が教員よりマン・ツー・マンで教育を受ける。

「 세미나1」「 세미나2」は、3年次の後期及び4年次前期に、「総合 세미나1」「総合 세미나2」は4年次前期と後期に行われるが、文献調査や分析、実験手法などの卒業研究に関連した演習を行うことにより、幅広い視野から総合的な判断を下す能力とプレゼンテーション能力を養う。

「卒業研究」は、これまで学んできた授業科目の総括的成果にあたるものである。各自が選択した研究テーマに沿って調査・分析を行い、自分の考えをまとめる。指導教員のもとで、自主性、総合力、分析力、問題解決能力やコミュニケーション能力の発揮を目指して、卒業論文あるいは卒業設計としてまとめ、全教員の前でプレゼンテーションを行う。

#### d. 自由科目

「かおりデザインコース」、「都市空間インフラコース」では、自由科目として、基幹科目及び展開科目を補完する科目「幾何学1」、「幾何学2」、「数理統計学1」、「数理統計学2」、「応用解析1」、「応用解析2」、「応用解析3」、「応用解析4」、「線形代数3」、「代数系入門」、「工学概論」、「職業指導1」、「職業指導2」を配置している。

### 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

#### [1] 教育方法及び履修指導方法

本学の学部の教育課程は、建築学部を含めた全学部共通で、Semester制をとっており、1年間で2つの学期（前期・後期）に分割し、それぞれ15週の授業を行い、4年間で8つの開講期を設定している。それぞれの授業科目は、専門分野の教育内容を体系的、段階的に学修するために、科目ごとに開講年次を定めている。

建築学部建築学科の授業方法は、それぞれの科目の特性に合わせて、講義・演習・設計・実験、実習及び製図と分類している。また、それぞれの科目での必要な知識・

技術の修得と学習効果を得るため、履修者数が著しく多くならず、少人数教育ができるよう、同一科目でも複数クラスを設定することもある。

本学の履修登録単位数の上限（CAP 制）は、前・後期、それぞれ 22 単位ずつ、1 年間で 44 単位である。ただし、この単位数には、自由科目、定期に開講しない授業科目及び他大学等で修得した単位で本学が認めた単位は含まない。本学では履修登録単位数の上限と連動させるため、1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしており、授業の方法に応じ、授業時間内の学修と授業時間外の学修を次のとおり定めている。

- (1)講義及び演習(1 単位科目) 授業時間内の学修 30 時間(毎週 2 時間)、授業時間外の学修 15 時間(毎週 1 時間)
- (2)講義及び演習(2 単位科目) 授業時間内の学修 30 時間(毎週 2 時間)、授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)
- (3)設計(3 単位科目) 授業時間内の学修 60 時間(毎週 4 時間)、授業時間外の学修 75 時間(毎週 5 時間)
- (4)実験、実習及び製図(2 単位科目) 授業時間内の学修 60 時間(毎週 4 時間)、授業時間外の学修 30 時間(毎週 2 時間)

なお、前学期において優れた成績をもって単位を修得した場合には、履修登録単位数の上限に各学期 4 単位まで加えて履修することができる（合計 26 単位まで）こととしている。

建築学科の学生が、適切に科目を選択するためのシラバスを作成する。シラバスには、全開講科目の「授業科目」・「単位数」・「担当教員」・「科目の概要」・「学習到達目標」・「各回の授業内容」・「成績評価の方法」・「使用する教科書・参考書」の項目を記載する。加えて、専門への動機付け科目として開講する「入門 세미나」において、指導教員から、カリキュラムの適切な理解と個々の学生が自己の学修目的や将来希望する進路にあわせた科目の履修ができるよう、コースごとの履修モデルを提示しながらガイダンスを行う。

## [2] 履修モデル【資料 3】

学生が、自らの関心や適性、将来の進路などを考慮して主体的に科目を選択して学修に取り組むことができるよう、建築学科に次の履修モデルを置く。

4 つのコースに準じた履修モデルを設定することで、それぞれの分野に近い専門性と関連性を修得できる構成としている。また、4 つのコースと履修モデルとの関連性を明確にするため、それぞれのコースにその選択に応じたコース内必修科目を配置している。

### 履修モデル A : 建築（建築エンジニアリング系）コース

このモデルでは、2 年次後期以降において、エンジニアリング系の授業科目を重点に選択する。

卒業研究で、構造・材料・環境系の分野での研究を志望する学生に向けており、卒業後は建築物の施工に関わる建設業などの分野で活躍する人材を養成するコース。

**履修モデルB : 建築（建築デザイン系）コース**

このモデルでは、2年次後期以降において、デザイン系の授業科目を重点に選択する。

卒業研究で、計画・設計・歴史系の分野での研究を志望する学生に向けており、卒業後は設計事務所などの分野で活躍する人材を養成するコース。

**履修モデルC : インテリアデザインコース**

このモデルでは、2年次後期以降において、デザイン系の授業科目を重点に選択する。

卒業研究で、計画・設計・歴史系の分野での研究を志望する学生に向けており、卒業後は設計事務所やハウスメーカーなどの分野で活躍する人材を養成するコース。

**履修モデルD : かおりデザイン（かおり活用系）コース**

特に香料・かおりに関する知識と調香技術を取得し、生活環境の様々な環境要素とかおりの関係を考慮して快適な生活環境の創造ができる人材を養成するモデル

**履修モデルE : かおりデザイン（臭気測定・対策系）コース**

特に臭気測定・評価、対策に関する知識と技術を取得し、環境測定、においの測定・成分分析、屋内外の臭気対策の分野で活躍する人材を養成するモデル

**履修モデルF : 都市空間インフラ（社会基盤デザイン系）コース**

特に社会基盤（インフラ）の設計や施工に必要な知識・スキルを修得し、建設コンサルタント会社や建設会社（ゼネコン）にて構造物の設計、施工・維持管理の分野で活躍する人材を養成するモデル

**履修モデルG : 都市空間インフラ（都市環境システム系）コース**

特に都市施設の調査・計画や設計に必要な知識・スキルを修得し、官公庁（公務員）や建設・水・環境コンサルタント会社等にて都市全般の政策、整備において活躍する人材を養成

## するモデル

### [3] 卒業要件

本学では、人間科学科目群から必修科目 9 単位を含め 27 単位、専門基礎科目群及び専門科目群から必修科目 6 単位を含め 97 単位以上を修得し、124 単位以上修得することを、卒業要件としている。(履修科目の登録の上限：44 単位 (年間))

建築学科の卒業要件を、下表に示す。

科目群	必要単位数	
人間科学科目群	必修科目 9 単位を含め 27 単位	
専門基礎科目群・専門科目群	必修科目 6 単位	左記条件を満たし 97 単位以上

## 6. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

「建築学部」では、「インターンシップ（学外研修）」の授業科目を準備している。この科目は、インターンシップの定義である、「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか(自らがその仕事で通用するかどうか)を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を体験すること）を行う活動」を満たすために実施される。

3年生次後期の開講科目であるが、夏季休業中に実施する。実習先については、キャリアセンターが把握しているインターンシップ受入可能企業（本学のOB/OGの採用実績のある企業が中心）を中心に、事前に企業からインターンシップの内容を提出してもらい、その内容を大学にて判断し、適切な内容であると判断した企業のみ、学生と企業とのマッチングを行う。

履修学生は、実施日報として、受入実習先で行った日々の作業内容と時間数の記録や、全体の成果・感想を記載し、受入先担当者に確認及びコメントをもらう。また、受入れ実習先からは、評価報告書を大学に提出していただき、学生の研修に対する評価をしていただく。

これら「実施日報」、「成果報告書」に加え、履修学生から研修を通じて得られた成果を「成果報告書」として提出させ、その内容を担当教員が確認・評価することで単位認定する。【資料4】

## 7. 取得可能な資格

建築学部建築学科で取得可能な主な資格は以下のとおりである。

資格名称	国家資格・民間資格	資格取得・受験資格	卒業要件・追加履修
一級建築士	国家資格	受験資格取得	指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる
二級建築士		受験資格取得	指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる
測量士補		資格取得可能	指定科目の単位を取得し、卒業後申請により資格取得可能。

## 8. 入学者選抜の概要

### 〔1〕 入学者受け入れの方針

建学の精神「産業と社会の要請に応える人材の養成」に基づき、大学の理念、目的等を踏まえ、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとともに一体的に大学のアドミッションポリシーを定めている。

大同大学工学部、建築学部および情報学部では、次のような人を広く求めています。

#### (知識・技能・思考力)

1. 新しいものを創ることに興味をもち、工夫することができる人
2. 専攻する分野を学ぶための基礎的な知識や技能を有している人

#### (判断力・コミュニケーション力)

3. 広い視野と健全な価値観をもち、決断力と行動力のある人
4. 豊かな感性と表現力をもつ人
5. 人格を尊重しあい、他者と協調できる人

#### (関心・意欲・態度)

6. 自己の能力向上に意欲をもち、将来の夢や目標を見つけない人
7. 目標に向かって自己を開拓する意欲を持っている人
8. 学科・専攻の研究領域に興味をもち、専攻する分野の勉学への熱意をもつ人
9. 地域や社会との関わりに興味をもち、発展に貢献したい人

更に、教育内容を踏まえ、求める人材像を明確にしたアドミッションポリシーを学科・コース毎に定めている。

#### 【建築学部建築学科のアドミッションポリシー】

##### 建築学科 建築コース

英語では、建築のことを“architecture”、建築家のことを“architect”と言います。“archi”は、「第一の、先頭に立つ、主要な」などの意味を持ちます。つまり、“architect”とは、元々は、先頭に立って全体を統率する技術者のことを指します。建築学科 建築コースでは、そのように対象とする建築やインテリア空間の設計や施工(工事)を統率するリーダーになろうとする人を養成します。建築コースでは、以下のような人を求めます。

- (1) 建築やインテリア空間の設計や施工(工事)を統率するリーダーとなるための最も基礎的な5分野(計画、歴史、構造、材料、環境)を理解しようとする人
- (2) 目まぐるしく変化する社会や地域の中で見過ごされた建築的課題や人々の心の奥底に隠された無意識の建築的要求を発見し、その課題や要求に対する解を考え、具体化(デザイン化)しようとする人
- (3) 具体化した提案を、言葉、図面、模型、コンピュータを使って、丁寧に、

分かりやすく説明できる能力を持とうとする人

#### 建築学科 インテリアデザインコース

英語では、建築のことを“architecture”、建築家のことを“architect”と言います。“archi”は、「第一の、先頭に立つ、主要な」などの意味を持ちます。つまり、“architect”とは、元々は、先頭に立って全体を統率する技術者のことを指します。建築学科 インテリアデザインコースでは、そのように対象とする建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーになろうとする人を養成します。

インテリアデザインコースでは、以下のような人を求めます。

- (1) 建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーとなるための最も基礎的な5分野（計画、歴史、構造、材料、環境）を理解しようとする人
- (2) 目まぐるしく変化する社会や地域の中で見過ごされた建築的課題や人々の心の奥底に隠された無意識の建築的要求を発見し、その課題や要求に対する解を考え、具体化（デザイン化）しようとする人
- (3) 具体化した提案を、言葉、図面、模型、コンピュータを使って、丁寧に、分かりやすく説明できる能力を持とうとする人

#### 建築学科 かおりデザインコース

かおりデザインコースでは、空間の快適性に密接に関係する「におい・かおり」について学びます。人の心や生活環境における「におい・かおり」の特性と役割、活用法などの基礎知識を身に付け、「におい・かおり」の測定・評価技術を修得し、「におい・かおり」を活用した豊かな生活がデザインできる能力を養成します。

かおりデザインコースでは、以下のような人を求めます。

- (1) 様々なにおい・かおりに興味や関心のある人
- (2) 生活環境の様々な事象に興味や関心があり、問題点や課題を見出し、解決策を考えることに意欲的な人
- (3) 調査・実験の手順等を様々な角度から考え、組み立てることができる人
- (4) 調査・実験等にグループで協力して取り組める人
- (5) 様々な課題に対して誠実な態度で臨むことのできる人
- (6) 実験・実習に積極的に取り組むことのできる人
- (7) 生活の中の不快なにおい問題を解決し、かおりを適切に活用していきたいと考えている人

#### 建築学科 都市空間インフラコース

都市空間インフラコースでは、都市に必要な施設を適切に整備するための調査・計画、設計、施工、ならびに管理の方法や、都市の抱える様々な環境問題を解決する方法等について教育します。わたしたちが安心して快適に生活するためには、道路、鉄道、空港、港湾といった交通・通信施設、川や海の護岸や堤防

等の防災施設、また上下水道や電力・ガスなどの施設が必要です。さらに、都市の緑化や生物多様性の保護・復元等も重要となっています。理論や知識の教授だけでなく、まちづくりに関する実験・実習を通して、安全・安心で快適な「まち」を創造することができる技術者を養成します。

都市空間インフラコースでは、以下のような人を求めます。

- (1) 都市空間インフラコースの専門分野に興味をもち、勉学への熱意をもつ人
- (2) 安全・安心で快適な都市環境をデザインしたい人
- (3) 自然と人工物の調和に関心がある人
- (4) 「まちづくり」の仕事がしたい人
- (5) 地図に残る「ものづくり」をしたい人

## 【2】 選抜方法

選抜方法は、大別すると①総合型選抜、②学校推薦型選抜、③一般選抜、④その他の選抜の4つの種類を実施する予定である。

### ①総合型選抜

総合型選抜は、「総合型選抜入試」、「専門高校総合型選抜入試」、「女子特別総合型選抜入試」を実施する。「総合型選抜入試」は、体験授業や面接審査を通して人物や意欲、適正、将来性を評価し、選抜を行う。また、入学者の多様性を確保するため、「専門高校総合型選抜入試」および「女子特別総合型選抜入試」を設定し、書類審査、小論文、面接審査により選抜を行う。

### ②学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、「一般推薦入試」、「指定高校推薦入試」、「併設高校選抜入試」、「クラブ推薦入試」を実施する。「一般推薦入試」は、書類審査、個別学力検査、面接審査によって選抜を行う。「指定校推薦入試」は、書類審査、小論文、面接審査によって選抜を行う。また、「併設高校選抜入試」および「クラブ推薦入試」においては、書類審査、面接審査により選抜を行う。

### ③一般選抜

一般選抜は、本学独自の個別学力検査により選抜を行う「特別奨学生・M方式入試」、「前期入試」、「中期入試」、大学入学共通テストの成績により選抜を行う「大学入学共通テスト利用入試」、また、「前期入試」の成績と大学入学共通テストの成績を併用して選抜を行う「共通テストプラス入試」を実施する。

「特別奨学生・M方式入試」は、4教科のうち3教科を受験して選抜を行う。「前期入試」は4教科のうち3教科を受験して選抜を行うA方式と3教科を受験して高得点の2教科で選抜を行うB方式を実施する。「中期入試」は2教科を受験して選抜を行う。

「大学入学共通テスト利用入試」は本学が指定する教科・科目の成績により、選抜を行い、教科における必須・選択のパターン、配点バランスなどを変えることで前期、後期、ファイナルの3種類を実施する。「共通テストプラス入試」は、「前期入試」における高得点教科と大学入学共通テストにおいて本学が指定する

教科の高得点教科を合計した成績により選抜を行う。なお、一般選抜においては、いずれの入試においても多様な学力層を確保するために理系型、文系型の受験型を設定する。

④その他の選抜

その他の選抜は、「編入学試験」、「転入学試験」、「委託学生試験」、「再入学試験」、「外国人留学生試験」を実施する。「編入学試験」、「転入学試験」は、書類審査、個別学力検査、面接審査により選抜を行う。また、「再入学試験」、「外国人留学生試験」は書類審査、面接審査により選抜を行う。なお、「外国人留学生試験」における日本語能力の資格要件については、日本留学試験において本学の指定する科目を受験していることを要件とする。「委託学生試験」については、書類審査、面接審査、中期入試の成績により選抜を行う。

なお、選抜方法別募集定員の割合は、表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 選抜方法別募集人員割合

選抜方法	建築学部建築学科				合計
	建築コース	インテリアデザインコース	かおりデザインコース	都市空間インフラコース	
総合型選抜	12.0%	20.0%	24.0%	14.5%	15.8%
学校推薦型選抜	30.7%	22.8%	28.0%	29.1%	28.4%
一般選抜	57.3%	57.2%	48.0%	56.4%	55.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 1-2 はアドミッションポリシーと入学者選抜方法の整合性を示している。表中に示すとおり、一般選抜は主として「知識・技能・思考力」に対応し、総合型選抜、学校推薦型選抜はそれ以外の各項目に対応している。

表 1-2 アドミッションポリシーと選抜方法の対応

選抜方法	アドミッションポリシー各項目			
	知識・技能・思考力		判断力・コミュニケーション力	関心・意欲・態度
	新しいものを創ることに興味をもち、工夫することができる人	専攻する分野を学ぶための基礎的な知識や技能を有している人		
総合型選抜	○		○	○
学校推薦型選抜	○		○	○
一般選抜		○		

【3】選抜基準

選抜基準について、関心・意欲・態度および判断力・コミュニケーション力に関し

では、志望理由書や面接審査によって評価している。なお、面接審査においてはアドミッションポリシーの各項目に必要な能力を測定できるような質問を設定し、面接員に周知することで、その基準に沿った評価を行っている。また、知識・技能・思考力に関しては、書類審査及び筆記試験により評価している。筆記試験においては、思考力を問うために記述式問題も出題している。なお、学校推薦型選抜において、部活動や生徒会、表彰・ボランティア、資格取得等の主体性についても評価している。

#### [4] 入試区分ごとの募集人員

下表のとおり、入試区分ごとに募集人員を設定する。なお、その他の入学試験における募集人員は若干名とする。

選抜方法	入試区分	建築学部建築学科				合計
		建築コース	インテリア デザインコース	かおり デザインコース	都市空間 インフラコース	
総合型 選抜	総合型選抜	6	4	3	4	17
	専門高校総合型選抜	2	1	0	2	5
	女子特別総合型選抜	1	2	3	2	8
学校推薦型 選抜	一般推薦	5	2	2	4	13
	指定高校推薦	11	3	3	7	24
	併設高校選抜	6	3	2	4	15
	クラブ推薦	1	0	0	1	2
一般選抜	特別奨学生・M方式	8	3	2	6	19
	前期	13	5	3	9	30
	中期	3	2	2	4	11
	共通テストプラス	12	5	2	7	26
	大学入学共通テスト 利用前期	5	3	1	3	12
	大学入学共通テスト 利用後期	1	1	1	1	4
	大学入学共通テスト 利用ファイナル	1	1	1	1	4
合計		75	35	25	55	190

## 9. 教員組織の編制の考え方及び特色

建築学部建築学科は、「近年における、環境共生や地域再生、防災復興や修景保存などの現代的な要素も加えた知識と技術を有し、時代や社会の変化にも対応できる、表現力・創造力・構築力を併せ持ち、総合的な判断力を有した、感性を豊かに持ち未来を変えることのできる人材を養成する。」ことを目指しており、この目的・特徴を満たすため以下の考え方で教員を配置する。

- [1] 人間科目群の科目に関しては、本学教養部の専任教員と非常勤講師が担当する。専門基礎科目群及び専門科目群の科目に関しては、建築学部建築学科の専任教員である工学の博士号を取得した教員 13 名、学術の博士号を取得した教員 2 名、美術の博士号を取得した教員 1 名、美術・芸術分野の修士号を取得した 2 名及び建築設計を専門とする教員 1 名と非常勤講師が担当する。
- [2] 建築学部の専任教員は、教授 10 名・准教授 8 名・講師 1 名であり、ベテラン・中堅の教員で構成し、将来への継続性にも配慮している。
- [3] 年齢構成は下表のとおりである。なお、本学の定年は 65 歳であり、2025 年度末で 1 名の教員が定年を迎えるが、本学「大学教育職員定年退職再雇用者就業規則」第 3 条により、最長 2 年特任教員として任用することが可能である。完成年度までの教育の連続性を確保するため、定年後も継続雇用することとするが、後任となる専任教員の補充計画については、学生の教育研究に影響をきたすことのないよう早期に公募を実施し、教員組織の継続的な整備と充実に努めていく。【資料 5】

年齢（歳）	人数（人）
60～65	2
50～59	9
40～49	8

- [4] 実社会で活躍できる技術者育成を目指すため、学術と実務とをバランスよく教育できるよう、大学で教育・研究に専従していた教員（8 名）と企業等で研究・開発に従事した経験のある教員（11 名）で構成している。
- [5] 演習、実習科目に関しては、本学修士課程在籍学生を中心とした TA( Teaching Assistant) を配置し、十分な指導を行う。

## 10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

### [1] 研究環境

研究のためのスペースについては、各教員に研究室と卒業研究指導も含めた研究に使用するための標準実験室を配分している。

### [2] 研究支援

研究費については、教育研究費として各教員に配分している他、学内の競争的研究費として、「科研費研究奨励金」、「研究奨励金」等の研究費助成を実施している。

研究活動を実施する際の研究倫理、研究費の不正使用防止については、規程を制定するとともに、継続的に教育、啓発活動を実施している。

研究設備は、個々の教員が導入する設備のほか、共同利用研究設備を設置して、教員・大学院生等が全学的に共通して使用できるようにしている。

教員の自主的な共同研究組織として、共同研究ラボラトリーを制度化している。このラボラトリーは、教員の自主的な共同研究グループであり、固定的なものではなく、研究課題により学科の枠を越えて随時、設置・組み替え・解散を行う柔軟な組織である。学外の研究者もメンバーとして参加することができる。

以上の教員の研究活動を支援するため、研究・社会連携推進センターを設置し、研究・社会連携推進室の事務職員等がその業務にあたっている。

## 11. 施設、設備等の整備計画

### [1] 校地、運動場の整備計画

建築学部を設置する本学の大同大学キャンパスは、名古屋市南区に位置し、現在、校地面積は、約 112,084 m<sup>2</sup>を有している。その内、校舎敷地面積が約 66,133 m<sup>2</sup>、運動場面積が約 45,951 m<sup>2</sup>で、運動用施設としては、野球場をはじめ、陸上競技場兼サッカー場、テニスコート等を備えている。

また、学生に開放的な憩いの場を提供するため、中庭広場（ゴビー広場）を中心に温もりのある木製テーブル・ベンチを配置、学生の集会広場（ゴビーステージ）を配置するなど快適な教育環境の整備を行ってきている。

### [2] 校舎等施設の整備計画

本学の大同大学キャンパスでは、現在 15 棟の校舎施設を有しており、その総面積は約 30,662.99 m<sup>2</sup>で、学部教育に必要となる主な教室等の内訳としては、講義室 65 室、演習室 11 室、実験・実習室 200 室、情報処理室 18 室、他、教員研究室 143 室、非常勤講師室 2 室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食

堂等を整備している。

建築学部の設置に伴う校舎施設の整備計画については、講義室、演習室及び実験・実習室を含めて既存の校舎等施設を有効的に利用することとしており、専任教員の研究室については、教員組織として計画している専任教員数 19 人（教授 10 人、准教授 8 人、講師 1 人）に対して、1 室あたり 25 m<sup>2</sup>以上の専任教員研究室 19 室を設ける。

設備整備計画については、現在、既設の学部等で使用している教具、工具、その他の備品（教育活動に必要なもので、前述に該当しない備品）を有効的に転用することとしている。

### 〔3〕 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は学術情報基盤としての大学図書館とすべく整備を実施してきており、日々、学生の視点に立った図書館サービスの提供を行っている。

図書館の延べ床面積は 3,590 m<sup>2</sup>であり、閲覧スペースが 1,085 m<sup>2</sup>、書庫スペースが 824 m<sup>2</sup>、閲覧座席数は 382 席である。図書等は全面開架方式を採用しているため、書庫にも自由に入室が可能である。

1 階には学生の ID で自由に利用できるデスクトップパソコンを 10 台、無料で出力できるプリンターを 1 台設置しており、学生は図書館の資料とともにインターネットやデータベースを使って課題などに取り組みパソコンでレポートを作成することができる。図書館 2 階にはラーニングコモンズエリアが設けられており、グループ学習やディスカッション、プレゼンテーションや発表を行うことができる。建築学部関係の図書は主に 2 階の書架に配架され、多くの雑誌バックナンバーが M4 階書架に保存されている。また、AV ラウンジには、国内外の歴史的建造物の記録や建築の専門技術に関する資料を含む DVD や Blu-ray、VHS ビデオが用意されている。

図書館ホームページからは蔵書検索や資料購入リクエスト、他大学図書館への文献複写依頼、本館が有料で契約するデータベースを含む各種の情報源を利用することができる。

2023 年 1 月 31 日現在における蔵書は、図書が 240,074 冊（和書：182,787 冊、洋書：57,287 冊）、学術雑誌等は 1,869 種類（和雑誌：967 種類、洋雑誌：902 種類）である。

教員・大学院生が研究に利用する「研究用図書」の他、カリキュラムの内容に沿った授業科目に関連する学生向け図書としての「教育用図書」、授業科目に関する必読書及びシラバス掲載の参考書を「指定図書」、高等教育機関で学修する最低限度の基礎知識・教養的な図書を「図書館図書」として収集するとともに、教育・研究の最新情報を得るため、学術雑誌の定期購読を行っている。洋雑誌の分野では、平成 16 年度から英国国立図書館が Web 上で提供するデータベース検索とドキュメント・デリバリー・サービスをあわせた「BLDSS」を導入し、現在に至っている。

建築学部関連の蔵書は、図書が 32,976 冊（和書：28,168 冊、洋書：4,808 冊）、学術雑誌等は 426 種類（和雑誌：260 種類、洋雑誌：166 種類）を所蔵している。【資料 6】。これらの資料は建築学部の教育・研究の目的等に照らして適切であると思われる。

本館では毎年 3,000 冊以上の図書を新規購入している。また、書架の狭溢化解消と情報の鮮度を保つために、利用度が低くなった副本や今後の利用が見込まれない製本雑誌などを年間 4,000 冊以上を目標に除籍する予定である。今後も継続して教育・研究に必要な図書の収集・保存・配架に努める。

## 12. 管理運営及び事務組織

### [1] 教授会

大学の教育研究に関する事項を審議するため、教授会を置いている。本学の規模及び全学的な意思決定の迅速性の観点から、全学合同で開催している。副学長・教授・准教授・講師（いずれも専任）をもって構成し、学長は必要に応じ出席している。

教授会の審議事項は、教授会規程第 2 条第 1 項に以下のとおり定めている。

- (1) 学生の入学及び卒業に関すること
- (2) 学位の授与に関すること
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

第 3 号については、以下の 3 つを学長決裁により定めている。

- (1) 教育課程の編成に関すること
- (2) 教員の教育研究業績の審査に関すること
- (3) 教育研究の方針に関すること

教授会の成立要件は、校務による不在者を除く構成員の過半数であり、審議は出席構成員の過半数の同意によって決定することとしている。なお、教員人事については、教授選考の場合は出席教授の過半数、准教授選考の場合は出席教授・准教授の過半数の同意により決定している。

### [2] 大学運営委員会及び各委員会

学長の意思決定を補佐し、大学の円滑な運営を図るため、大学運営委員会及び教務委員会・学生委員会などの各委員会を設置し、教育・研究・管理運営面に係る具体的な審議・提案を行っている。

#### 1) 大学運営委員会

学長を委員長、副学長を副委員長、各学部学科長等で構成する大学運営委員会は、毎月 1 回定例で開催し、教授会に提案する事項の確認、学長が諮問する事項、学科からの提案事項及び次項に述べる各委員会には属さない事項等の審議を行っている。

#### 2) 各委員会

委員会は、委員長・副委員長、各学部学科・教養部等からの教員と事務職員で委員

を構成しており、委員会規程に規定する事項、学長・教授会から付議される事項を審議している。これらの委員会における審議・決定・執行結果が教授会に審議提案あるいは報告事項として提出されることにより、大学全体の適切な意思決定を行っている。主な委員会を下表に掲げる。

委員会名	主な審議事項
大学評価委員会	・自己点検評価の計画、実施に関する事
	・認証評価の受審に関する事
入試委員会	・学生募集及び学生募集広報に関する事
	・入学試験の実施及び入学者選抜方法の改善に関する事
教務委員会	・教科の編成・改善、授業及び試験に関する事
	・単位の認定及び単位換算等に関する事
	・入学、退学、休学、卒業、除籍等学籍異動に関する事
学生委員会	・福利及び厚生補導、厚生施設等の管理運営に関する事
	・日本学生支援機構及び学内奨学生その他奨学に関する事
	・保健室及び学生相談室の管理運営に関する事
キャリア委員会	・就職指導の基本方針・実施、就職先の斡旋に関する事
	・職業観育成のためのキャリア教育に関する事
	・インターンシップに関する事
教育開発・学習支援委員会	・授業改善のための授業研究活動等に関する事
	・「学生による授業評価」の実施とその活用に関する事
	・「数学」、「物理」、「英語」等の学習支援に関する事
情報委員会	・情報教育に関する事
	・情報教育センターの管理運営に関する事

### [ 3 ] 事務組織

学園に法人本部を置き、経理室、企画室、情報室をその下に置くとともに、その他学園、大学等の事務を処理するための組織として、総務部及び大学事務部を置いている。総務部には、人事室、総務室、管財室及び高校事務室を、大学事務部には、教務室、学生室、キャリア支援室、図書館室、研究・社会連携支援室及び入試・広報室を置いている。事務職員の部長及び室長は、教員とともに各委員会の委員になり、事務職員の立場から意見を述べるとともに教授会及び大学院教授会に陪席している。

## [4] 学生の厚生補導

学生の厚生補導は、学長が指名する副学長が統括及び調整し、学生部長が掌理すること、学生への直接の厚生補導は指導教員が行い、その支援及び事務取扱は教務室、学生室、キャリア支援室が行うこととしている。それぞれの担当部署は年度ごとに厚生補導に関する計画を立て、実施している。

## 13. 自己点検・評価

### [1] 実施体制

本学の自己点検評価活動は、大学評価委員会が実施する。本委員会の下に設置した基準ごとの専門部会が、本学における全学的な自己点検・評価を行う。自己点検・評価の項目は、①教育及び研究に関すること、②組織及び運営に関すること、③施設及び設備に関すること、としており、エビデンスに基づく評価を行うことを基本としている。

専門部会が行った点検・評価を報告書作成部会において取り纏め、報告書の作成を行う。報告書は学内の教職員に配付するとともに、大学ホームページで広く社会に公表することとしている。

平成 22 (2010) 年に本学が自主的に行う自己点検・評価との関連性について大学評価委員会で審議し、第三者評価を含めた自己点検・評価の実施を、3 年または 4 年に 1 回の周期で行うこととしている。

### [2] 認証評価

認証評価については、2020 年度に日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、2021 年 3 月 16 日付で、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されている。

## 14. 情報の公開

### [1] 基本方針

本学では、学校の運営、教育研究活動等の適正性及び公共性を高める観点から、積極的に情報を公開し、社会への説明責任を果たすため、公式ウェブサイト、刊行物への掲載又はその他広く周知できる方法による情報提供を行っている。

<https://www.daido-it.ac.jp/outline/disclosure/>

(トップ > 大学案内 > 大同大学 情報公開)

## [2] 情報公表項目の概要

上に示した情報公開のページに以下の項目について掲載している。

ア 大学の教育研究上の目的 (大同大学 情報公開 > 2. 大学の教育研究上の目的)
イ 教育研究上の基本組織に関すること (大同大学 情報公開 > 3. 教育研究上の基本組織)
ウ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること (大同大学 情報公開 > 4. 教育組織、教員の数、専任教員年齢構成、各教員が有する学位、業績)
エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること (大同大学 情報公開 > 5. 受け入れ方針、入学者の数、収容定員、在籍者数、卒業・修了者数、進学者数、就職者数)
オ 教育課程編成・実施の方針 (大同大学 情報公開 > 6. 教育課程編成・実施の方針)
カ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること (大同大学 情報公開 > 7. 授業科目、授業方法、内容、年間授業計画)
キ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること (大同大学 情報公開 > 8. 学修の成果にかかる評価、卒業・修了の認定基準、授与学位)
ク 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること (大同大学 情報公開 > 9. 施設および設備、教育研究環境)
ケ 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること (大同大学 情報公開 > 10. 授業料、入学料、その他大学が徴収する費用)
コ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること (大同大学 情報公開 > 11. 学生の修学、進路選択、心身の健康等に係る支援)
サ 学位授与の方針 (大同大学 情報公開 > 12. 学位授与の方針)
シ 自己点検・評価報告書 (大同大学 情報公開 > 14. 自己点検評価)
ス 設置計画履行状況等報告書 (大同大学 情報公開 > 15. 学部等の設置に関する情報)
セ 認証評価の結果 (トップ > 大学案内 > 大学機関別認証評価結果)

## 15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### [1] 実施体制

本学は、「学生の視点に立った教育」を一層推進し教育重視型大学への転換を目指すため、2001年4月に授業の原則公開と持続的な授業改善と充実に努めることを宣言する「大同工業大学授業憲章2001」を教授会で採択した。これを具現化するため、2001年4月に全学教育システムの運用をサポートするFD組織である「授業開発センター」を設置し教育および教員の支援を行い、2019年4月には学生の学習支援を担っていた既存の「学習支援センター」と組織を統合し、それぞれが持つ知見を総合化、統合化して本学の教育の改善・改革に係る企画立案をすることが可能な組織として「教育開発・学習支援センター」を設置した。

本学のFDの基本精神は、教育重視型大学という方針を基に構築した教育課程を個々の授業において実効化するため、授業現場に踏み込むことで授業改善を組織的に支援していくことにあり、全ての教員が、ありのままの形で授業を公開（公開研究授業）し、相互研修しつつ共同で授業改善に取り組み（授業研究会）、改めて自己の授業を振り返る（学生による授業評価アンケート）ことができるような、日常的、実践的かつ運動的な組織体で実施し、講演会の開催やセンター所報（授業批評）の発行により、教員間の知見の共有を図るとともに、2003年度から行っている優れた授業開発計画に対する助成制度を、2013年度以降は授業改善に対する助成制度として継続し、教育改革・教員資質向上を図っている。

### [2] 実施内容

#### (1) 研究授業／授業研究会

研究授業は、半期7回年間14回を目途に行う。非常勤講師を含む全教員の授業を対象とし、教養部を含む学科間で定期的にローテーションする。授業参観者は、学内では専任教員・非常勤教員及び事務職員、学外は教育関係者としている。その後行われる授業研究会への参加者は、学内・学外とも教員のみとしている。

#### (2) 学生による授業評価アンケート

非常勤講師担当科目を含む全授業を対象とし、すべての授業について、授業担当教員による考察を行うとともに、全学および授業運営部署ごとのアンケート結果の分析を行う。アンケートの評価が低い授業科目に対しては、学長名で授業改善を依頼している。

#### (3) FD講演会

毎年1回、教育改革・教員資質向上に供するテーマを決めて、講師を招き、非常勤講師および事務職員を含めた全職員を対象として行っている。

#### (4) 授業改善助成

＜授業改善の取り組み＞および＜授業支援のためのチューデント・アシスタントの活用＞を目的として募集し、採択している。

(5) 授業批評

研究授業の様子と授業研究会における議論の報告、講演会の報告および授業改善助成の成果報告について年間3回を目途に冊子に纏めている。

## 16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### [1] 教育課程内の取組について

教育課程内においては、①専門教育や一般教養におけるキャリア形成支援、②インターンシップの実施の観点から実施している。

1年次前期に開講する人間科学科目群1単位・必修科目「ファースト・イヤー・セミナー」の一部で、社会人として必要なコミュニケーション・スキルを高める取り組みを実施する。また、1年次前期に必修科目として開講する「入門セミナー」で職業観や働く意義や職種などについて、本学の就職実績を踏まえた説明を行っている。

3年次後期のインターンシップ（学外研修）は、インターンシップの定義である、「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を体験すること）を行う活動」を満たすために実施される。

### [2] 教育課程外の取組について

表2に示すとおり、4年一貫の就職支援プログラム（低学年次学生[1・2年次生]、3年次生及び4年次生に大別）を教育課程外にて、実施している。

表2 教育課程外のキャリア教育

#### ①就職力アップセミナー（1・2年次生）

低学年次（1・2年次生）では、各学期（計4学期）の授業期間に月1回程度「就職力アップセミナー」を開講している。このセミナーは、キャリアを意識した学生生活の過ごし方、言い換えれば自らの能力・関心に適した仕事があるか否かを考えることを中心に実施し、進路決定までの4年間の流れを理解したうえで、低学年次からできる就職活動準備を自ら定めることにより、職業観の醸成を目指している。

#### ②就職ガイダンス（3年次生）

3年次では、この時期を本格的な就職準備活動期と位置づけ、「自己を知る」、「業界・企業を知る」、「就職活動のテクニックを知る」ことを基軸とした年間11回の就職ガイダンスを行っている。またこれらと並行して、少人数による「面接・グループディスカッション対策」や「自己紹介書の書き方」等のフォローアップ講座を開催している。

#### ③就職活動支援（4年次生）

4年次では、3年次の末から既に始まっている就職活動期の支援として、各学部学科等の就職指導担当教員及び主指導教員がキャリアセンター職員と連携して学生の就職指導や進路相談に応じている。これらの指導・相談履歴や企業等受験履歴などは、「D-a c t（就職活動支援サイト）」に集約しており、教職員間の情報の共有や迅速な支援を行える体制を整えている。

### ○キャリア指導

指導教員によるキャリア指導のほか、キャリアセンターでは、将来のキャリア設計のための、きめ細やかなアドバイスを実施するとともに、キャリア相談専門職員（キャリア・アドバイザー資格取得者）や企業勤務の豊富な経験を有する専門職員を配置し、実践的な支援を展開している。

### ○学内企業説明会等

大学が体系的に実施してきたキャリア教育と就職ガイダンスの一環として、学内に企業を招待して、学内企業説明会等を開催している。令和4（2022）年度は7日間で約620社の企業が参加した。

## [3] 適切な体制の整備について

学生のキャリア形成の支援等に関する業務の企画及び連絡調整を担うキャリアセンター長が、教育の基本方針に関することを審議することを任務にしている教育改革実行委員会の構成員となっており、大学内の組織間の有機的な連携を図ることができる体制を整えている。

毎月定例実施するキャリア委員会において、各学科の就職指導担当教員が構成員となり、厚生補導における就職指導に関連した審議を行うとともに、その内容を、学科会議等で共有している。

職業意識の形成や職業人育成を重点にしたキャリア指導は、1年次から3年次までは入学時の主指導教員が行う。4年次以降は卒業研究配属先の教員が主指導教員となり、各学科等の就職指導教員1名が加わり、連携して実施する体制としている。

## 【添付資料 目次】

- 【資料 1】 養成する人材像及び3つのポリシーとの相関（建築学部）
- 【資料 2】 建築学科各コースの学位授与方針と入学者受け入れ方針
- 【資料 3】 履修モデル
- 【資料 4】 インターンシップ研修先一覧
- 【資料 5】 大同学園大学教育職員定年退職再雇用者就業規則
- 【資料 6】 建築学部関連の学術雑誌リスト



## 大同大学学位授与の方針（建築学部建築学科関係）

大同大学の学士の学位は、以下の4つの力を備えた者に授与する。

- a. 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている  
健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。
- b. 豊かな教養を身につけている  
教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度が備わっている。
- c. 確かな専門性を身につけている  
自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、問題解決のために応用できる。
- d. 豊かな創造力を身につけている  
獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

建築コース	インテリアデザインコース	かおりデザインコース	都市空間インフラコース
<p>a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。</p> <p>a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。</p> <p>b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。</p> <p>c2. 荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計する力を身につけている。</p> <p>c3. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を提案する力を身につけている。</p> <p>c4. 文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解した上で、空間造形の基礎を身につけ、建築デザインの論理を理解し、建築の設計をする力を身につけている。</p> <p>c5. 持続可能な社会において、快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用する力を身につけている。</p> <p>d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。</p> <p>d2. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組む力や状況に応じて知識を多角的に展開する力を身につけている。</p>	<p>a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。</p> <p>a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。</p> <p>b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。</p> <p>c2. 力に対して必要な強度を有する安定した構造の仕組みや形を理解し、空間を構成する要素の機能や安全性を確保する力を身につけている。</p> <p>c3. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を提案する力を身につけている。</p> <p>c4. 文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解した上で、空間造形の基礎を身につけ、建築デザインの論理を理解し、インテリアの設計をする力を身につけている。</p> <p>c5. 持続可能な社会において、快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用する力を身につけている。</p> <p>d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。</p> <p>d2. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組む力や状況に応じて知識を多角的に展開する力を身につけている。</p>	<p>a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。</p> <p>a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。</p> <p>b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。</p> <p>c2. 嗅覚の特性に関する専門知識があり、におい・かおりを測定・評価する基本的な力を身につけている。</p> <p>c3. におい物質、香料、人の心と身体に関する専門知識があり、におい対策手法とかおり活用能力を身につけている。</p> <p>c4. におい・かおり空間をデザインするために必要な空間を構成する要素と環境要素に関する専門知識を身につけている。</p> <p>d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。</p> <p>d2. 調査・実験データから客観的・論理的ににおい・かおり環境を考察し、より良いにおい・かおり環境の実現に必要な事項を整理し、改善点を提案する力を身につけている。</p> <p>d3. 人とおいの関係を考慮し、におい・かおりの視点を取り入れたその時々で相応しい生活環境を創造する力を身につけている。</p>	<p>a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。</p> <p>a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。</p> <p>b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。</p> <p>c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。</p> <p>c2. 都市空間整備に携わる技術者として必要な土木工学の3つの力学（構造・水理・土質）の基礎を身につけている。</p> <p>c3. インフラ（社会基盤）整備の計画・調査・設計・施工等に必要となる主要分野に関する専門知識を身につけている。</p> <p>c4. 実験・測量等調査におけるデータを正確に分析し、論理的に考察することができる。</p> <p>c5. 技術者に必要な汎用的な情報処理能力に加え、都市空間整備の実践に関わる情報活用能力を身につけている。</p> <p>d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。</p> <p>d2. 多様で複雑な状況を、豊かな教養と専門知識に基づいて正しく整理するとともに、倫理観を持ち主体的に思考することで、都市空間整備における新たな提案・価値を創造することができる。</p>

大同大学入学者受入の方針（建築学部建築学科関係）

大同大学工学部、建築学部および情報学部では、次のような人を広く求めています。

（知識・技能・思考力）

1. 新しいものを創ることに興味をもち、工夫することができる人
2. 専攻する分野を学ぶための基礎的な知識や技能を有している人

（判断力・コミュニケーション力）

3. 広い視野と健全な価値観をもち、判断力と行動力のある人
4. 豊かな感性と表現力をもつ人

5. 人格を尊重しあい、他者と協調できる人

（関心・意欲・態度）

6. 自己の能力向上に意欲をもち、将来の夢や目標を見つけたい人
7. 目標に向かって自己を開拓する意欲を持っている人
8. 学科・専攻の研究領域に興味をもち、専攻する分野の勉学への熱意をもつ人
9. 地域や社会との関わりに興味をもち、発展に貢献したい人

建築コース	インテリアデザインコース	かおりデザインコース	都市空間インフラコース
<p>英語では、建築のことを“architecture”、建築家のことを“architect”と言います。“archi”は、「第一の、先頭に立つ、主要な」などの意味を持ちます。つまり、“architect”とは、元々は、先頭に立って全体を統率する技術者のことを指します。建築学科建築コースでは、そのように対象とする建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーになろうとする人を養成します。</p> <p>建築コースでは、以下のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーとなるための最も基礎的な5分野（計画、歴史、構造、材料、環境）を理解しようとする人</li> <li>(2) 目まぐるしく変化する社会や地域の中で見過ごされた建築的課題や人々の心の奥底に隠された無意識の建築的要求を発見し、その課題や要求に対する解を考え、具体化（デザイン化）しようとする人</li> <li>(3) 具体化した提案を、言葉、図面、模型、コンピュータを使って、丁寧に、分かりやすく説明できる能力を持つようとする人。</li> </ol>	<p>英語では、建築のことを“architecture”、建築家のことを“architect”と言います。“archi”は、「第一の、先頭に立つ、主要な」などの意味を持ちます。つまり、“architect”とは、元々は、先頭に立って全体を統率する技術者のことを指します。建築学科インテリアデザインコースでは、そのように対象とする建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーになろうとする人を養成します。</p> <p>インテリアデザインコースでは、以下のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 建築やインテリア空間の設計や施工（工事）を統率するリーダーとなるための最も基礎的な5分野（計画、歴史、構造、材料、環境）を理解しようとする人</li> <li>(2) 目まぐるしく変化する社会や地域の中で見過ごされた建築的課題や人々の心の奥底に隠された無意識の建築的要求を発見し、その課題や要求に対する解を考え、具体化（デザイン化）しようとする人</li> <li>(3) 具体化した提案を、言葉、図面、模型、コンピュータを使って、丁寧に、分かりやすく説明できる能力を持つようとする人。</li> </ol>	<p>かおりデザインコースでは、空間の快適性に密接に関係する「におい・かおり」について学びます。人の心や生活環境における「におい・かおり」の特性と役割、活用法などの基礎知識を身に付け、「におい・かおり」の測定・評価技術を修得し、「におい・かおり」を活用した豊かな生活がデザインできる能力を養成します。</p> <p>かおりデザインコースでは、以下のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 様々なにおい・かおりに興味や関心のある人</li> <li>(2) 生活環境の様々な事象に興味や関心があり、問題点や課題を見出し、解決策を考えることに意欲的な人</li> <li>(3) 調査・実験の手順等を様々な角度から考え、組み立てることができる人</li> <li>(4) 調査・実験等にグループで協力して取り組める人</li> <li>(5) 様々な課題に対して誠実な態度で臨むことのできる人</li> <li>(6) 実験・実習に積極的に取り組むことのできる人</li> <li>(7) 生活の中の不快なおい問題を解決し、かおりを適切に活用していきたいと考えている人</li> </ol>	<p>都市空間インフラコースでは、都市に必要な施設を適切に整備するための調査・計画、設計、施工、ならびに管理の方法や、都市の抱える様々な環境問題を解決する方法等について教育します。わたしたちが安心して快適に生活するためには、道路、鉄道、空港、港湾といった交通・通信施設、川や海の護岸や堤防等の防災施設、また上下水道や電力・ガスなどの施設が必要です。さらに、都市の緑化や生物多様性の保護・復元等も重要となっています。理論や知識の教授だけでなく、まちづくりに関する実験・実習を通して、安全・安心で快適な「まち」を創造することができる技術者を養成します。</p> <p>都市空間インフラコースでは、以下のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 都市空間インフラコースの専門分野に興味をもち、勉学への熱意をもつ人</li> <li>(2) 安全・安心で快適な都市環境をデザインしたい人</li> <li>(3) 自然と人工物の調和に関心がある人</li> <li>(4) 「まちづくり」の仕事がしたい人</li> <li>(5) 地図に残る「ものづくり」をしたい人</li> </ol>

### 【資料3】履修モデル

履修モデルA：建築（建築エンジニアリング系）コース

履修モデルB：建築（建築デザイン系）コース

履修モデルC：インテリアデザインコース

履修モデルD：かおりデザイン（かおり活用系）コース

履修モデルE：かおりデザイン（臭気測定・対策系）コース

履修モデルF：都市空間インフラ（社会基盤デザイン系）コース

履修モデルG：都市空間インフラ（都市環境システム系）コース

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学 科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位								
専門基礎 科目群	自然科学系	線形代数1	線形代数2							
		化学1	化学2							
	建築学基礎系	力学1	力学2	力学3						
		建築基礎数理1	建築基礎数理2							
		建築概論	芸術概論							
		造形基礎実習	建築デザイン 基礎実習							
		建築の仕組み	環境色彩論							
		力と形演習								
		情報系	情報リテラシ		建築CAD1	建築CAD2	建築統計処理	建築プレゼン テーション演習	デジタルファブリ ケーション演習	
	専門科目 群	建築計画分野	建築・インテリア 図法実習1	建築・インテリア 図法実習2	建築設計1	建築設計2	建築設計3	総合空間設計1	総合空間設計2	
			建築計画1	建築計画2	空間文化論	住空間論	建築企画論	まちづくり論		
							建築法規	都市計画		
歴史分野					建築遺産A	建築遺産B	建築デザイン史	建築デザイン論		
環境分野					環境工学1	環境工学2	環境工学3	建築設備		
							環境心理学	環境評価演習		
材料施工分野			建築構法	建築材料	建築環境材料	構造・材料実験	維持・保全工学			
			建築生産1	建築生産2			建築測量学 同実習			
構造分野		構造力学1	構造力学2	骨組の解析法			力とデザイン			
						鋼構造	振動と塑性解析			
				コンクリート系 構造	鉄筋コンクリート 構造演習		構造設計演習			
他専攻展開科目		インテリア 計画1	インテリア 設計1 インテリア 計画2	インテリア 設計2 インテリア エレメント演習1	インテリア 設計3 インテリア エレメント演習2					
			デザインマネジ メント演習1		デザインマネジ メント演習2					
総合分野・卒業研究		建築・インテリア 入門セミナー					インターンシップ			
							セミナー1	セミナー2		
								卒業研究		
人間科学科目群		5	6	4	4	4	4	0	0	27
専門基礎科目		13	8	2	0	2	0	0	0	25
専門科目		3	8	15	17	13	18	6	6	86
合計		21	22	21	21	19	22	6	6	138

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

\*二重線枠はコース選択必修科目

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
人間科学 科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位									
専門基礎 科目群	自然 科学 系	線形代数1	線形代数2								
		化学1	化学2								
	建築学 基礎 系	力学1	力学2	力学3							
		建築基礎数理1	建築基礎数理2								
		建築概論	芸術概論								
		造形基礎実習	建築デザイン 基礎実習								
		建築の仕組み	環境色彩論								
		力と形演習									
	情報 系	情報リテラン		建築CAD1	建築CAD2	建築統計処理	建築プレゼン テーション演習	デジタルファブリ ケーション演習			
専門科目 群	建築計 画分 野	建築・インテリア 図法実習1	建築・インテリア 図法実習2	建築設計1	建築設計2	建築設計3	総合空間設計1	総合空間設計2			
			建築計画1	建築計画2	空間文化論	住空間論	建築企画論	まちづくり論			
							建築法規	都市計画			
	歴史 分野			建築遺産A	建築遺産B	建築デザイン史	建築デザイン論				
	環境 分野			環境工学1	環境工学2	環境工学3	建築設備				
						環境心理学	環境評価演習				
	材料施 工分 野		建築構法	建築材料	建築環境材料	構造・材料実験	維持・保全工学				
				建築生産1	建築生産2			建築測量学 同実習			
	構造 分野		構造力学1	構造力学2	骨組の解析法		力とデザイン				
					コンクリート系 構造	鋼構造	振動と塑性解析				
						鉄筋コンクリート 構造演習	構造設計演習				
	他専 攻展 開科 目			インテリア 設計1	インテリア 設計2	インテリア 設計3					
		インテリア 計画1	インテリア 計画2	インテリアエレ メント演習1	インテリア エレメント演習2						
			デザインマネジ メント演習1		デザイン マネジメント演習2						
	総合 分野 ・卒 業 研究	建築・インテリア 入門セミナー					インターンシップ				
							セミナー1	セミナー2	卒業研究		
	人間科学科目群		5	6	4	4	4	4	0	0	27
	専門基礎科目		13	8	2	0	2	0	0	0	25
	専門科目		3	8	15	17	13	18	6	6	86
合計		21	22	21	21	19	22	6	6	138	

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

\*二重線枠はコース選択必修科目

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
人間科学 科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位									
専門基礎 科目群	自然科学系	線形代数1	線形代数2								
		化学1	化学2								
		力学1	力学2	力学3							
		建築基礎数理1	建築基礎数理2								
		建築概論	芸術概論								
	建築学基礎系	造形基礎実習	インテリアデザイン基礎実習								
		建築の仕組み	環境色彩論								
		力と形演習									
		情報系	情報リテラシ	建築CAD1	建築CAD2	建築統計処理	建築プレゼンテーション演習	デジタルファブリケーション演習			
専門科目 群	建築計画分野	建築・インテリア図法実習1	建築・インテリア図法実習2	インテリア設計1	インテリア設計2	インテリア設計3	総合空間設計1	総合空間設計2			
			インテリア計画1	インテリア計画2	空間文化論	住空間論	建築企画論	まちづくり論			
				デザインマネジメント演習1	インテリアエレメント演習1	インテリアエレメント演習2	建築法規	都市計画			
	歴史分野			建築遺産A	建築遺産B	建築デザイン史	建築デザイン論				
	環境分野			環境工学1	環境工学2	環境工学3	建築設備				
						環境心理学	環境評価演習				
	材料施工分野	建築構法	建築材料	建築環境材料			維持・保全工学				
			建築生産1	建築生産2			構造・材料実験	建築測量学同実習			
	構造分野	構造力学1	構造力学2				力とデザイン				
							振動と塑性解析				
							構造設計演習				
	他専攻展開科目		建築設計1	建築設計2	建築設計3						
		建築計画1	建築計画2	骨組の解析法	鋼構造						
	総合分野・卒業研究	建築・インテリア入門セミナー		コンクリート系構造	鉄筋コンクリート構造演習						
						インターンシップ					
						セミナー1	セミナー2	卒業研究			
	人間科学科目群		7	6	4	4	4	2	0	0	27
	専門基礎科目		11	8	2	2	4	2	0	0	29
	専門科目		3	8	15	15	13	17	7	6	84
合計		21	22	21	21	21	21	7	6	140	

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

\*二重線太枠はコース選択必修科目

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期			
人間科学 科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位										
専門基礎 科目群	自然科学系	線形代数 1	線形代数 2									
		化学基礎 1	化学基礎 2									
			基礎物理A	基礎物理B								
	建築学基礎系	数学基礎										
		解析学 1	解析学 2	解析学 3	常微分 方程式							
力学 1		力学 2	力学 3									
専門科目 群	基幹科目及び 展開科目	情報処理 1	情報処理 2									
			キャリア 開発 1	キャリア 開発 2	キャリア 開発 3	キャリア 開発 4	インター シップ (学外研修)					
		かおりデザイン 入門セミナー	プロジェクト 演習 1	プロジェクト 演習 2	プロジェクト 演習 3	プロジェクト 演習 4	プロジェクト 演習 5					
		住居学	かおりデザイン 演習 1	かおりデザイン 演習 2	かおりデザイン 演習 3	かおりデザイン 演習 4	かおりデザイン 演習 3					
			インテリア計 画 1	インテリア計 画 2								
			嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かお り測定演習 1	におい・かお り測定演習 2	におい・かお り測定演習 3					
		かおり成分 と調香 1	かおり成分 と調香 2	かおり成分 と調香 3	かおり成分 と調香 4	アロマテラ ピー演習						
		においの 数値解析1	においの 数値解析2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能 評価演習	建築設備					
		建築インテリア 図法実習 1	建築インテリア 図法実習 2	建築CAD 1	建築CAD2							
		生活環境学 1	生活環境学 2	色彩論	生活環境 評価演習 1	生活環境 評価演習 2	生活環境 評価演習 3					
		建築の仕組み	建築構法	建築材料	悪臭防止法		建築法規					
		力と形演習	構造力学 1	構造力学 2								
				建築生産 1	建築遺産B							
		心理学概論		ランドスケ ープデザイン								
								総合セミナー1	総合セミナー2			
								卒業研究				
		人間科学科目群		7	4	6	4	4	2	0	0	計
		専門基礎科目		2	2	0	0	0	0	0	0	4
		専門科目		13	15	15	17	13	10	2	8	93
		合計		22	21	21	21	17	12	2	8	124

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

臭気測定・対策系

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
人間科学 科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位							
専門基礎 科目群	自然科学系	線形代数 1	線形代数 2						
		化学基礎 1	化学基礎 2						
			基礎物理A	基礎物理B					
	建築学基礎系	数学基礎							
		解析学 1	解析学 2	解析学 3	常微分 方程式				
		力学 1	力学 2	力学 3					
専門科目 群	基幹科目 及び展開科目	情報処理 1	情報処理 2						
			キャリア 開発 1	キャリア 開発 2	キャリア 開発 3	キャリア 開発 4	インター シップ (学外研修)		
		かおりデザイン 入門セミナー	プロジェクト 演習 1	プロジェクト 演習 2	プロジェクト演 習 3	プロジェクト演 習 4	プロジェクト 演習 5		
		住居学	かおりデザイン 演習 1	かおりデザイン 演習 2	かおりデザイン 演習 3	かおりデザイン 演習 4	かおりデザイン 演習 3		
			インテリア 計画 1	インテリア 計画 2					
			嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かおり 測定演習 1	におい・かおり 測定演習 2	におい・かおり 測定演習 3		
		かおり成分と 調香 1	かおり成分と 調香 2	かおり成分と 調香 3	かおり成分と調 香 4	アロマセラピー 演習			
		においの数値 解析1	においの数値 解析2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能 評価演習	建築設備		
		建築インテリア 図法実習 1	建築インテリア 図法実習 2	建築CAD 1	建築CAD2				
		生活環境学 1	生活環境学 2	色彩論	生活環境 評価演習 1	生活環境 評価演習 2	生活環境 評価演習 3		
		建築の仕組み	建築構法	建築材料	悪臭防止法		建築法規		
		力と形演習	構造力学 1	構造力学 2					
				建築生産 1	建築遺産B				
		心理学概論		ランドスケ ープデザイン					
							総合セミナー1	総合セミナー2	
							卒業研究		

人間科学科目群	7	4	6	4	4	2	0	0	計	27
専門基礎科目	2	2	0	0	0	0	0	0		4
専門科目	13	15	15	17	13	10	2	8		93
合計	22	21	21	21	17	12	2	8		124

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

履修モデルF：都市空間インフラ（社会基盤デザイン系）コース

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位								
専門基礎科目群	自然科学系	線形代数1	線形代数2							
	建築学基礎系	化学1	化学2	基礎物理A	基礎物理B					
専門科目群	社会基盤系	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式					
	都市環境系	力学1	力学2	力学3						
専門科目群	基礎科目及び展開科目	数学基礎		基礎工学実験						
	ドボク総合	構造工学1	構造工学2	構造工学3	建設技術	建設マネジメント	鋼構造工学	RC構造工学		
卒業研究	卒業研究									
	卒業研究							総合ゼミナ1	総合ゼミナ2	
人間科学科目群		5	6	2	4	4	6	0	0	27
専門基礎科目		4	2	2	0	0	0	0	0	8
専門科目		12	11	17	13	16	10	2	8	89
合計		21	19	21	17	20	16	2	8	124

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

\*二重線枠はコース選択必修科目

履修モデルG：都市空間インフラ（都市環境システム系）コース

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 必修科目9単位を含め27単位								
専門基礎科目群	自然科学系	線形代数1	線形代数2							
	建築学基礎系	化学1	化学2	基礎物理A	基礎物理B					
専門科目群	社会基盤系	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式					
	都市環境系	力学1	力学2	力学3	数学基礎	基礎工学実験				
専門科目群	基幹科目及び展開科目	構造工学1	構造工学2	構造工学3	建設技術	建設マネジメント	鋼構造工学	RC構造工学		
	トボク総合	地盤工学1	地盤工学2	地盤工学3	環境生態学同実習	ピオトーブ設計	維持管理工学			
卒業研究	卒業研究	流域環境学	流れ学1	流れ学2	環境工学基礎	都市衛生工学	建設技術演習	応用地質学	地盤設計技術	
	卒業研究	計画数理	都市環境プランニング	地域・都市計画	交通計画	ランドスケープ設計	河川学	地盤環境工学		
卒業研究	卒業研究	基礎情報処理1	基礎情報処理2	応用情報処理1	応用情報処理2	応用数学	環境アセスメント	資源循環工学		
	卒業研究	社会基盤設計	CAD演習1	CAD演習2	GIS基礎	GIS演習	まちづくりデザイン実習	輸送システム		
卒業研究	卒業研究	トボクの計測・調査	測量学同実習1	測量学同実習2	応用測量	3D設計基礎	VR演習	まちづくり関連法規		
	卒業研究	都市空間インフラ入門セミナー	都市環境プロジェクト実習			道路工学	道路空間設計			
							防災論			
							エクセレントセミナー	総合土木工学		
							学びとキャリア	インターンシップ		
							技術者倫理			
							総合セミナー1	総合セミナー2		
							卒業研究			
人間科学科目群		5	4	4	4	4	6	0	0	27
専門基礎科目		4	2	2	0	0	0	0	0	8
専門科目		12	15	11	13	16	12	2	8	89
合計		21	21	17	17	20	18	2	8	124

\*太枠は必修科目

\*点線太枠はコース必修科目

\*二重線太枠はコース選択必修科目

## 主なインターンシップ(学外研修) 受入先企業一覧

No.	企業名	業種
1	株式会社高瀬金型	メーカー：プラスチック製品
2	株式会社中島製作所	メーカー：一般機械・産業機械
3	三興精機株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
4	ユ-アイ精機株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
5	株式会社TDEC	メーカー：一般機械・産業機械
6	安田工機株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
7	シブヤ精機株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
8	株式会社東伸	メーカー：一般機械・産業機械
9	株式会社ナガラ	メーカー：一般機械・産業機械
10	中日本炉工業株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
11	株式会社オイダ製作所	メーカー：一般機械・産業機械
12	大同DMソリューション株式会社	メーカー：一般機械・産業機械
13	株式会社セピオテック	メーカー：金属製品・金属加工品
14	森松工業株式会社	メーカー：金属製品・金属加工品
15	株式会社畔柳工業	メーカー：金属製品・金属加工品
16	株式会社イナテック	メーカー：自動車・輸送機器・関連
17	株式会社協豊製作所	メーカー：自動車・輸送機器・関連
18	フジオーゼックス株式会社	メーカー：自動車・輸送機器・関連
19	柴田工業株式会社	メーカー：自動車・輸送機器・関連
20	盟和精工株式会社	メーカー：自動車・輸送機器・関連
21	愛知時計電機株式会社	メーカー：精密・光学・レンズ・医療
22	コーテック株式会社	メーカー：繊維工業
23	伊藤機工株式会社	メーカー：鉄鋼業
24	旭メタルズ株式会社	メーカー：鉄鋼業
25	本多電子株式会社	メーカー：電気機械・照明
26	東亜エレクトロニクス株式会社	メーカー：電気機械・照明
27	株式会社ガイドー電子	メーカー：電子・デバイス
28	株式会社池下設計	建設業：コンサルタント・設計事務所
29	株式会社総合技術コンサルタント	建設業：コンサルタント・設計事務所
30	株式会社メイホーエンジニアリング	建設業：コンサルタント・設計事務所
31	株式会社東海サンユーテクノス	建設業：コンサルタント・設計事務所
32	株式会社シビル・デザイン・ツワン	建設業：コンサルタント・設計事務所
33	株式会社大增コンサルタンツ	建設業：コンサルタント・設計事務所
34	株式会社フジヤマ	建設業：コンサルタント・設計事務所
35	中日本建設コンサルタント株式会社	建設業：コンサルタント・設計事務所
36	いであ株式会社	建設業：コンサルタント・設計事務所

No.	企業名	業種
37	株式会社三進	建設業：コンサルト・設計事務所
38	サカイ創建株式会社	建設業：建築・建設
39	生和コーポレーション株式会社	建設業：建築・建設
40	ケーアンドイー株式会社	建設業：建築・建設
41	株式会社加納工務店	建設業：建築・建設
42	株式会社伊藤工務店	建設業：建築・建設
43	株式会社杉本組	建設業：建築・建設
44	東海インプル建設株式会社	建設業：建築・建設
45	白川電気土木株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
46	株式会社HEXELWorks	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
47	株式会社ヒメノ	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
48	株式会社上田新工業	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
49	川北電気工業株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
50	株式会社二友組	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
51	加藤建設株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
52	株式会社中部	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
53	株式会社朝日工業社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
54	大栄産業株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
55	株式会社カキトー	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
56	新菱冷熱工業株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
57	株式会社スガテック	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
58	東光電気工事株式会社	建設業：設備工事・ﾌﾟﾗﾝﾄ・内装
59	西濃建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
60	TSUCHIYA株式会社	建設業：総合（土木・建築）
61	岐建株式会社	建設業：総合（土木・建築）
62	徳倉建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
63	佐伯総合建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
64	株式会社中村組	建設業：総合（土木・建築）
65	株式会社加藤建設	建設業：総合（土木・建築）
66	株式会社市川工務店	建設業：総合（土木・建築）
67	小原建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
68	日本建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
69	中村建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
70	太啓建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
71	村中建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
72	神野建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
73	内藤建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）

No.	企業名	業種
74	株式会社フジタ	建設業：総合（土木・建築）
75	青山建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
76	りんかい日産建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
77	木村建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
78	株式会社福田組 名古屋支店	建設業：総合（土木・建築）
79	藤城建設株式会社	建設業：総合（土木・建築）
80	近藤グループ（株式会社近藤組）	建設業：総合（土木・建築）
81	株式会社河村産業所	建設業：総合（土木・建築）
82	朝日土木興業株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
83	太洋基礎工業株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
84	丸岩推工株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
85	大有建設株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
86	福田道路株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
87	川田建設株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
88	大矢建設株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
89	ジエイテクノ株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
90	中部土木株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
91	大林道路株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
92	前田道路株式会社	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
93	株式会社川口組	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
94	株式会社ミック	建設業：土木・橋梁・造園・鉄骨
95	国土交通省 中部地方整備局	公務（国家）
96	防衛省自衛隊愛知地方協力本部	公務（国家）
97	株式会社榎屋	商社：総合
98	株式会社トラフィック・シム	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
99	株式会社リーピー	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
100	株式会社アイコン	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
101	株式会社サンテック	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
102	株式会社ピコ・ナレッジ	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
103	株式会社フォイス	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
104	株式会社エヌ・メルクス	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
105	株式会社ウオンツ	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
106	クラウド株式会社	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
107	日本インフォメーション株式会社	情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス
108	東海ラジオ放送株式会社	情報通信：放送業（ＴＶ・ラジオ・有線）
109	株式会社オーテック（愛知県）	流通：ガソリンスタンド・燃料
110	サンテクノ株式会社	サービス：その他

No.	企業名	業種
111	株式会社ジャスト	サービス：その他専門サービス（デザイン・機械設計等）
112	小松開発工業株式会社	サービス：その他専門サービス（デザイン・機械設計等）
113	原田車両設計株式会社	サービス：その他専門サービス（デザイン・機械設計等）
114	ジャナク株式会社	サービス：広告代理業
115	土地家屋調査士法人シーエス	サービス：税理・会計・特許・経営コンサルト
116	南医療生活協同組合	サービス：病院・医院・医療・保健衛生
117	レンテック大敬株式会社	サービス：物品以外・物品リース

## 学校法人大同学園大学教育職員定年退職再雇用者就業規則

(平成 20 年 4 月 1 日制定)

(目的)

**第 1 条** この規程は、学校法人大同学園(以下「学園」という。)に勤務する大学教育職員で定年により退職し、再雇用された者(以下「特任教員」という。)に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(対象者)

**第 2 条** 再雇用の対象となる大学教育職員は、再雇用する年度の前年度(または前々年度)に定年退職した者とする。

(再雇用の方法)

**第 3 条** 学園と本人の意向を調整の上、再雇用を行う。

2 雇用期間は、1 年単位で行い最長 2 年とする。

3 再雇用を希望する者は、定年到達年度および再雇用 1 年目の 5 月末までに申し出なければならない。

(職務)

**第 4 条** 特任教員の職務については、次のとおりとする。

(1) 主として授業のみを担当する。

(2) 担当する授業の持ちコマ数は、前期および後期各 1 コマ(持ちコマ数 1)以上とする。

(3) 卒業研究、卒業研究関連セミナーなどの指導学生を対象とした授業は担当しない。ただし、卒業研究及び 4 年次開講の卒業研究関連セミナーの指導体制(指導教員)を適切に維持できないと学長が判断した場合、当該科目の補助(以下「卒研等補助」という。)に限り行うことができる。

(4) 学生の指導教員は担当しない。

(5) 大学院は担当しない。

(6) 役職、学内各種委員会委員および教授会等の会議を免除する。

(所属)

**第 5 条** 特任教員は、原則として、定年退職時に所属していた学科又は教養部に所属する。

(研究室)

**第 6 条** 特任教員は、特任教員専用の研究室を利用する。ただし、卒研等補助をする場合は、利用する研究室等を学長が別途決定する。

(この規則に定めない事項)

**第 7 条** この規程に定めるもののほか、特任教員の就業に関する事項は、労働基準法その他の法令の定めるところによる。

(任用)

**第 8 条** 特任教員の任用は、理事長が決定する。

(解雇)

**第 9 条** 特任教員が、次の各号の一に該当するときは、当該労働契約の期間の満了前であっても解雇することができる。

(1) やむを得ない事由で事業を縮小し又は合理化する場合

(2) 精神又は身体の障害により職務に堪えられないと認められる場合

(3) 勤務成績が著しく不良でその職務に必要な適性を欠く場合

(4) 制裁解雇の事由に該当した場合

(5) 業務上の傷病を除き、引き続き 30 日間を越えて勤務しない場合

2 第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 3 号の規定により解雇する場合は、少なくとも 30 日前に本人に予告し、それができない場合には、解雇予告手当を支払う。

(退職)

**第 10 条** 特任教員が次の各号の一に該当するときは、退職とする。

(1) 本人が退職を願い出たとき

(2) 死亡したとき

- (3) 労働契約の期間が満了したとき
- (4) 大学から解雇を通知したとき  
(勤務日及び勤務時間)

**第 11 条** 特任教員の勤務日及び勤務時間は、担当する授業及び卒研等補助のある日並びにその時間とする。  
2 卒業研究及び 4 年次開講の卒業研究関連セミナーを合わせた科目の補助の週当たりの時間数は、理系及びデザイン系分野（工学部全学科並びに情報学部情報システム学科及び情報デザイン学科）にあつては授業科目の 2 コマ相当、文系分野（情報学部総合情報学科）にあつては授業科目の 1 コマ相当とする。  
(給与)

**第 12 条** 特任教員の給与は、次のとおりとする。

- (1) 月次定額給: 125,000 円 (年間 150 万)
  - (2) 授業持ちコマ給: 月に 1 コマ 70,000 円 (卒研等補助のコマ数は、前条第 2 項に規定する相当コマ数に準じる。)
- 2 特任教員の期末手当は支給しない。  
(手当)

**第 13 条** 特任教員の通勤手当は、実費支給とする。ただし、本学から 80km 以内を上限とする。

- 2 特任教員の福利手当は、私学共済に加入した場合、学校法人大同学園福利手当支給規程により支給する。
- 3 その他手当については、支給しない。  
(支給日)

**第 14 条** 特任教員の支給日は、学校法人大同学園就業規則第 35 条を準用する。  
(給与からの控除及び支払い)

**第 15 条** 特任教員の給与からの控除及び支払いは、学校法人大同学園就業規則第 35 条の 2 を準用する。  
(死亡時の遺族)

**第 16 条** 特任教員の死亡時の遺族は、学校法人大同学園就業規則第 37 条を準用する。  
(退職給与)

**第 17 条** 特任教員の退職給与は支給しない。  
(服務)

**第 18 条** 特任教員の服務については、学校法人大同学園就業規則第 7 章を準用する。  
(業務上傷病療養費)

**第 19 条** 特任教員が業務上の傷病のため療養をするときは、法令の定めによって学園の費用で必要な療養を行い、又は療養に必要な費用を支払う。  
(厚生施設)

**第 20 条** 特任教員の厚生施設は、学校法人大同学園就業規則第 66 条を準用する。  
(制裁)

**第 21 条** 特任教員の制裁は、学校法人大同学園就業規則第 69 条、第 70 条、第 71 条、第 72 条、第 73 条、第 74 条を準用する。  
(社会保険)

**第 22 条** 特任教員の私学共済の加入は、厚生年金保険法、健康保険法及びその他関連法令の定めるところにより決定する。

附 則

**第 1 条** この規則は、平成 20 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附 則

**第 1 条** この改正規則は、平成 29 年 1 月 1 日からこれを施行する。

附 則

**第 1 条** この改正規則は、2022 年 4 月 1 日からこれを施行する。

No.	和洋区別	書名	出版社
1	和書	A+U : architecture and urbanism : 建築と都市	エー・アンド・ユー
2	和書	Aroma research : journal of aroma science and technology	フレグランスジャーナル社
3	和書	Casa brutus = 月刊「カーサ・ブルータス」	マガジンハウス
4	和書	Confort = コンフォルト	建築資料研究社
5	和書	Elle deco = エル・デコ	タイムアシェットジャパン
6	和書	Environmental & social repor	トヨタ自動車株式会社環境部
7	和書	Fragrance journal	フレグランスジャーナル社
8	和書	IATSS review : 国際交通安全学会誌	国際交通安全学会
9	和書	I'm home	商店建築社
10	和書	JSSC : 日本鋼構造協会機関誌	日本鋼構造協会
11	和書	MCM建設月報 : 建設省広報	建設省広報協議会
12	和書	Modern living	婦人画報社
13	和書	Process: architecture	プロセスアーキテクチュア
14	和書	S+C	日本鋼管株式会社市場調査部PR室
15	和書	SD : スペースデザイン	鹿島研究所出版会
16	和書	SD. 別冊	鹿島研究所出版会
17	和書	Structure	構造家懇談会
18	和書	アース&ecoコンクリートマガジン	セメントジャーナル社
19	和書	あいちの統計	愛知県企画部統計課
20	和書	浅沼組技術研究所報	浅沼組
21	和書	医療福祉建築	日本医療福祉建築協会
22	和書	インテリア	日本室内設計研究所
23	和書	インテリア	学芸書林
24	和書	雨水技術資料	雨水貯留浸透技術協会
25	和書	運輸と経済	運輸調査局
26	和書	応用地質	応用地質研究会
27	和書	大林組技術研究所報	大林組技術研究所
28	和書	音響技術	日本音響材料協会
29	和書	学術講演梗概集. A, 材料施工,防火,海洋,情報システム技術	日本建築学会
30	和書	学術講演梗概集. A, 材料・施工,防火,海洋,電算利用	日本建築学会
31	和書	学術講演梗概集. A-1, 材料施工	日本建築学会
32	和書	学術講演梗概集. A-2, 防火,海洋,情報システム技術	日本建築学会
33	和書	学術講演梗概集. B, 構造I	日本建築学会
34	和書	学術講演梗概集. B-1, 構造I, 荷重・信頼性,応用力学・構造解析,基礎構造,シェル・立体構造・膜構造	日本建築学会
35	和書	学術講演梗概集. B-2, 構造II, 振動, 原子力プラント	日本建築学会
36	和書	学術講演梗概集. C, 構造II	日本建築学会
37	和書	学術講演梗概集. C-1, 構造III, 木質構造, 鉄骨構造, 鉄骨鉄筋コンクリート構造	日本建築学会
38	和書	学術講演梗概集. C-2, 構造IV, 鉄筋コンクリート構造, プレストレストコンクリート構造, 壁構造・組積構造	日本建築学会
39	和書	学術講演梗概集. D, 環境工学	日本建築学会
40	和書	学術講演梗概集. D-1, 環境工学I, 室内音響・音環境, 騒音・固体音, 環境振動, 光・色, 給排水・水環境, 都市設備・環境管理, 環境心理生理, 環境設計, 電磁環境	日本建築学会
41	和書	学術講演梗概集. D-2, 環境工学II, 熱, 湿気, 温熱感, 自然エネルギー, 気流・換気・排煙, 数値流体, 空気清浄, 暖冷房・空調, 熱源設備, 設備応用	日本建築学会
42	和書	学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画	日本建築学会
43	和書	学術講演梗概集. E-1, 建築計画I, 各種建物・地域施設, 設計方法, 構法計画, 人間工学, 計画基礎	日本建築学会
44	和書	学術講演梗概集. E-2, 建築計画II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育	日本建築学会
45	和書	学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠	日本建築学会
46	和書	学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築史・建築意匠	日本建築学会
47	和書	学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題	日本建築学会
48	和書	学術講演梗概集. F-2, 建築歴史・意匠	日本建築学会
49	和書	学術講演梗概集. 計画系	日本建築学会
50	和書	学術講演梗概集. 構造系	日本建築学会
51	和書	学術講演会建築デザイン発表会プログラム	日本建築学会
52	和書	火災	工業調査会
53	和書	風工学シンポジウム論文集	日本気象学会
54	和書	河川	河川協会
55	和書	からだの科学	日本評論社
56	和書	からだの科学. 増刊	日本評論社
57	和書	カラム	八幡製鐵カラム刊行委員会
58	和書	環境研究	公害調査センター
59	和書	環境と健康 : リスク評価と健康増進の科学	体質研究会
60	和書	季刊大林	大林組広報室
61	和書	季刊環境研究	公害調査センター
62	和書	季刊土と基礎	東海書房
63	和書	技術開発年報	建設技術研究所
64	和書	技術報告集	全国上下水道コンサルタント協会
65	和書	技術報	大林道路
66	和書	技報	ピーエス三菱
67	和書	橋梁	鋼構造社
68	和書	橋梁&都市project	橋梁編纂委員会
69	和書	橋梁と基礎	建設図書
70	和書	近代建築	近代建築社
71	和書	空気調和・衛生工学	空気調和・衛生工学会

建築学部雑誌リスト（和雑誌）

No.	和洋区別	書名	出版社
72	和書	区画整理	土地区画整理研究会
73	和書	劇場技術	日本劇場技術協会
74	和書	月刊自動車管理	企業開発センター
75	和書	研究選集	日本建築学会関東支部
76	和書	研究発表会講演概要集	土木学会中部支部
77	和書	研究・研修助成報告集	国際交通安全学会
78	和書	建設機械施工：一般社団法人日本建設機械施工協会誌	日本建設機械施工協会
79	和書	建設月報	建設広報協議会
80	和書	建設工学研究所報告	建設工学研究所
81	和書	建設工学研究所論文報告集	建設工学研究所
82	和書	建設統計月報	建設物価調査会
83	和書	建設の機械化	建設機械化協会
84	和書	建設の施工企画	日本建設機械化協会
85	和書	建築	青銅社
86	和書	建築學會論文集	建築学会
87	和書	建築画報	建築画報社
88	和書	建築技術	建築技術研究会
89	和書	建築研究所年報	建設省建築研究所
90	和書	建築雑誌	造家學會
91	和書	建築雑誌. 研究年報	日本建築学会
92	和書	建築雑誌. 建築年報	日本建築学会
93	和書	建築雑誌. 建築年報. 活動編	日本建築学会
94	和書	建築雑誌. 建築年報. 大会・論文編	日本建築学会
95	和書	建築雑誌. 作品選集	日本建築学会
96	和書	建築雑誌. 日本建築学会大会	日本建築学会
97	和書	建築史学	建築史学会
98	和書	建築ジャーナル	企業組合建築ジャーナル
99	和書	建築ダイジェスト	日本建築文献センター
100	和書	建築知識	全日本建築士会出版局
101	和書	建築知識. 別冊	建築知識社
102	和書	建築と社會	日本建築協會
103	和書	建築文化	彰国社
104	和書	建築界	理工図書
105	和書	建築史	ロゴス出版
106	和書	建築史研究	彰国社
107	和書	公害資源研究所彙報	工業技術院公害資源研究所
108	和書	公共建築	日刊建設通信社
109	和書	鋼構造	三ツ木出版社
110	和書	構造物設計資料	日本鉄道施設協会
111	和書	交通安全教育	日本交通安全教育普及協会
112	和書	交通安全ジャーナル	東京交通安全協会
113	和書	交通安全対策振興助成研究報告書	佐川交通社会財団
114	和書	交通安全対策振興助成研究報告書(地域研究)	佐川交通社会財団
115	和書	交通科学	大阪交通科学研究会
116	和書	交通文献情報	運輸調査局
117	和書	鴻池組技術研究報告	鴻池組
118	和書	高分子	高分子学会
119	和書	高分子化学	高分子化学協會
120	和書	港湾	港湾協會
121	和書	港湾技術資料	運輸省港湾技術研究所
122	和書	港湾技術研究所講演会講演集	運輸省港湾技術研究所
123	和書	港湾技術研究所年報	運輸省港湾技術研究所
124	和書	港湾技術研究所報告	運輸省港湾技術研究所
125	和書	港湾空港技術研究所資料	港湾空港技術研究所
126	和書	港湾空港技術研究所報告	港湾空港技術研究所
127	和書	港湾空港技術講演会講演集	国土交通省国土技術政策総合研究所
128	和書	國際建築	國際建築協會事務所
129	和書	国土技術政策総合研究所研究報告	国土交通省国土技術政策総合研究所
130	和書	国土技術政策総合研究所資料	国土技術政策総合研究所
131	和書	国土技術政策総合研究所年報	国土技術政策総合研究所
132	和書	国立防災科学技術センター研究報告	国立防災科学技術センター
133	和書	コンクリート工学	日本コンクリート会議
134	和書	コンクリート工学論文集	日本コンクリート工学協会
135	和書	コンクリートジャーナル	日本コンクリート会議
136	和書	再開発研究	再開発コーディネーター協議会
137	和書	産業医学	日本産業衛生協会
138	和書	産業衛生学雑誌	日本産業衛生学会
139	和書	色彩研究	日本色彩研究所
140	和書	資源と環境	資源環境技術総合研究所
141	和書	地盤工学会論文報告集	地盤工学会
142	和書	地盤工学会誌	地盤工学会
143	和書	ジャパン・インテリア	ジャパン・インテリア
144	和書	住総研研究論文集	住総研
145	和書	住総研研究論文集・実践研究報告集	丸善プラネット
146	和書	住宅	日本住宅協会
147	和書	住宅建築	建築資料研究社

建築学部雑誌リスト（和雑誌）

No.	和洋区別	書名	出版社
148	和書	住宅建築研究所報	新住宅普及会住宅建築研究所
149	和書	住宅建築. 別冊	建築資料研究社
150	和書	住宅総合研究財団研究年報	住宅総合研究財団
151	和書	住宅総合研究財団研究論文集	住宅総合研究財団
152	和書	住宅特集：新建築住宅専門誌	新建築社
153	和書	浄化槽研究	日本環境整備教育センター
154	和書	商店建築	商店建築社
155	和書	新建築	新建築社
156	和書	新建築 復刻版	不二出版
157	和書	新建築. 住宅特集	新建築社
158	和書	心身健康科学	日本心身健康科学会
159	和書	新都市	都市計画協会
160	和書	水力	シビル社
161	和書	ステンレス建築	ステンレス構造建築協会
162	和書	施工：建築の技術	彰国社
163	和書	銭高組技報	銭高組
164	和書	セメントコンクリート	技報堂
165	和書	騒音制御	日本騒音制御工学会
166	和書	総合鉄骨建築	鉄骨建築社
167	和書	総合都市研究	東京都立大学都市研究センター
168	和書	総合論文誌	日本建築学会
169	和書	大会学術講演梗概集. 計画系	日本建築学会
170	和書	大会学術講演梗概集. 構造系	日本建築学会
171	和書	大成建設技術研究所報	大成建設技術研究所
172	和書	大成建設技術センター報	大成建設技術研究所
173	和書	宅地開発	日本宅地開発協会
174	和書	竹中技術研究報告	竹中工務店
175	和書	ダム工学	ダム工学研究会
176	和書	中央復建C.技報	中央復建コンサルタンツ
177	和書	中央復建技報	中央復建コンサルタンツ
178	和書	調査研究期報	日本住宅公団建築部調査研究課
179	和書	土と基礎	東海書房
180	和書	ディテール	彰国社
181	和書	鉄道土木	日本鉄道施設協会
182	和書	電力土木	電力土木技術協会
183	和書	東海支部研究報告集	日本建築学会東海支部
184	和書	東急建設技術研究所報	東急建設技術研究所
185	和書	東京都土木技術研究所年報	東京都土木技術研究所
186	和書	東京都土木技術支援・人材育成センター年報	東京都土木技術支援・人材育成センター
187	和書	東京都土木技術センター年報	東京都土木技術センター
188	和書	統計なごや：名古屋統計資料月報	名古屋市
189	和書	道路	日本道路技術協会
190	和書	道路建設	日本道路建設業協会
191	和書	都市科学研究	首都大学東京都市環境科学研究科都市システム科学専攻
192	和書	都市計画	日本都市計画学会
193	和書	都市計画論文集	日本都市計画学会
194	和書	都市研究報告	東京都立大学都市研究委員会
195	和書	都市公論 復刻版	不二出版
196	和書	都市住宅	鹿島研究所出版会
197	和書	土質工学会論文報告集	土質工学会
198	和書	戸田建設技術研究報告	戸田建設
199	和書	土地家屋調査士	日本土地家屋調査士会連合会
200	和書	土地住宅総合研究	日本評論社
201	和書	土地住宅問題	土地住宅問題研究センター
202	和書	土木学会論文報告集	土木学会
203	和書	土木學會論文集	土木学会
204	和書	土木學會誌	土木学会
205	和書	土木學會誌. 臨時増刊, 論文集	土木学会
206	和書	土木學會誌. 論文集	土木学会
207	和書	土木技術	土木技術社
208	和書	土木技術資料	土木研究会
209	和書	土木工学	工業雑誌社
210	和書	土木雑誌	土木雑誌社
211	和書	土木施工	山海堂
212	和書	トンネルと地下	土木工学社
213	和書	におい・かおり環境学会誌	臭気対策研究協会
214	和書	日経アーキテクチュア	日経マグロービル社
215	和書	日経コンストラクション	日経BP社
216	和書	日経デザイン	日経BP社
217	和書	日本味と匂学会誌	日本味と匂学会
218	和書	日本火災学会論文集	日本火災学会
219	和書	日本建築学会環境系論文集	日本建築学会
220	和書	日本建築学会技術報告集	日本建築学会
221	和書	日本建築学会計画系論文報告集	日本建築学会

建築学部雑誌リスト（和雑誌）

No.	和洋区別	書名	出版社
222	和書	日本建築学会計画系論文集	日本建築学会
223	和書	日本建築学会構造系論文報告集	日本建築学会
224	和書	日本建築学会構造系論文集	日本建築学会
225	和書	日本建築学会大会・・・大会プログラム	日本建築学会
226	和書	日本建築学会論文報告集	日本建築学会
227	和書	日本建築学会論文報告集. 号外, 学術講演要旨集	日本建築学会
228	和書	日本建築學會論文集	日本建築学会
229	和書	日本交通科学学会誌	日本交通科学学会
230	和書	日本交通科学協議会誌	日本交通科学協議会
231	和書	日本鉄道施設協会誌	日本鉄道施設協会
232	和書	日本道路公団試験研究所年報	日本道路公団試験研究所
233	和書	日本道路公団試験研究所報告	日本道路公団試験研究所
234	和書	日本都市計画学会学術講演会論文集	日本都市計画学会
235	和書	日本の鋼構造	鋼材倶楽部
236	和書	農業土木学会論文集	農業土木学会
237	和書	農業土木学会誌	農業土木学会
238	和書	農村計画学会誌	農村計画学会
239	和書	農村研究	東京農業大学農業経済学会
240	和書	長谷エコーポレーション総合研究所年報. 解題篇	長谷エコーポレーション総合研究所
241	和書	長谷エコーポレーション総合研究所年報. 論文篇	長谷エコーポレーション総合研究所
242	和書	発電水力	発電水力協会
243	和書	病院建築	日本病院建築協会
244	和書	佛教藝術	毎日新聞社
245	和書	不動産鑑定	住宅新報社
246	和書	不動産法律セミナー	東京法経学院出版部
247	和書	プレストレストコンクリート	プレストレストコンクリート技術協会
248	和書	別冊商店建築	商店建築社
249	和書	別冊新建築. 日本現代建築家シリーズ	新建築社
250	和書	別冊土木施工	山海堂
251	和書	防災科学技術研究所研究報告	防災科学技術研究所
252	和書	マテリアルフロー	流通研究社
253	和書	三井建設技術研究報告	三井建設技術研究所
254	和書	三井建設技術研究報告別冊	三井建設株式会社技術開発本部
255	和書	三井建設技術研究所報	三井建設株式会社技術研究所
256	和書	三菱建設技報	三菱建設技術研究所
257	和書	モダンリビング	婦人画報社
258	和書	ランドスケープ研究：日本造園学会誌	日本造園学会
259	和書	ランドスケープ研究. 増刊, 技術報告集	日本造園学会
260	和書	ランドスケープ研究. 増刊, 作品選集	日本造園学会

建築学部雑誌リスト（洋雑誌）

No.	和洋区別	書名	出版社
1	洋書	ACI materials journal : a journal of the American Concrete Institute	American Concrete Institute
2	洋書	ACI structural journal : a journal of the American Concrete Institute	American Concrete Institute
3	洋書	Air conditioning, heating and ventilating	Industrial Press
4	洋書	Architectural design	A. Papadakis
5	洋書	Architectural forum	Time
6	洋書	Architectural record	
7	洋書	Architecture : the AIA journal	American Institute of Architects
8	洋書	Architektur Wettbewerbe	K. Krämer
9	洋書	Archive of applied mechanics : Ingenieur-Archiv	Springer-Verlag
10	洋書	Arkkitehti = Architekten	Suomen Arkkitehtiliitto
11	洋書	Art & design : A.D	AD Editions
12	洋書	ASCE annual combined index	Information Services, ASCE
13	洋書	ASCE publications information	American Society of Civil Engineers
14	洋書	Assemblage	MIT Press
15	洋書	Bauen + Wohnen	Verlag Bauen + Wohnen
16	洋書	Bauingenieur : Zeitschrift für das gesamte Bauwesen	Springer
17	洋書	Baumeister	Georg D.W.Callwey
18	洋書	Bautechnik	Ernst & Sohn
19	洋書	Beton- und Stahlbetonbau : internationales Organ für Betonbau	Wilhelm Ernst & Sohn
20	洋書	Building and environment	Pergamon Press
21	洋書	Building science	Pergamon Press
22	洋書	Building services : the CIBSE journal	Building Services Publications
23	洋書	Building services journal : the magazine of the CIBSE	Building Services Publications
24	洋書	Building systems design	[s.n.]
25	洋書	Canadian geotechnical journal	John & Wily Sons
26	洋書	Casabella	Gruppo Electa
27	洋書	Casabella continuita : rivista internazionale di architettura	Editoriale Domus
28	洋書	Cement and concrete research	
29	洋書	Civil engineering	[American Society of Civil Engineers]
30	洋書	Civil engineering ASCE	American Society of Civil Engineers
31	洋書	Color research and application	John & Wily Sons
32	洋書	Computers and structures	Pergamon Press
33	洋書	Concrete international : design and construction	American concrete institute
34	洋書	Concrete library / Japan Society of Civil Engineers	Japan Society of Civil Engineers
35	洋書	Concrete library international / Japan Society of Civil Engineers	Japan Society of Civil Engineers
36	洋書	Construction weekly	Morgan-Grampian plc.
37	洋書	DB Deutsche Bauzeitung	Deutsche Verlags-Anstalt
38	洋書	Department of Civil Engineering	
39	洋書	Detail	
40	洋書	Deutsche Bauzeitung : Fachzeitschrift für Architektur und Bautechnik : db	Deutsche Verlags-Anstalt
41	洋書	Deutscher Ausschuss für Stahlbeton	Ernst & Sohn
42	洋書	Domus	Editoriale Domus
43	洋書	Domus dossier	Domus
44	洋書	Driade edizioni : D.E	Driade
45	洋書	ENR	McGraw-Hill
46	洋書	Environment and behavior	SAGE Publications
47	洋書	European journal of applied physiology	Springer
48	洋書	Frequenz : Zeitschrift für Schwingungs- und Schwachstromtechnik	Fachverlag Schiele & Schön
49	洋書	Géotechnique : the international journal of soil mechanics / the Institution of Civil Engineers	[Published by Thomas Telford Ltd. for the] institution of Civil Engineers
50	洋書	I.T.E. journal / Institute of Transportation Engineers	
51	洋書	IATSS research / International Association of Traffic and Safety Sciences	International Association of Traffic and Safety Sciences
52	洋書	International journal of lighting research and technology / Chartered Institution of Building Services Engineers	Chartered Institution of Building Services Engineers
53	洋書	International journal of solids and structures	Pergamon Press
54	洋書	Journal / Royal Institute of British Architects	RIBA Magazines
55	洋書	Journal / Water Pollution Control Federation	Water Pollution Control Federation
56	洋書	Journal of applied physiology	American Physiological Society
57	洋書	Journal of architectural engineering	American Society of Civil Engineers
58	洋書	Journal of Asian architecture and building engineering / Architectural Institute of Japan, Architectural Institute of Korea, Architectural Society of China	Architectural Institute of Japan
59	洋書	Journal of bridge engineering / American Society of Civil Engineers, Structural Division	American Society of Civil Engineers
60	洋書	Journal of cold regions engineering / American Society of Civil Engineers, Technical Council on Cold Regions Engineering	American Society of Civil Engineers
61	洋書	Journal of computing in civil engineering / American Society of Civil Engineers, Technical Council on Computer Practices	American Society of Civil Engineers
62	洋書	Journal of construction engineering and management	American Society of Civil Engineers
63	洋書	Journal of energy engineering	American Society of Civil Engineers
64	洋書	Journal of engineering mechanics / American Society of Civil Engineers. Engineering Mechanics Division	American Society of Civil Engineers
65	洋書	Journal of environmental engineering	American Society of Civil Engineers, Environmental Engineering Division
66	洋書	Journal of environmental quality	Published cooperatively by American Society of Agronomy, Crop Science Society of America, and Soil Science Society of America
67	洋書	Journal of geotechnical engineering / American Society of Civil Engineers	American Society of Civil Engineers
68	洋書	Journal of hydraulic engineering	American Society of Civil Engineers

建築学部雑誌リスト（洋雑誌）

No.	和洋区別	書名	出版社
69	洋書	Journal of hydraulic research = Journal de recherches hydrauliques	I.A.H.R.
70	洋書	Journal of hydrologic engineering / American Society of Civil Engineers, Water Resources Engineering Division	American Society of Civil Engineers
71	洋書	Journal of hydrology	Elsevier
72	洋書	Journal of hydroscience and hydraulic engineering	Japan Society of Civil Engineers
73	洋書	Journal of infrastructure systems	American Society of Civil Engineers
74	洋書	Journal of irrigation and drainage engineering / American Society of Civil Engineers	American Society of Civil Engineers
75	洋書	Journal of materials in civil engineering / American Society of Civil Engineers, Materials Engineering Division	American Society of Civil Engineers
76	洋書	Journal of occupational health / Japan Society for Occupational Health	Japan Society for Occupational Health
77	洋書	Journal of performance of constructed facilities / American Society of Civil Engineering, Technical Council on Forensic Engineering	American Society of Civil Engineering, Technical Council on Forensic Engineering
78	洋書	Journal of professional issues in engineering	American Society of Civil Engineers
79	洋書	Journal of professional issues in engineering education and practice	American Society of Civil Engineers
80	洋書	Journal of regional science / Regional Science Research Institute	Regional Science Research Institute
81	洋書	Journal of safety research	Illuminating Engineering Society
82	洋書	Journal of structural engineering	American Society of Civil Engineers
83	洋書	Journal of surveying engineering	American Society of Civil Engineers
84	洋書	Journal of technical topics in civil engineering	American Society of Civil Engineers
85	洋書	Journal of the American Concrete Institute	[American Concrete Institute]
86	洋書	Journal of the American Institute of Planners	American Institute of Planners
87	洋書	Journal of the American Planning Association	American Planning Association
88	洋書	Journal of the American Society of Architectural Historians	Department of Architecture, in the Rensselaer Polytechnic Institute
89	洋書	Journal of the Illuminating Engineering Society	Illuminating Engineering Society
90	洋書	Journal of the Prestressed Concrete Institute	Prestressed Concrete Institute
91	洋書	Journal of the Royal Institute of British Architects. 3rd. ser	Royal Institute of British Architects
92	洋書	Journal of the Royal Town Planning Institute	Royal Town Planning Institute
93	洋書	Journal of the Society of Architectural Historians	[Society of Architectural Historians]
94	洋書	Journal of the Town Planning Institute	Town Planning Institute
95	洋書	Journal of transportation engineering / American Society of Civil Engineers. Transportation Engineering Division	American Society of Civil Engineers. Transportation Engineering Division
96	洋書	Journal of urban planning and development	American Society of Civil Engineers, Urban Planning and Development Division
97	洋書	Journal of water resources planning and management / American Society of Civil Engineers, Water Resources Planning and Management Division	American Society of Civil Engineers, Water Resources Planning and Management Division
98	洋書	Journal of waterway, port, coastal, and ocean engineering / American Society of Civil Engineers. Waterway, Port, Coastal and Ocean Engineering Division	American Society of Civil Engineers
99	洋書	L'Architecture d'aujourd'hui	Jean-Michel Place.
100	洋書	Lux : la revue de l'éclairage	
101	洋書	Magazine of concrete research / Cement & Concrete Association	Cement and Concrete Association
102	洋書	Materials and structures	E. & F.N. Spon
103	洋書	Matériaux et constructions = Materials & structures / RILEM	Chapman & Hall
104	洋書	PCI journal / Prestressed Concrete Institute	Prestressed Concrete Institute
105	洋書	Planners' journal / American Institute of Planners	
106	洋書	Planning : for the natural and built environment : incorporating PlanningWeek	Planning Publications
107	洋書	Planningweek : the journal of the Royal Town Planning Institute / Royal Town Planning Institute	Haymarket Trade and Leisure Magazines
108	洋書	Practice periodical on structural design and construction / American Society of Civil Engineers, Construction Division & Structural Division	American Society of Civil Engineers
109	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Issues in engineering. Journal of professional activities / American Society of Civil Engineers	American Society of Civil Engineers
110	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Construction Division	American Society of Civil Engineers
111	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Energy Division / American Society of Civil Engineers	
112	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Engineering Mechanics Division / American Society of Civil Engineers	
113	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Environmental Engineering Division	American Society of Civil Engineers
114	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Geotechnical Engineering Division / the American Society of Civil Engineers	American Society of Civil Engineers
115	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Highway Division	
116	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Hydraulics Division	American Society of Civil Engineers
117	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Irrigation and Drainage Division	American Society of Civil Engineers
118	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Soil Mechanics and Foundation Division	American Society of Civil Engineers
119	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Structural Division	American Society of Civil Engineers
120	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Surveying and Mapping Division / the American Society of Civil Engineers	
121	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Technical Councils of ASCE	American Society of Civil Engineers
122	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Urban Planning and Development Division / American Society of Civil Engineers	

建築学部雑誌リスト (洋雑誌)

No.	和洋区別	書名	出版社
123	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Water Resources Planning and Management Division	ASCE
124	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Waterway, Port, Coastal and Ocean Division	
125	洋書	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Transportation engineering journal of A.S.C.E	
126	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Bridge engineering	Published for the Institution of Civil Engineers by Thomas Telford
127	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Civil engineering	Thomas Telford Services
128	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Engineering sustainability	Published for the Institution of Civil Engineers by Thomas Telford
129	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Geotechnical engineering	Published by Thomas Telford Services for the Institution of Civil
130	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Municipal engineer	Thomas Telford Services
131	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Pt. 1, Design and construction	Institution of Civil Engineers
132	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Pt. 2, Research and theory	Institution of Civil Engineers
133	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Structures and buildings	Thomas Telford Services
134	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Transport	Thomas Telford Services
135	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Water and maritime engineering	Published for the Institution of Civil Engineers by Thomas Telford
136	洋書	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Water, maritime & energy	Published for the Institution of Civil Engineers by Thomas Telford Services
137	洋書	Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers. Part F, Journal of rail and rapid transit	Mechanical Engineering Publications
138	洋書	Progressive architecture	Reinhold
139	洋書	R.I.B.A. journal / Royal Institute of British Architects	Royal Institute of British Architects
140	洋書	Research journal of the Water Pollution Control Federation	Water Pollution Control Federation
141	洋書	Risk analysis : an official publication of the Society for Risk Analysis	Plenum Press
142	洋書	Soil and foundation / the Japanese Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering	Japanese Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering
143	洋書	Soil science / Rutgers University	Williams & Wilkins
144	洋書	Soil Science Society of America journal	Soil Science Society of America
145	洋書	Stahlbau	
146	洋書	Strassen- und Tiefbau	
147	洋書	Structural engineer : journal of the Institution of Structural Engineers	Institution of Structural Engineers
148	洋書	Techniques & architecture	Regirex-France
149	洋書	The Architect : the journal of the Royal Institute of British Architects	[RIBA Magazines]
150	洋書	The architects' journal	Architectural Press
151	洋書	The architectural review : a magazine of architecture & decoration	Architectural Press
152	洋書	The Dock & harbour authority	Yachtsman Publishing
153	洋書	The Journal of the Chartered Institution of Building Services	Building Services
154	洋書	The Planner / Royal Town Planning Institute	Royal Town Planning Institute
155	洋書	The structural engineer : journal of the Institution of Structural Engineers	Institution of Structural Engineers
156	洋書	The Structural engineer. Pt. A : journal of the Institution of Structural Engineers	Institution of Structural Engineers
157	洋書	The Structural engineer. Pt. B : journal of the Institution of Structural Engineers	Institution of Structural Engineers
158	洋書	The town planning review	University Press of Liverpool
159	洋書	Traffic engineering and control	Printerhall
160	洋書	Transactions of the American Society of Civil Engineers	American Society of Civil Engineers
161	洋書	Water environment & technology / Water Pollution Control Federation	Water Pollution Control Federation
162	洋書	Water environment research : a research publication of the Water Environment Federation	Water Environment Federation
163	洋書	Water resources research / American Geophysical Union	American Geophysical Union
164	洋書	Werk, Bauen + Wohnen (Zürich)	Verlegergemeinschaft Werk, Bauen + Wohnen
165	洋書	Werk, Bauen + Wohnen [German ed.]	[Verlag Bauen + Wohnen]
166	洋書	Werk/Archithese	Verlag Arthur Niggli AG

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
(1) 大学等の現状把握・分析	2
(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析	2
(3) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	2
(4) 学生確保の見通し	3
ア. 学生確保の見通しの調査結果	3
イ. 新設学部等の分野の動向	3
ウ. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	4
エ. 競合校の状況	5
オ. 既設学部等の学生確保の状況	5
(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	6
ア. 高校生を対象とした広報活動	6
イ. 高校教員を対象とした入試説明会	6
ウ. 高校訪問	6
エ. その他大学広報及び募集広報	6
2. 人材需要の動向等社会の要請	
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	8
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	8

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 大学等の現状把握・分析

本学は、昭和 39(1964)年に、工学部のみ単科大学として、機械工学科と電気工学科の2学科で出発した。その後、昭和 62(1987)年までの24年間に建設工学科(土木工学専攻、建築学専攻)、応用電子工学科を加え4学科体制を確立した。大学設置当時は、教育体制の整備に必要な資源確保に大きな苦労を経験したが、設置後30年間の平成6(1994)年頃までは、わが国の高度成長と18歳人口の増加を背景に比較的安定した経営状態が続いた。

平成3(1991)年のバブル経済崩壊を機に、わが国の産業構造は急速に変貌した。その先導的役割を果たしたのが情報化社会の到来であった。平成13(2001)年に応用電子工学科を電子情報工学科に改組し、建設工学科を建築学科に名称変更した。翌年、電子情報工学科を基に情報学部情報学科を設置した。同時に情報学科の中に、文理融合コースを設置し、社会のニーズに応えると同時に、今後の発展に備えることとした。

平成20(2008)年には、情報学部を理工系の情報システム学科とデザイン要素を取り入れた情報デザイン学科に改組した。また、平成22(2010)年には工学部総合機械工学科(現機械システム工学科)、平成24(2012)年には情報学部総合情報学科を設置した。このように本学は、着実に社会ニーズへの対応を進めてきた。

現在、大学全体として入学定員を充足しているもの、18歳人口の減少や他大学等における学部学科等の改組や新設にともなって、本学を取り巻く環境は厳しさを増しており、今後もこの厳しい状況が続くことが予想される。学力上位層、文系層の獲得を図り本学のプレゼンスをより向上させる取り組みが必要であると考えます。

### (2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

この東海圏では自動車産業に代表される近代以降隆盛を誇っていた工業界の影響が大きい時代も続いたが、21世紀を迎えた現代社会を取り巻く環境は、工業の視点だけでは解決しないことが露呈してきてもいる。

そもそも「建築学」の領域は古くから、工学の枠に収まるものではなく、理系・文系・芸術系のすべての要素が含有されており、欧米の大学では、大学での建築学教育にあたり、日本のような工学部等の他学問分野との小学科方式をとらずに「建築学部」としているところがほとんどである。本学では、「建築学」が構造や材料などの工学的要素はもちろんの事、建築史やデザイン史などの文系的要素、美しさやデザインなどの芸術系要素を兼ね備えた総合的な学問であったことと、さらに現代的な要素として、環境共生や地域再生、防災復興や修景保存なども加わりつつあるこの分野は、ますます工学だけではカバーしきれない幅広い学問領域になっており、それらに柔軟に対応する教育環境の整備が必要であると考えます。

### (3) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

現在の4つのコース(建築コース、インテリアデザインコース、かおりデザインコース、土木・環境コース)からなる工学部建築学科を母体とし、建築学部建築学科を

設置する。4つのコースで行われてきた、充実した実学教育と研究を継承しつつ、それらのコースを横断しながら「建築学」に関連する様々な分野の知識を身につけることで、時代や社会の変化にも対応できる、未来を変える人材の育成を図ることで、時代と社会の要請に応じていくとともに工学部に縛られない文系層にも訴求していく。

建築学部建築学科の入学定員は、基礎となる既設学部学科の工学部建築学科の過去5年間の入学者が、入学定員190人を確保できていること及び近隣競合大学の建築学系の学科においても志願倍率が安定しており、入学者もおおむね確保されていることから、190人に設定する。

納付金は、教育研究環境の充実及びインフラ設備の維持更新に対応でき、かつ、中長期の視点で健全な財務基盤を構築できる金額を設定した。また、下図の記載に示すように、近隣競合校の納付金状況も勘案し、初年度納付金は競合校より低いレベルに抑えている。4年間の在学時納付金と比べても、競合校より低いレベルである。以上から、適切な納付金額であると判断している。

		初年度	2年度	3年度	4年度	在学時納付金
大同大学	入学金	300,000				300,000
建築学部建築学科	授業料等	1,285,000	1,315,000	1,345,000	1,375,000	5,320,000
愛知工業大学	入学金	250,000				250,000
工学部建築学科	授業料等	1,340,000	1,370,000	1,400,000	1,430,000	5,540,000
中部大学	入学金	280,000				280,000
工学部建築学科	授業料等	1,340,000	1,360,000	1,380,000	1,400,000	5,480,000

※他大学の入学金・授業料等は、2023年4月現在の各大学のホームページから記載

#### (4) 学生確保の見通し

##### ア. 学生確保の見通しの調査結果

###### 前身の工学部建築学科の入試実績による学生確保の見通し

建築学科の志願者数・志願倍率は、実人数ベースで平成30(2018)年度830人(5.09倍)、令和元(2019)年度1,116人(6.76倍)、令和2(2020)年度1,240人(7.51倍)、令和3(2021)年度1,034人(5.44倍)、令和4(2022)年度854人(4.49倍)と推移した。令和3(2021)年度から入学定員を25名増員しており、志願倍率は4.5倍付近にある。

次に、入学者数は増員後の入学定員190人に対し、令和3(2021)年度207人、令和4(2022)年度216人であり、入学定員を確保できている。【資料1】

##### イ. 新設学部等の分野の動向

###### イー1 全国の土木建築工学関係学科の志願動向

全国の土木建築工学関係学科における志願者数は、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度について見ると、142,923人から144,976人と増加している。

入学者数は、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までの過去5年間で、13,000人~14,000人の間で推移し、志願者数を入学者数で除した競争率は平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までの過去5年間は、10倍~12倍の間で推移し

ている。【資料 2】

## イー 2 全国の建築学部を名称とする学部の志願動向

全国の建築学部を名称とする学部は、平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度までに 6 校で新設されており、志願者数では、26,102 人から 32,233 人へ、入学者数では、1,424 人から 2,389 人へと増加している。全体の入学定員充足率については、各年度とも 100%を超えており、特に 2022 年度においては、111.79%となっている。

【資料 3】

## イー 3 近隣大学の建築学系の志願動向

建築学系の学科を設置する近隣大学の一般入試における志願者数・志願倍率を、平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度について見ると、志願者数では、6,500 人から 8,000 人を推移しており、志願者数を募集人員で除した志願倍率も、過去はいずれも 10 倍を超えたところで推移している。【資料 4】

以上のことから、建築学系の全国での競争率や近隣大学の一般入試における志願倍率は高い水準で推移しており、建築学部を名称とする学部の入学定員充足率も高いことから、建築学系の志願状況は好調であり、入学者確保も可能であると判断することができる。

## ウ. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

### ウー 1 全国の 18 歳人口の動向

今後の学生確保の見通しを検討する上で、最も重要な要素である 18 歳人口の推移を確認すると、全国の 18 歳人口の動向は【資料 5】に示すとおり令和 6（2024）年度に一時的に 3 万人程度減少するものの、令和 8（2026）年度までは、横ばいで推移した後、令和 9（2027）年度以降通減し続け、令和 14（2032）年度には 102 万人まで減少することが予想される。令和 5（2023）年度の指数を 100 とすると、令和 14（2032）年度には 93.29 まで減少する。

### ウー 2-1 東海三県における 18 歳人口の動向と本学建築学科への入学者比率

【資料 6】は、令和 5（2023）年度から令和 14（2032）年度までの東海三県の 18 歳人口の推移を記載したものであり、令和 5（2023）年度の 18 歳人口は 104,913 人に対し令和 14（2032）年度は 97,042 人と、約 8,000 人弱減少し、令和 5（2023）年度の指数を 100 とすると令和 14（2032）年度は 92.49 まで減少し、全国の 18 歳人口の動向とほぼ同様の傾向を示している。

東海三県(愛知県、岐阜県、三重県)からの本学の建築学科への入学者の比率【資料7】は、平成30(2018)年度92.07%、令和元(2019)年度92.95%、令和2(2020)年度90.18%、令和3(2021)年度91.30%、令和4(2022)年度93.05%である。なお、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までを平均すると約91%となり、本学の入学者確保には重要な地域と考える。

## ウー2ー2 東海三県における進学動向

東海三県の4年制大学への進学率【資料8】は、令和4(2022)年度で愛知県58.50%、岐阜県53.32%、三重県48.58%、東海三県の合計(加重平均)では55.98%である。令和4(2022)年度の全国55.19%に対し、愛知県で3.31ポイント、東海三県で0.79ポイント高い。

東海三県の県内残留進学率【資料9】は、令和4(2022)年度において愛知県71.6%、岐阜県21.7%、三重県21.6%であり、愛知県は、東海三県内でも高い水準にある。更に、各都道府県の県内残留進学率【資料10】においても、愛知県は、過去5年間全国1位の水準にある。

愛知県に隣接する岐阜県及び三重県から愛知県内の大学に進学する高校生の割合(以下「流入進学率」と略記。)**【資料11】**は、令和4(2022)年度において、岐阜県から愛知県で47.3%、三重県から愛知県で37.2%である。また、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度においても、同様の傾向となっている。

以上のことから、本学が立地する愛知県は、進学率、県内残留進学率及び流入進学率が良好であり、本学への入学志願者の確保は充分に見込まれると判断することができる。

## エ. 競合校の状況

### 近隣競合大学の志願動向

近隣競合大学の設定は、東海三県下の建築系の学科を設置する私立大学の中から地域性(通学可能範囲等)を勘案し、選択した。

建築学系の学科を設置する近隣競合大学の志願者数・志願倍率を、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度について見ると、志願者数では、6,500人から8,000人を推移しており、志願倍率も、過去はいずれも10倍を超えたところで推移している。**【資料4】**

次に、入学者数・定員超過率を、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度についてみると、入学者数は1,700人前後の一定の水準で推移し、定員超過率では1.05倍

前後で推移している。【資料 12】

以上のことから、競合する近隣競合大学の建築学系の学科では、志願倍率は高い水準で推移し、入学者も確保されており、新設する建築学部の志願者数も確保は可能であると判断することができる。

## オ. 既設学部等の学生確保の状況

建築学科以外の本学各学科の平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度の各志願者数・志願倍率は、令和 2（2020）年度を境に下降している。入学者における定員超過率については、令和 2（2020）年度及び令和 3（2021）年度に 0.9 倍代になる学科があったものの、令和 4（2022）年度は 1.0 倍を下回る学科はなかった。【資料 13】

以上のこと及びアで述べたことから、既設学部等では、入学者も確保されており、新設する建築学部においても定員を確保することは可能であると判断することができる。

### （5）学生の確保に向けた具体的な取組状況

本学では、入学志願者増加に向け、高校生及び高校教員への情報提供並びに社会への情報発信など、積極的な広報活動を教職員一体となって取り組んでいる。

## ア. 高校生を対象とした広報活動

オープンキャンパスとして、学部・学科の紹介、入学試験案内、ミニ講義、模擬実験・実習、キャンパス案内、個別相談（推薦対策・一般試験対策等）を、毎年 5 月から 10 月にかけて年 3 回開催しており、高校生の参加者は年々増加傾向にある。

【資料 14】

## イ. 高校教員を対象とした入試説明会

本学独自の「入試説明会」を、本学・豊橋・岐阜・三重の 4 会場で行っている。説明会では、学長、副学長による建学の精神、大学理念、入試部長による具体的な学生募集、キャリアセンター長による就職支援及び就職実績を、高校の進路担当教員にそれぞれ詳細に説明するほか、本学関係者との情報交換も積極的に行っている。

【資料 15】

## ウ. 高校訪問

本学への受験者並びに入学者の状況を踏まえ、東海三県を中心に教職員が年間を通

じて各高校を訪問し、教育内容・特色、入学試験実施状況及び当該高校の卒業生の修学状況等を説明し、本学への理解を深めていただくよう努めている。【資料 16】

## エ. その他大学広報及び募集広報

本学の教育内容・就職状況などの情報発信は、大学のホームページ（大学ポートレートを含む）で積極的に行っている。また、マスメディアを利用した大学 PR 広告の発信も積極的に行っている。更に、高校生が利用する SNS（twitter・インスタグラム）等による情報発信にも努め、幅広く広報活動を展開している。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

#### 【建築学部建築学科】

建築学部建築学科では、「建築及び都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成する」という従来の工学部建築学科においての養成する人材像を基本とし、さらに「建築学」が古くから、工学的要素だけでなく、文系的要素、芸術的要素を兼ね備えた総合的な学問であったことへの対応と、近年における、環境共生や地域再生、防災復興や修景保存などの現代的な要素も加えた知識と技術を有し、時代や社会の変化にも対応できる、表現力・創造力・構築力を併せ持ち、総合的な判断力を有した、感性を豊かに持ち未来を変えることのできる人材を養成することを目的としている。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

全国的な状況として、「建築・土木・測量技術者」における求人倍率は、過去5年間で、5.94倍～6.69倍で推移しており、他の専門的・技術的職業と比較して高い求人倍率となっている。【資料17】

大卒者の「建設業」における求人倍率は過去5年間で、6.01倍～9.55倍で推移しており、他業種と比較して、高い求人倍率となっている。【資料18】

愛知県の建設・土木技術者の令和元(2019)年度から令和3(2021)年度までの求人倍率は、建設技術者8.57倍～10.61倍、土木技術者25.41倍～30.60倍と高い水準となっている。【資料19】

岐阜県の建築・土木技術者等の令和2(2020)年度から令和4(2022)年度の同時期(1月)における求人倍率は、8.44倍～9.71倍と高い水準となっている。【資料20】

三重県の建築・土木・測量技術者の令和2(2020)年度から令和4(2022)年度の同時期(1月)における求人倍率は、6.13倍～7.57倍と高い水準となっている。【資料21】

本学の学生に対する求人企業数は、「建設業」(日本標準産業分類)に属する企業において、平成30(2018)年度1,828社、令和元(2019)年度1,831社、令和2(2020)年度1,880社、令和3(2021)年度1,924社、令和4(2022)年度2,112社である【資料22】。また、令和4(2022)年度の求人社数2,112社のうち、東海三県に本社を持つ企業は550社である。以上のことから東海圏内における建築学科への求人意欲は高く、建築学部の入学定員190人を大幅に上回る「建設業」からの求人社数があることから、今後においても社会的・地域的な人材需要と求人数は充分に見込まれる。

就職実績は、【資料 23】に示すとおり「建築・土木・測量技術者」（日本標準職業分類）で、平成 30（2018）年度は全就職者数 123 人に対し 93 人（75.6%）、令和元（2019）年度は全就職者数 163 人に対し 128 人（78.5%）、令和 2（2020）年度は全就職者数 148 人に対し 115 人（77.7%）、令和 3（2021）年度は全就職者数 151 人に対し 109 人（72.2%）、令和 4（2022）年度は全就職者数 181 人に対し 127 人（70.2%）となっており、5 年間平均で約 74.8%となっている。なお、各年度の就職率（就職者数/就職希望者数）は、平成 30（2018）年度 97.6%（123 人/126 人）、令和元（2019）年度 96.4%（163 人/169 人）、令和 2（2020）年度 98.7%（148 人/150 人）、令和 3（2021）年度 99.3%（151 人/152 人）、令和 4（2022）年度 100%（181 人/181 人）である。

以上のことから、新設する建築学部は、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえており、かつ（1）で示した人材の養成に関する目的に即した就職実績があることから、社会の人材需要に応えることができると判断する。

## 【添付資料 目次】

- 【資料 1】 本学・工学部建築学科の入試状況
- 【資料 2】 全国の土木建築工学関係学科の志願動向
- 【資料 3】 全国の建築学部を名称とする学部の志願者・入学者動向
- 【資料 4】 建築学系 近隣競合大学（一般入試）募集人員・志願者数・志願倍率
- 【資料 5】 全国の 18 歳人口動向
- 【資料 6】 東海三県の 18 歳人口動向
- 【資料 7】 本学の建築学科に係る東海三県の志願者数・入学者数
- 【資料 8】 東海三県の大学（学部）への進学率
- 【資料 9】 東海三県の県内残留進学率
- 【資料 10】 各都道府県の県内残留進学率（各年度上位 5 位）
- 【資料 11】 岐阜県及び三重県からの愛知県への進学率
- 【資料 12】 建築学系 近隣競合大学 入学定員・入学者数・定員超過率
- 【資料 13】 本学の建築学科以外の各学科の入試状況
- 【資料 14】 本学が実施した高校生を対象とするオープンキャンパス参加人数
- 【資料 15】 本学が実施した高校教員を対象とする入試説明会
- 【資料 16】 本学が実施した高校訪問の実績
- 【資料 17】 専門的・技術的職業における職業別有効求人倍率（パートタイムを除く常用）
- 【資料 18】 大卒者の業種別求人倍率の推移
- 【資料 19】 愛知県の建築技術者及び土木技術者の有効求人倍率推移
- 【資料 20】 岐阜県の建築・土木技術者の有効求人倍率推移
- 【資料 21】 三重県の専門的・技術的職業における職業別有効求人倍率
- 【資料 22】 本学の工学部建築学科の産業別求人社数・就職者数推移
- 【資料 23】 本学の工学部建築学科の職業別就職者数推移

【資料1】 本学の工学部建築学科の入試状況

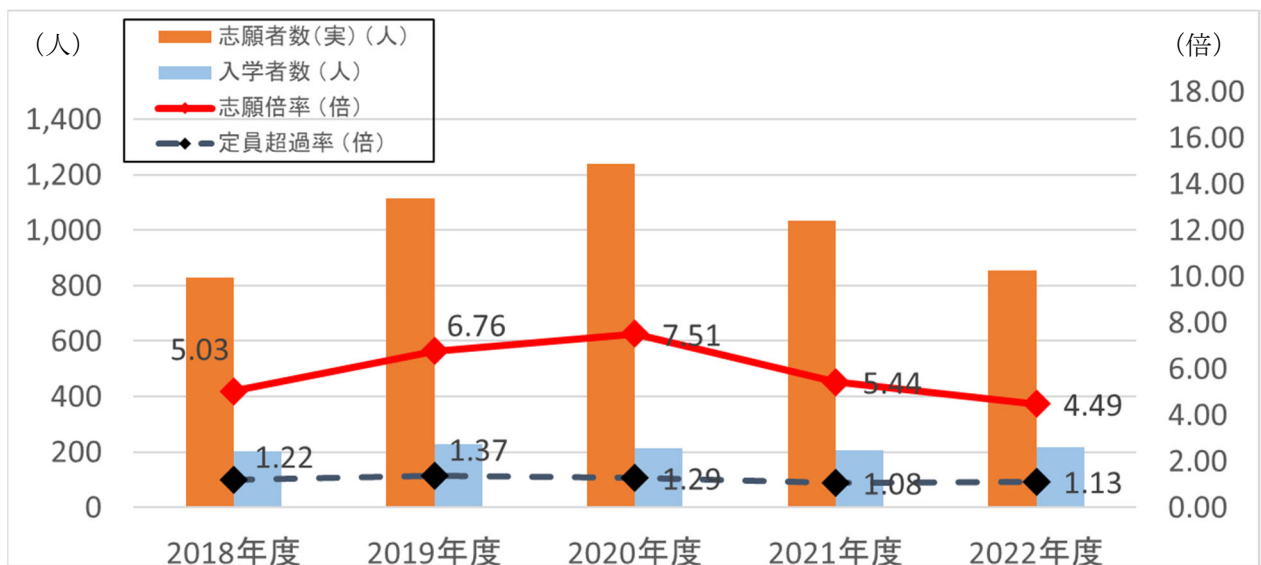
項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員	(人)	165	165	165	190	190
志願者数(延べ)	(人)	1,665	2,393	2,695	2,155	1,716
併願者数(内数)	(人)	982	1,144	1,284	1,159	997
志願者数(実)	(人)	830	1,116	1,240	1,034	854
志願倍率	(倍)	5.03	6.76	7.51	5.44	4.49
受験者数(延べ)	(人)	1,652	2,373	2,661	2,138	1,697
受験者数(実)	(人)	827	1,109	1,231	1,029	849
受験倍率	(倍)	5.01	6.72	7.46	5.41	4.46
合格者数(延べ)	(人)	666	662	701	781	852
合格者数(実)	(人)	483	483	550	574	620
入学者数	(人)	202	227	214	207	216
定員超過率	(倍)	1.22	1.37	1.29	1.08	1.13

出典：本学の入学試験結果（平成30（2018）年度～令和4（2022）年度）

備考：(1)志願倍率 = 志願者数(実) ÷ 入学定員（小数点第3位を切捨て）

(2)志願倍率 = 志願者数(実) ÷ 入学定員（小数点第3位を切捨て）

(3)定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員（小数点第3位を切捨て）



【資料2】 全国の土木建築工学関係学科入学者動向

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	(人) 142,923	148,816	150,465	136,483	144,976
入学者数	(人) 13,400	13,003	13,030	13,085	13,598
競争率	(倍) 10.66	11.44	11.54	10.43	10.66

出典：学校基本調査「関係学科別大学入学状況」

備考：学系区分「土木・建築工学」区分に基づき本学で抽出し集計

【資料3】全国の建築学部を名称とする学部の志願者・入学者動向

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
集計学部数	5	5	8	9	11
入学定員 (人)	1,315	1,315	1,655	1,787	2,137
志願者数 (人)	26,102	28,342	28,648	28,424	32,233
入学者数 (人)	1,424	1,352	1,806	1,883	2,389
定員充足率 (%)	108.29	102.81	109.12	105.37	111.79

出典：日本私立学校振興・共済事業団 私立大学・短期大学等入学志願動向 「5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」  
備考：平成30年度～令和4年度の提供データから学部名「建築学部」の値を抽出し作成

【資料4】建築学系 近隣競合大学（一般入試）募集人員・志願者数・志願倍率

大学名・学部名・学科名		2018年度				2019年度				2020年度			
		入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率
		(人)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(人)	(倍)
愛知工業大学	工学部 建築学科	220	118	950	8.05	220	115	1,071	9.31	220	113	1,150	10.17
	工学部 土木工学科	120	64	796	12.43	120	64	798	12.46	120	62	867	13.98
中部大学	工学部 建築学科	110	43	667	15.51	110	43	636	14.79	110	50	593	11.86
	工学部 都市建設工学科	80	30	286	9.53	80	30	460	15.33	80	33	381	11.54
名城大学	理工学部 建築学科	145	60	1,210	20.16	145	60	1,271	21.18	145	60	1,319	21.98
	理工学部 社会基盤デザイン学科	90	40	499	12.47	90	40	585	14.62	90	40	508	12.70
	理工学部 環境創造学科	80	30	504	16.80	80	30	410	13.66	80	30	358	11.93
	都市情報学部 都市情報学科	220	75	651	8.68	220	75	857	11.42	220	75	719	9.58
愛知淑徳大学	創造表現学部 創造表現学科	300	118	1,080	9.15	295	118	1,317	11.16	295	118	1,456	12.33
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科	80	43	248	5.76	80	45	273	6.06	80	46	220	4.78
椋山女学園大学	生活科学部 生活環境デザイン学科	132	38	未公表	未公表	132	38	301	7.92	137	40	277	6.92
合計		1,577	659	6,891	10.45	1,572	658	7,979	12.12	1,577	667	7,848	11.76
大学名・学部名・学科名		2021年度				2022年度							
		入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率				
		(人)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(人)	(倍)				
愛知工業大学	工学部 建築学科	220	113	1,049	9.28	220	113	1,011	8.94				
	工学部 土木工学科	120	62	670	10.80	120	60	510	8.50				
中部大学	工学部 建築学科	110	46	403	8.76	110	46	445	9.67				
	工学部 都市建設工学科	80	32	219	6.84	80	32	293	9.15				
名城大学	理工学部 建築学科	145	60	1,215	20.25	145	60	1,432	23.86				
	理工学部 社会基盤デザイン学科	90	40	493	12.32	90	40	686	17.15				
	理工学部 環境創造学科	80	30	314	10.46	80	30	295	9.83				
	都市情報学部 都市情報学科	220	75	873	11.64	235	85	957	11.25				
愛知淑徳大学	創造表現学部 創造表現学科	295	118	1,110	9.40	295	118	870	7.37				
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科	80	48	165	3.43	80	48	172	3.58				
椋山女学園大学	生活科学部 生活環境デザイン学科	137	40	165	4.12	137	40	216	5.40				
合計		1,577	664	6,676	10.05	1,592	672	6,887	10.24				

出典：旺文社 蛭雪時代（2018年8月号・2019年8月号・2020年8月号・2021年8月号・2022年8月号）「全国大学入試結果」  
備考：「志願倍率」は本学で算出 志願倍率＝志願者数÷募集人員（小数点第3位を切捨て）

【資料5】全国の18歳人口動向

(単位：人)

項目	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
18歳人口	1,097,416	1,063,451	1,090,537	1,092,199	1,084,161
指数	100.00	96.90	99.37	99.52	98.79
項目	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度
18歳人口	1,070,907	1,068,668	1,050,118	1,034,763	1,023,785
指数	97.58	97.38	95.69	94.29	93.29

出典：リクルート進学総研「18歳人口予測 大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」

備考：指数は、2023年度を100として各年度別に本学で算出（小数点第3位を切捨て）

【資料6】東海三県の18歳人口動向

県名	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度
愛知県	69,766	67,500	69,750	70,135	69,617	69,290	69,412	68,350	67,479	66,002
岐阜県	18,656	18,216	18,534	18,212	18,217	17,695	17,835	17,512	17,054	16,539
三重県	16,491	15,777	16,206	16,008	15,858	15,709	15,562	15,380	14,866	14,501
合計	104,913	101,493	104,490	104,355	103,692	102,694	102,809	101,242	99,399	97,042
指数	100.00	96.74	99.59	99.46	98.83	97.88	97.99	96.50	94.74	92.49

出典：リクルート進学総研「18歳人口・進学率・残留率の推移—都道府県別：東海版—」

備考：指数は、2023年度の東海三県の合計を100として各年度合計を本学で算出（小数点第3位を切捨て）

【資料7】本学の建築学科に係る東海三県の志願者数・入学者数

県名	志願者数 ・ 入学者数	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
		人数	全体比	人数	全体比	人数	全体比	人数	全体比	人数	全体比
愛知県	志願者数	1,272	76.39	1,703	71.16	2,046	75.91	1,526	70.81	1,239	72.20
	入学者数	155	76.73	165	72.68	144	67.28	130	62.80	150	69.44
岐阜県	志願者数	179	10.75	235	9.82	254	9.42	231	10.71	190	11.07
	入学者数	20	9.90	30	13.21	33	15.42	35	16.90	37	17.12
三重県	志願者数	100	6.00	231	9.65	185	6.86	190	8.81	118	6.87
	入学者数	11	5.44	16	7.04	16	7.47	24	11.59	14	6.48
合計	志願者数	1,551	93.15	2,169	90.63	2,485	92.20	1,947	90.34	1,547	90.15
	入学者数	186	92.07	211	92.95	193	90.18	189	91.30	201	93.05
全志願者数		1,665	-	2,393	-	2,695	-	2,155	-	1,716	-
全入学者数		202	-	227	-	214	-	207	-	216	-

備考：(1)志願者数は、第一志望の志願者のみを集計

(2)全体比＝志願者数÷全志願者数、入学者数÷全入学者数

【資料8】東海三県の大学（学部）への進学率

項目		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
愛知県	卒業者数	(人)	64,684	64,353	63,287	62,134	60,818
	進学者数	(人)	34,725	34,617	34,821	34,852	35,580
	進学率	(%)	53.68	53.79	55.02	56.09	58.50
岐阜県	卒業者数	(人)	18,240	18,146	17,778	17,565	16,916
	進学者数	(人)	8,868	8,980	8,900	9,081	9,021
	進学率	(%)	48.61	49.48	50.06	51.69	53.32
三重県	卒業者数	(人)	15,695	15,738	15,384	15,116	14,607
	進学者数	(人)	7,055	6,974	7,055	7,078	7,097
	進学率	(%)	44.95	44.31	45.85	46.82	48.58
東海三県 合計	卒業者数	(人)	98,619	98,237	96,449	94,815	92,341
	進学者数	(人)	50,648	50,571	50,776	51,011	51,698
	進学率	(%)	51.35	51.47	52.64	53.80	55.98
全国	卒業者数	(人)	1,056,378	1,050,559	1,037,284	1,012,007	990,230
	進学者数	(人)	524,158	523,466	529,009	534,312	546,589
	進学率	(%)	49.61	49.82	50.99	52.79	55.19

出典：学校基本調査「高等学校卒業後の状況調査-状況別卒業者数-」、「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」

備考1：(1)卒業者数は、「高等学校卒業後の状況調査-状況別卒業者数-」の各年度各都道府県別「計」を記載

(2)進学者数は、「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」の各年度各都道府県別「大学(学部)」を記載

備考2：進学率は、進学者数÷卒業者数×100 を本学で算出(小数点第3位を切捨て)

【資料9】東海三県の県内残留進学率

(単位：%)

県名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
愛知県	71.1	70.7	71.0	71.2	71.6
岐阜県	20.1	21.5	22.2	21.9	21.7
三重県	21.8	22.2	21.9	22.2	21.6

出典：学校基本調査「出身高校の所在地県別入学者数」

備考：県内残留進学率は、県内大学入学者÷同期内進学者合計×100 を本学で算出(小数点第2位を切捨て)

【資料10】各都道府県の県内残留進学率（各年度上位5位）

順位	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	出身校	進学率	出身校	進学率	出身校	進学率	出身校	進学率	出身校	進学率
1	愛知県	71.1	愛知県	70.7	愛知県	71.0	愛知県	71.2	愛知県	71.6
2	北海道	66.9	北海道	67.6	北海道	66.8	東京都	67.6	東京都	67.9
3	東京都	65.6	東京都	65.8	東京都	66.4	北海道	67.3	北海道	67.1
4	福岡県	64.8	福岡県	65.9	福岡県	64.8	福岡県	65.1	福岡県	65.0
5	宮城県	58.3	宮城県	58	大阪府	57.3	大阪府	58.8	大阪府	58.8

出典：学校基本調査「出身高校の所在地県別入学者数」

備考：県内残留進学率は、県内大学入学者÷同期内進学者合計×100 を本学で算出(小数点第2位を切捨て)し、各年度上位5位を抽出

【資料 11】 岐阜県及び三重県からの愛知県への進学率

(単位：%)

県名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
岐阜県	47.4	46.5	47	46.9	47.3
三重県	37.7	37.4	37.5	37.1	37.2

出典：学校基本調査「出身高校の所在地県別入学数」

備考：愛知県への進学率は、愛知県の大学入学数÷岐阜県又は三重県の進学者合計×100を本学で算出(小数点第2位を切捨て)

【資料 12】 建築学系 近隣競合大学 入学定員・入学者数・定員超過率

大学名・学部名・学科名	2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			
	入学定員	入学者数	定員超過率	入学定員	入学者数	定員超過率	入学定員	入学者数	定員超過率	入学定員	入学者数	定員超過率	入学定員	入学者数	定員超過率	
	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(倍)	(人)	(人)	(倍)	
愛知工業大学	工学部 建築学科	220	221	1.00	220	246	1.11	220	243	1.1	220	247	1.12	220	267	1.21
	工学部 土木工学科	120	127	1.05	120	131	1.09	120	139	1.15	120	129	1.07	120	129	1.07
	工学部 建築学科	110	105	0.95	110	117	1.06	110	119	1.08	110	117	1.06	110	117	1.06
中部大学	工学部 都市建設工学科	80	82	1.02	80	81	1.01	80	87	1.08	80	74	0.92	80	76	0.95
	理工学部 建築学科	145	150	1.03	145	147	1.01	145	141	0.97	145	157	1.08	145	156	1.07
名城大学	理工学部 社会基盤デザイン学科	90	82	0.91	90	90	1.00	90	84	0.93	90	93	1.03	90	102	1.13
	理工学部 環境創造学科	80	77	0.96	80	79	0.98	80	79	0.98	80	80	1	80	64	0.8
	都市情報学部 都市情報学科	220	218	0.99	220	219	0.99	220	224	1.01	220	232	1.05	235	247	1.05
	創造表現学部 創造表現学科	300	363	1.21	295	308	1.04	295	318	1.07	295	313	1.06	295	318	1.07
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科	80	86	1.07	80	88	1.1	80	80	1.00	80	87	1.08	80	91	1.13
椋山女学園大学	生活科学部 生活環境デザイン学科	132	149	1.12	132	146	1.1	137	140	1.02	137	149	1.08	137	147	1.07
合計	1,577	1,660	1.05	1,572	1,652	1.05	1,577	1,654	1.04	1,577	1,678	1.06	1,592	1,714	1.07	

【資料 13】 建築学科以外の本学の各学科の入試状況

学部	学科名	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
工学部	機械工学科	入学定員	(人)	120	120	120	120	120
		志願者数	(人)	1,333	1,649	2,020	1,547	1,156
		志願倍率	(倍)	11.10	13.74	16.83	12.89	9.63
		入学者数	(人)	125	131	109	131	169
		定員超過率	(倍)	1.04	1.09	0.90	1.09	1.40
	機械システム工学科	入学定員	(人)	110	110	110	110	110
		志願者数	(人)	603	1,079	1,252	979	681
		志願倍率	(倍)	5.48	9.80	11.38	8.90	6.19
		入学者数	(人)	117	124	103	112	137
		定員超過率	(倍)	1.06	1.12	0.93	1.01	1.24
	電気電子工学科	入学定員	(人)	90	90	90	90	90
		志願者数	(人)	1,213	1,080	1,529	1,125	772
		志願倍率	(倍)	13.47	12.00	16.98	12.50	8.57
		入学者数	(人)	104	99	89	83	105
		定員超過率	(倍)	1.15	1.10	0.98	0.92	1.16
情報学部	情報システム学科	入学定員	(人)	120	120	120	120	120
		志願者数	(人)	1,367	1,926	1,670	1,705	1,670
		志願倍率	(倍)	11.39	16.05	13.91	14.20	13.91
		入学者数	(人)	133	126	117	120	147
		定員超過率	(倍)	1.10	1.05	0.97	1.00	1.22
	情報デザイン学科	入学定員	(人)	110	110	110	110	110
		志願者数	(人)	927	1,011	830	879	726
		志願倍率	(倍)	8.42	9.19	7.54	7.99	6.60
		入学者数	(人)	123	135	120	122	123
		定員超過率	(倍)	1.11	1.22	1.09	1.10	1.11
	総合情報学科	入学定員	(人)	75	75	75	75	75
		志願者数	(人)	274	416	525	491	252
		志願倍率	(倍)	3.65	5.54	7.00	6.54	3.36
		入学者数	(人)	56	78	76	70	78
		定員超過率	(倍)	0.74	1.04	1.01	0.93	1.04

出典：本学の入学試験結果（平成 30（2018）年度～令和 4（2022）年度）

備考：(1) 志願者数は、第一志望の志願者のみを集計

(2) 志願倍率 = 志願者数 ÷ 入学定員（小数点第 3 位を切捨て）

(3) 定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員（小数点第 3 位を切捨て）

【資料 14】 本学が実施した高校生を対象とするオープンキャンパス参加人数 (単位:人)

実施内容	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
春季 ( 5 月)	441	427	中止	中止	451
夏季 ( 7 月)	868	936	中止	775	738
秋季 (10 月)	中止	636	474	337	322
合 計	1,309	1,999	474	1,112	1,511

備考: 各季オープンキャンパス延べ参加者数を記載

【資料 15】 本学が実施した高校教員を対象とする入試説明会 (単位:人)

会 場	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本学会場	75	72	88	86	72
地方会場(豊橋・岐阜・三重)	46	41	中止	中止	中止
合 計	121	113	88	86	72

備考: 入試説明会に参加した高校教員数を記載

【資料 16】 本学が実施した高校訪問の実績 (単位:回数)

県 名	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
愛 知 県	875	885	789	1,043	913
岐 阜 県	303	364	355	375	383
三 重 県	269	354	311	324	291
合 計	1,447	1,603	1,455	1,742	1,587

備考: 延べ高校訪問回数を記載

【資料17】 専門的・技術的職業における職業別有効求人倍率（パートタイムを除く常用）  
（単位：倍）

職業	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
建築・土木・測量技術者	6.18	6.69	5.94	6.10	6.48
開発技術者	2.58	2.42	1.85	1.71	2.01
情報処理・通信技術者	2.61	2.47	1.58	1.39	1.61

出典：一般職業紹介状況（職業安定業務統計）「職業別労働市場関係指標（実数）（平成23年改定）」  
備考：2018年～2022年までのデータを抜粋

【資料18】 大卒者の業種別求人倍率の推移  
（単位：倍）

区分	2019年3月卒	2020年3月卒	2020年3月卒	2021年3月卒	2022年3月卒
建設業	9.55	6.21	6.01	6.40	7.70
製造業	1.97	1.97	1.60	1.71	1.81
流通業	12.57	11.04	7.28	8.12	7.77
金融業	0.21	0.28	0.28	0.21	0.22
サービス・情報業	0.45	0.43	0.34	0.31	0.33

出典：リクルートワークス研究所「ワークス大卒求人倍率調査」  
備考：2019年卒～2022年卒までのデータを抜粋

【資料19】 愛知県の建築技術者及び土木技術者の有効求人倍率推移

職業	2019年度	2020年度	2021年度
建築技術者	9.94	8.57	10.61
土木技術者	25.41	30.60	26.81

出典：愛知労働局「愛知労働局年報（職業安定部編）」  
備考：2019年度～2021年度までのデータを抜粋

【資料20】 岐阜県の建築・土木技術者の有効求人倍率推移

職業	2021年1月	2022年1月	2023年1月
建築・土木技術者等	9.71	8.44	8.93

出典：岐阜労働局「一般職業紹介状況」  
備考：2021年1月、2022年1月、2023年1月のデータを抜粋

【資料21】 三重県の専門的・技術的職業における職業別有効求人倍率

職業	2021年1月	2022年1月	2023年1月
建築・土木・測量技術者	6.73	7.57	6.13

出典：三重労働局「労働市場月報」  
備考：2021年1月、2022年1月、2023年1月のデータを抜粋

【資料22】 本学の工学部建築学科の産業別求人社数・就職者数推移

(単位：社数、人)

区 分	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	求人社数	就職者数	求人社数	就職者数	求人社数	就職者数	求人社数	就職者数	求人社数	就職者数
A 農業， 林業	37		32		42		33		35	
B 漁業	1		1		1				1	
C 鉱業， 採石業， 砂利採取業	3		5		3		7		8	
D 建設業	1,828	77	1,831	111	1,880	94	1,924	94	2,112	103
E 製造業	2,184	3	2,255	2	2,130	6	2,079	3	2,523	10
F 電気， ガス， 熱供給， 水道業	22		30		29		23		30	2
G 情報通信業	1,744		1,670	2	1,466	1	1,422	2	1,640	2
H 運輸業， 郵便業	365	2	384	3	362	1	339	3	411	1
I 卸売， 小売業	2,424	6	2,385	6	2,153	4	1,942	8	2,248	13
J 金融業， 保険業	167		180		174		169		177	
K 不動産業， 物品賃貸	406	4	372	4	342	3	317	3	389	7
L 学術研究， 専門・技術， サービス業	775	25	783	25	750	25	754	21	839	24
M 宿泊業， 飲食サービス業	366		364	1	294		208	1	284	1
N 生活関連サービス， 娯楽業	269	1	229		205		174	2	216	
O 教育・学習支援	238		228		217	1	242	2	292	2
P 医療， 福祉	1,333		1,383		1,336		1,300	2	1,432	
Q 複合サービス事業	97		92		96		73		90	
R サービス業	758	3	774	2	714	5	664	4	832	4
S 公務	97	2	81	7	103	8	146	6	164	11
上記以外			2						3	1
合計	13,114	123	13,081	163	12,297	148	11,816	151	13,726	181

【資料23】 本学の工学部建築学科の職業別就職者数推移

(単位：人)

職業分類	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
a管理的職業従事者	2		1	2	1
b専門的・技術的職業従事者	99	135	120	117	148
b1研究者					1
b2農林水産技術者					
b3・4製造技術者 (*1)	3	2	3	3	10
b5建築・土木・測量技術者	93	128	115	109	127
b6情報処理・通信技術者	1	3			2
b7その他技術者	1	2		4	7
b8教員			1		1
b9医，歯科，獣医，薬剤師					
b10保健，助産，看護師					
b11医療技術者					
b12その他保健医療従事者					
b13美術，写真，デザイナー等	1		1		
b14その他				1	
c事務従事者	4	3	4	7	5
d販売従事者	15	22	19	12	19
eサービス職業従事者	1	1	2	5	3
f保安職業技術者					1
g農林漁業従事者					
h生産工程従事者	1				
i輸送・機械運転従事者					
j建設・発掘従事者					
k運搬・清掃等従事者					
上記以外	1	2	2	8	4
合計	123	163	148	151	181

備考：\*1は、「b3製造技術者（開発）」と「b4製造技術者（開発除く）」を「b3・4製造技術者」として本学で集計して記載

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
1	学長	ワナベ シヅ子 渡邊 慎一 <令和5年4月>		博士 (工学)		大同大学 学長 (令5.4~令8.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(建築学部 建築学科)													
調書 番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数	
1	専	教授 (学長)	ワタベ シンイチ 渡邊 慎一 <令和6年4月>		博士 (工学)		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ 建築設計1 環境工学2 環境工学3 環境評価演習 セミナー1 セミナー2 卒業研究	1前 1前 2前 2後 3前 3後 3後 4前 4通	1 0.1 3 4 2 2 2 2 6	1 1 1 2 1 1 1 1 1	大同大学 学長 (令5.4)	5日	
2	専	教授	ウノ ススム 宇野 享 <令和6年4月>		工学士		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ 建築計画2 建築設計3 総合空間設計1 総合空間設計2 セミナー1 セミナー2 卒業研究	1前 1前 2前 3前 3後 4前 3後 2前 4前 4通	1 0.1 4 3 3 3 2 2 6	1 1 2 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (平18.4)	5日	
3	専	教授	キタナ ナオ 北田 尚哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		かおりデザイン入門セミナー 嗅覚測定法 消臭原理 悪臭防止法 プロジェクト演習3 プロジェクト演習4 プロジェクト演習5 かおりデザイン演習4 生活環境評価演習2 におい・かおり測定演習3 セミナー1 セミナー2 卒業研究	1前 2前 2後 2後 2後 3前 3後 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4通	1 4 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (令2.4)	5日	
4	専	教授 (専攻主任)	シマダ ヨシタケ 嶋田 喜昭 <令和6年4月>		博士 (工学)		計画数理 ドボクの計測・調査 都市空間インフラ入門セミナー 都市環境プロジェクト実習 地域・都市計画 交通計画 都市デザイン実習 エクセレントセミナー 学びとキャリア 総合土木工学 道路空間設計 総合セミナー1 総合セミナー2 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2前 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 1 2 2 2 1 2 2 3 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (平9.4)	5日	
5	専	教授	スミ テヲキ 鷲見 哲也 <令和6年4月>		博士 (工学)		ドボクの計測・調査 都市空間インフラ入門セミナー 流域環境学 流れ学1 流れ学2 河川学 エクセレントセミナー 学びとキャリア 防災論 総合土木工学 総合セミナー1 総合セミナー2 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 1 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (平18.4)	5日	
6	専	教授 (副学長)	タナハシ ヒデアキ 棚橋 秀行 <令和6年4月>		博士 (工学)		ドボクの計測・調査 都市空間インフラ入門セミナー 地盤工学1 地盤工学2 地盤工学3 応用数学 学びとキャリア 応用地質学 エクセレントセミナー 総合土木工学 防災論 総合セミナー1 総合セミナー2 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (平12.4)	5日	
7	専	教授	ナカノ タカミツ 中島 貴光 <令和6年4月>		博士 (美術)		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ 造形基礎実習 インテリア計画1 インテリア設計2 建築設計2 建築プレゼンテーション演習 デジタルファブリケーション演習 セミナー1 セミナー2 総合空間設計2 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2後 2後 3前 3後 3後 4前 4前 4通	1 0.1 2 2 3 3 2 2 2 2 3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 教授 (平22.4)	5日	



調書 番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
15	専	准教授	ヒナチ ケイイチ 樋口 恵一 <令和6年4月>		博士 (工学)		ロボットの計測・調査 都市空間インフラ入門セミナー 都市環境プランニング 都市環境プロジェクト実習 測量学同実習1 測量学同実習2 GIS基礎 3D設計基礎 エクセレントセミナー 学びとキャリア GIS演習 インターンシップ(学外研修) 総合土木工学 総合セミナー1 総合セミナー2 卒業研究	1前 1前 1後 1後 1後 2前 3前 3前 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 1 2 2 3 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 准教授 (平29.4)	5日
16	専	准教授	フジモリ シゲル 藤森 繁 <令和6年4月>		博士 (工学)		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ 建築材料 建築環境材料 構造・材料実験 鋼構造 維持・保全工学 セミナー1 セミナー2 卒業研究	1前 1前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4通	1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 准教授 (平23.10)	5日
17	専	准教授	フナシ ニナ 船橋 仁奈 <令和6年4月>		修士 (芸術)		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ インテリア設計1 建築設計1 空間文化論 総合空間設計1 総合空間設計2 セミナー1 セミナー2 卒業研究	1前 1前 2前 2前 2後 3後 4前 3後 4前 4通	1 0.1 3 3 2 3 3 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 准教授 (平29.4)	5日
18	専	准教授	ヨネザワ タカシ 米澤 隆 <令和6年4月>		博士 (工学)		建築・インテリア入門セミナー 建築概論※ 建築計画1 建築設計1 建築設計3 建築企画論 セミナー1 セミナー2 総合空間設計2 卒業研究	1前 1前 1後 2前 3前 3前 3後 4前 4前 4通	1 0.1 2 3 3 2 2 2 3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 准教授 (平28.4)	5日
19	専	講師	キヤマ ヒロマサ 水全 博聖 <令和6年4月>		博士 (工学)		ロボットの計測・調査 都市空間インフラ入門セミナー 構造工学1 構造工学2 構造工学3 建設技術 建設技術演習 維持管理工学 エクセレントセミナー 学びとキャリア RC構造工学 技術者倫理 総合土木工学 総合セミナー1 総合セミナー2 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2前 2前 2前 3前 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 工学部 建築学科 講師 (平14.4)	5日
20	兼任	教授	イマイ ケンジ 今井 健二 <令和6年4月>		博士 (理学)		ファースト・イヤー・セミナー 基礎物理A 基礎物理B	1前 1後 2前	2 2 2	2 1 1	大同大学 教養部 教授 (平11.4)	
21	兼任	教授	カトケ ツクシ 加藤 聡一 <令和6年4月>		修士 (教育学)※		教育原理 教育社会学 職業指導1 職業指導2	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	大同大学 教養部 教授 (令3.4)	
22	兼任	教授	カニヤ ケイタ 神谷 康夫 <令和6年4月>		文学士		ファースト・イヤー・セミナー	1前	2	2	大同大学 教養部 教授 (令3.4)	
23	兼任	教授	コシノ アキラ 小西 章典 <令和6年4月>		修士 (文学)※		文学A 文学B 英語スキル1 英語スキル2 資格英語	1・2・3前 1・2・3後 1前 1後 2前	6 6 4 4 4	3 3 2 2 2	大同大学 教養部 教授 (平14.9)	
24	兼任	教授	サトウ ヒロミ 齋田 浩見 <令和6年4月>		博士 (人間・環 境学)		現代物理学1 現代物理学2 力学1 力学2 力学3	2前 2後 1前 1後 2前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	大同大学 教養部 教授 (平15.4)	
25	兼任	教授	ダイチケイ ケンジ 大東 憲二 <令和8年4月>		博士 (工学)		地盤環境工学 環境アセスメント	3前 3前	2 2	1 1	大同大学 情報学部 総合情報学科 教授 (平8.4)	
26	兼任	教授	タカヤマ ケイ 高山 努 <令和6年4月>		博士 (理学)		化学基礎1 化学基礎2 基礎工学実験	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	大同大学 教養部 教授 (平18.4)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
27	兼任	教授	タナ ヒロマサ 田中 宏昌 <令和6年4月>		博士(理学)		化学1 化学2	1前 1後	2 2	1 1	大同大学 教養部 教授 (平30.4)	
28	兼任	教授	ナリタ シュンイチロウ 成田 淳一郎 <令和6年4月>		博士(理学)		数学基礎 解析学3 線形代数3 代数系入門 基礎数学 세미나	1前 2前 4前 4後 1前	4 2 2 2 1	2 1 1 1 1	大同大学 教養部 教授 (昭63.4)	
29	兼任	教授	ハトリ フミコ 服部 文彦 <令和6年4月>		国際学 修士		哲学A 哲学B 人類学A 人類学B	1・2・3前 1・2・3後 2・3前 2・3後	6 6 4 4	3 3 2 2	大同大学 教養部 教授 (昭62.4)	
30	兼任	教授	ハラナ ヒロシ 原科 浩 <令和6年4月>		博士(理学)		基礎工学実験 自然科学概論A	2前 1・2・3前	2 6	1 3	大同大学 教養部 教授 (平14.4)	
31	兼任	教授	ヒラベヤシ ケンゾウ 平林 健治 <令和6年4月>		博士(学術)		英語スキル1 英語スキル2 資格英語	1前 1後 2前	4 4 4	2 2 2	大同大学 教養部 教授 (平23.9)	
32	兼任	教授	フタムツ トシヒデ 二村 俊英 <令和6年4月>		博士(理学)		基礎数学セミナー 解析学2 応用解析1 応用解析2 数学基礎 解析学3	1前 1後 2前 2後 1前 2前	1 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大同大学 教養部 教授 (平16.4)	
33	兼任	教授	マツイ トヨシキ 松井 豊次 <令和6年4月>		文学修士、 修士(教育学)		英語スキル1 英語スキル2	1前 1後	4 4	2 2	大同大学 教養部 教授 (平15.4)	
34	兼任	教授	ナカノ クニキ 柳原 克行 <令和6年4月>		博士(法学)		政治学A 政治学B 法学A 法学B 課題探求セミナー 現代社会論A	1・2・3前 1・2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3前	6 6 4 4 4 4	3 3 2 2 2 2	大同大学 教養部 教授 (平14.10)	
35	兼任	教授	ヤマダ ユウタ 山田 雄大 <令和6年4月>		修士(学術)※		スポーツ実技A スポーツ実技B スポーツと健康の科学B 健康科学A 健康科学B	1前 1後 3後 1・2・3前 1・2・3後	4 4 1 4 2	4 4 1 2 1	大同大学 教養部 教授 (平24.4)	
36	兼任	准教授	ウエノ コウヘイ 上野 康平 <令和6年4月>		博士(人間・環境学)		線形代数2 幾何学1 幾何学2 解析学1	1後 3前 3後 1前	4 2 2 4	2 1 1 2	大同大学 教養部 准教授 (平26.4)	
37	兼任	准教授	アノ ヤスシキ 阿部 康之 <令和6年4月>		博士(理学)		応用解析3 応用解析4 線形代数1 解析学1 常微分方程式	4前 4後 1前 1前 2後	2 2 1 2 2	1 1 2 1 1	大同大学 教養部 准教授 (平31.4)	
38	兼任	准教授	コノ マコ 小原 菜穂子 <令和6年4月>		博士(体育学)		スポーツ実技A ファースト・イヤー・セミナー スポーツと健康の科学A 健康科学A スポーツ実技B 健康科学B	1前 1前 3前 1・2・3前 1後 1・2・3後	3 2 1 2 3 4	3 2 1 1 3 2	大同大学 教養部 准教授 (令2.9)	
39	兼任	准教授	マツキ タカフミ 松本 孝文 <令和6年4月>		博士(社会学)		課題探求セミナーB 経済学A 経済学B 社会学A 社会学B 環境と防災A 環境と防災B 社会調査法A 社会調査法B 現代社会論B 課題探究集中講座	2・3後 1・2・3前 1・2・3後 1・2・3前 1・2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3後 1後	4 6 6 6 6 4 4 4 4 4 2	2 3 3 3 3 2 2 2 2 2 1	大同大学 教養部 准教授 (平25.4)	
40	兼任	講師	ナカノ ナツキ 田中 清喜 <令和6年4月>		博士(理学)		数理統計学1 数理統計学2 線形代数1 線形代数2 解析学2 常微分方程式	3前 3後 1前 1後 1後 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大同大学 教養部 講師 (平28.4)	
41	兼任	講師	ヤマウチ ノボル 山内 昇 <令和6年4月>		修士(文学) 修士(学術)		資格英語 実践英語 英語ライティング 英語プレゼンテーション ファースト・イヤー・セミナー	2前 2後 3前 3後 1前	4 1 1 1 2	2 1 1 1 2	大同大学 教養部 講師 (平28.4)	
42	兼任	講師	アノベ マサヒコ 跡部 昌彦 <令和6年9月>		農学士		食品とかおり プロジェクト演習1※ 生活環境評価演習2 生活環境評価演習3	2前 1後 3前 3後	2 0.7 2 4	1 1 1 1	跡部技術士事務所 代表 (平29.1)	
43	兼任	講師	アベ ナホト 阿部 尚仁 <令和7年9月>		博士(薬学)		におい・かおり測定演習1	2後	4	1	岐阜薬科大学 薬学部 講師 (平27.10)	
44	兼任	講師	アヲリ ヤスミ 荒川 保実 <令和7年4月>		高等専門学校卒		におい・かおり測定演習1 におい・かおり測定演習2 におい・かおり測定演習3 嗅覚測定法	2後 3前 3後 2前	4 4 4 1	1 1 1 1	大同大学 非常勤講師 (令4.4)	
45	兼任	講師	アノトウ ケンイチロウ 安藤 健一郎 <令和6年9月>		高等学校卒		応用測量 測量学同実習1 測量学同実習2 建築測量学同実習	2後 1後 2前 4前	2 3 3 2	1 1 1 1	株式会社サンキ 代表取締役 (平30.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
46	兼任	講師	イトウ トシツ 井川 敏満 〈令和8年4月〉		高等学校卒		維持管理工学	3前	2	1	株式会社シビル・デザイン・ツー ワン 保全部 部長 (平27.8)	
47	兼任	講師	イダ ナキ 市田 彰秀 〈令和8年9月〉		学士 (工学)		建築法規	3後	2	1	愛知産業大学 非常勤講師 (令2.4)	
48	兼任	講師	イダ ナキ 一ノ瀬 昇 〈令和6年9月〉		理学士		かおり成分と調香2 かおり成分と調香3	1後 2前	2 2	1 1	ライオン株式会社 (昭51.4)	
49	兼任	講師	イトウ ヒロキ 伊藤 裕貴 〈令和6年4月〉		博士 (数理学)		数値解析1 数値解析2	1前 1後	2 2	1 1	名古屋大学 非常勤講師 (平26.4)	
50	兼任	講師	イトウ フミヲ 伊藤 文徳 〈令和7年4月〉		学士 (工学)		建築生産1 建築生産2	2前 2後	2 2	1 1	株式会社 大林組 リネーアル企画 課長 (平1.4)	
51	兼任	講師	イトウ マト 伊藤 誠 〈令和6年4月〉		工学士		社会基礎設計	1前	3	1	株式会社 中建築設計事務所 取締役副所長 (平8.11)	
52	兼任	講師	イトウ ミチ 伊藤 実花 〈令和6年4月〉		短期大学卒		基礎英語セミナー	1前	1	1	大同大学 臨時補助員 (平17.4)	
53	兼任	講師	イトウ マコ 伊藤 睦子 〈令和8年4月〉		修士 (工学)		住空間論	3前	2	1	伊藤倉庫一級建築士事務所 代表 (平29.4)	
54	兼任	講師	イシイ カヨシ 大岡 隆義 〈令和8年9月〉		修士 (工学)		VR演習	3後	2	1	ゼータ設計株式会社 常務取締役 (令2.4)	
55	兼任	講師	ウヅマキ アキ 浦邊 綾子 〈令和6年4月〉		修士 (心理学)		心理学概論	1前	2	1	愛知医科大学 学生相談室 臨床心理士・公認心理師 (令3.4)	
56	兼任	講師	エドムラ シン 遠藤 智史 〈令和6年9月〉		博士 (薬科学)		プロジェクト演習1※	1後	1.3	1	岐阜薬科大学 生命薬学大講座 講師 (平29.12)	
57	兼任	講師	オシマ ヨシヤ 大嶋 芳康 〈令和6年4月〉		学士 (音楽)		基礎英語セミナー	1前	1	1	大同大学 臨時補助員 (平20.4)	
58	兼任	講師	オオタ ナツキ 太田 和哉 〈令和6年9月〉		農学士		測量学同実習1※ 測量学同実習2※	1後 2前	3 3	1 1	玉野総合コンサルタント株式会社 (昭55.4)	
59	兼任	講師	オオカ マコ 大塚 麻里子 〈令和5年4月〉		学士 (人文科学)		基礎情報処理1 基礎情報処理2 応用情報処理1 応用情報処理2	1前 1後 2前 2後	4 2 2 2	2 1 1 1	愛知淑徳大学 非常勤講師 (平20.4)	
60	兼任	講師	オハシ ケンジ 大橋 健二 〈令和8年4月〉		工学士		道路工学	3前	2	1	日本道路株式会社 (令3.4)	
61	兼任	講師	オガキ テツ 岡崎 哲 〈令和7年4月〉		学士 (文学) 学士 (国際関係論)		教養総合講座A 教養総合講座B	2・3前 2・3後	4 4	2 2	読売新聞中部支社 編集センター次長 (平9.4)	
62	兼任	講師	オグノ リョウ 小木曾 了 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		自然科学概論B 基礎理科セミナー	1・2・3後 1前	6 2	3 2	大同大学 非常勤講師 (令16.4)	
63	兼任	講師	オザリ マサキ 小澤 正樹 〈令和6年4月〉		経済学士		情報リテラシー	1前	3	3	株式会社豊田自動織機 (平30.6)	
64	兼任	講師	オノ イチ 賈 伊明 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		中国語入門1 中国語入門2	1前 1後	1 1	1 1	大同大学 非常勤講師 (令2.4)	
65	兼任	講師	カワヤマ トシキ 葛山 稔晃 〈令和9年4月〉		工学士		まちづくり論	4前	2	1	株式会社対話計画 代表取締役 (平19.6)	
66	兼任	講師	カト ヒロキ 加藤 秀樹 〈令和6年9月〉		博士 (工学)		情報処理2	1後	2	1	豊田都市交通研究所 (平23.4)	
67	兼任	講師	カワイ タケ 川井 大樹 〈令和7年4月〉		学士 (工学)		建築CAD1 建築CAD2	2前 2後	6 6	3 3	川井大樹建築設計事務所 代表 (平28.12)	
68	兼任	講師	キナミ ナミ 岸上 奈美江 〈令和6年9月〉		学士 (教育学)		プロジェクト演習2 かおりデザイン演習2 かおり成分と調香2 かおりデザイン演習5 かおり成分と調香3 かおり成分と調香4 アロマセラピー演習 脱臭性能評価演習	2前 2前 1後 3後 2前 2後 3前 3前	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大同大学 臨時補助職員 (平31.4)	
69	兼任	講師	キヤマ ヒロシ 桐山 久 〈令和8年4月〉		博士 (工学)		地盤環境工学 環境アセスメント	3前 3前	2 2	1 1	東邦ガス株式会社 生産管理部 次長 (平2.9)	
70	兼任	講師	コバヤシ タロウ 小林 高浩 〈令和7年9月〉		農学士		ランドスケープ設計	2後	3	1	株式会社オオバ名古屋支店 (平21.9)	
71	兼任	講師	コマバテ ヒコ 小松原 智子 〈令和7年4月〉		修士 (学術)		キャリア開発2 キャリア開発3	2前 2後	1 1	1 1	栄メンタルクリニック (平21.4)	
72	兼任	講師	コトウキ 早紀 近藤 早紀 〈令和7年4月〉		博士 (工学)		かおりデザイン演習3 生活環境評価演習1 生活環境評価演習2 生活環境評価演習3 嗅覚測定法	2後 2後 3前 3後 2前	2 2 2 4 4	1 1 1 1 1	大同大学 非常勤講師 (平31.4)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
73	兼任	講師	サキ タケ子 佐々木 賢一 〈令和7年4月〉		工学士		地域・都市計画 都市デザイン実習	2前 3前	2 2	1 1	中日本建設コンサルタント株式会社 事業推進室 部次長 (平24.4)	
74	兼任	講師	シマダ タカシ 島田 隆 〈令和7年4月〉		学士 (工学)		ランドスケープデザイン	2前	2	1	島田隆一級建築士事務所 代表 (平28.7)	
75	兼任	講師	ジンドウ トモミ 神藤 とみみ 〈令和6年4月〉		短期大学卒		基礎英語セミナー	1前	1	1	大同大学 臨時補助員 (平20.4)	
76	兼任	講師	セキガチ テツヤ 関口 哲矢 〈令和6年4月〉		博士 (歴史学)		歴史学A 歴史学B	1・2・3前 1・2・3後	6 6	3 3	大同大学 非常勤講師 (平22.4)	
77	兼任	講師	タケキ シンジ 高木 信治 〈令和8年4月〉		修士 (工学)		鋼構造工学	3前	2	1	株式会社エイト日本技術開発 (令3.10)	
78	兼任	講師	タノマ ナスヲ 田島 一成 〈令和7年4月〉		修士 (教育学)		地球科学A 地球科学B	2・3前 2・3後	4 4	2 2	大同大学 非常勤講師 (平21.4)	
79	兼任	講師	チノ ホシノ 崔 豪准 〈令和7年4月〉		修士 (情報学)		認知科学A	2・3前	4	2	大同大学 非常勤講師 (令2.4)	
80	兼任	講師	テヒロ ヒロフネ 出廣 浩明 〈令和6年4月〉		工学士		建築・インテリア図法実習1 建築・インテリア図法実習2	1前 1後	2 2	1 1	株式会社ニッテイ建築設計 東海事務所 所長 (平27.1)	
81	兼任	講師	テラニ ナオキ 寺谷 直輝 〈令和7年4月〉		修士 (人間発達学)		教育心理学	2前	2	1	愛知県立大学 客員共同研究員 (令3.4)	
82	兼任	講師	トリイ ヨシノ 鳥居 佳則 〈令和8年4月〉		専門学校卒		インテリアエレメント演習2	3前	2	1	鳥居デザイン事務所 代表 (平2.2)	
83	兼任	講師	ナカネ ナオ 中根 章雄 〈令和8年9月〉		工学士		技術者倫理	3後	2	1	株式会社大林組 (昭62.4)	
84	兼任	講師	ナカノ カキ 中野 克己 〈令和8年4月〉		高等専門学校卒		G I S基礎 G I S演習	3前 3後	2 2	1 1	kobo Nak 代表 (令3.11)	
85	兼任	講師	ナカヤマ キコ 中山 佳子 〈令和7年9月〉		修士 (学術)		実践英語 英語ライティング 英語プレゼンテーション	2後 3前 3後	1 1 1	1 1 1	大同大学 非常勤講師 (平30.4)	
86	兼任	講師	ノダ ユキヒロ 野田 恭宏 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		情報処理1 かおりデザイン演習1	1前 1後	2 2	1 1	大同大学 非常勤講師 (平17.4)	
87	兼任	講師	ノリタケ ヨシエ 則竹 登志恵 〈令和7年9月〉		農学士		ランドスケープ設計	2後	3	1	玉野総合コンサルタント株式会社 空間デザイン部 部長 (平3.4)	
88	兼任	講師	ノボト マヨコ 橋本 雅好 〈令和8年4月〉		博士 (工学)		環境心理学	3前	2	1	相山女子園大学 生活科学部 准教授 (平17.4)	
89	兼任	講師	ノベ ヒロコ 長谷 博子 〈令和7年9月〉		博士 (人間生活科学)		かおりデザイン演習5 かおり成分と調香4 アロマセラピー演習	3後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	大同大学 非常勤講師 (平24.4)	
90	兼任	講師	ノベガワ アキコ 長谷川 明子 〈令和7年4月〉		博士 (工学)		環境生態学同実習 ピオトップ設計	2前 2後	2 3	1 1	大同大学 非常勤講師 (平18.4)	
91	兼任	講師	ノボリ ナオ 服部 直也 〈令和8年4月〉		学士 (工学)		維持管理工学	3前	2	1	株式会社シルビデザインツワーン (平22.4)	
92	兼任	講師	ノベシロ ヨシ 林 羊歯代 〈令和7年4月〉		教育学修士		色彩論	2前	2	1	愛知産業大学 造形学部 教授 (平4.4)	
93	兼任	講師	ノハラ ヒデアキ 原 英光 〈令和6年4月〉		学士 (工学)		建築・インテリア図法実習1	1前	2	1	原英光一級建築士事務所 代表 (平14.5)	
94	兼任	講師	ノベ マサノブ 伴 政憲 〈令和6年9月〉		工学士		建築・インテリア図法実習2	1後	2	1	有限会社 A. SITE 取締役 (平14.1)	
95	兼任	講師	フクモト ナスギ 福本 和哉 〈令和6年4月〉		修士 (環境学)		心理学A 心理学B	1・2・3前 1・2・3後	6 6	3 3	名古屋大学 技術補佐員 (平20.4)	
96	兼任	講師	フジノリ シゲヒト 藤森 幹人 〈令和9年4月〉		工学士		都市計画	4前	2	1	株式会社対話計画 代表取締役 (平19.6)	
97	兼任	講師	ホノダ ヒロシ 細田 宏 〈令和8年9月〉		理学士		地盤設計技術	3後	2	1	応用地質株式会社 社会インフラ事業部 参事 (昭60.5)	
98	兼任	教授	ホリウチ マサト 堀内 将人 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		環境工学基礎 都市衛生工学 かおり成分と調香1 資源循環工学	1後 2後 1前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	大同大学 非常勤講師 (平10.4)	
99	兼任	講師	マツバヤシ ショウタ 松林 翔太 〈令和7年9月〉		修士 (情報学)		認知科学B	2・3後	4	2	名古屋大学 特任助教 (平27.10)	
100	兼任	講師	マツモト タカシロ 松本 貴裕 〈令和8年9月〉		学士 (工学)		構造設計演習	3後	2	1	有限会社ワカマツ構造設計 (平18.4)	
101	兼任	講師	マノ ユキコ 真野 由紀子 〈令和6年9月〉		美術修士		建築デザイン基礎実習 インテリアデザイン基礎実習	1後 1後	2 2	1 1	大同大学 非常勤講師 (平12.4)	

調書 番号	専任等区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
102	兼任	講師	マヂ ハスム 丸地 弾 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		建築・インテリア図法実習 1 建築・インテリア図法実習 2	1前 1後	2 2	1 1	丸地建築設計事務所 代表 (平16.9)	
103	兼任	講師	ミズノ ケイゴ 水野 啓示朗 〈令和7年9月〉		博士 (工学)		骨組の解析法 振動と塑性解析	2後 3後	2 2	1 1	大同大学 非常勤講師 (平17.4)	
104	兼任	講師	マテ マサコ 村瀬 正彦 〈令和7年4月〉		修士 (工学)		CAD演習 1 CAD演習 2	2前 2後	2 2	1 1	設計事務所スマイロ (平18.4)	
105	兼任	講師	モリ マサキ 森 正樹 〈令和8年9月〉		修士 (工学)		輸送システム	3後	2	1	名古屋鉄道株式会社 土木部土木課 課長 (平10.4)	
106	兼任	講師	モロイ マスト 諸井 遼人 〈令和8年4月〉		工学士		におい・かおり測定演習 2	3前	4	1	近江オドエアーサービス株式会社 技術部 部長 (平29.4)	
107	兼任	講師	ヤガ マサカ 矢田 全孝 〈令和6年4月〉		学士 (工学)		建築の仕組み 建築構法	1前 1後	2 2	1 1	ヤダマサタカ DESIGN OFFICE 代表 (平16.4)	
108	兼任	講師	ヤマグチ カツノ 山口 貴徳 〈令和8年4月〉		修士 (法学)		まちづくり関係法規	3前	2	1	名鉄不動産株式会社 (平20.7)	
109	兼任	講師	ヤマグチ マコト 山口 一 〈令和6年9月〉		理学博士		生活環境学 2 生活環境評価演習 3 キャリア開発 4 プロジェクト演習 3 プロジェクト演習 4 プロジェクト演習 5	1後 3後 3前 2後 3前 3後	2 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大同大学 非常勤講師 (平29.4)	
110	兼任	講師	ヤマモト シゲル 山元 滋 〈令和7年4月〉		工学士		建設マネジメント 建設技術	2後 2前	2 2	1 1	清水建設株式会社 (昭58.4)	
111	兼任	講師	ヨコヤマ エフオ 横山 悦生 〈令和8年4月〉		教育学修士		工学概論	3前	2	1	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授 (平22.4)	
112	兼任	講師	ヨシカワ ムミ 吉川 由美 〈令和6年9月〉		学士 (福祉経営 学)		キャリア開発 1	1後	1	1	名古屋社会福祉協議会 (令2.7)	
113	兼任	講師	タムラ ユカ 田村 ユカ 〈令和7年4月〉		修士 (環境学)		生物学A 生物学B	2・3前 2・3後	4 4	2 2	株式会社ピーススタッフ (令4.8)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。